

会 議 録

会議の名称	令和5年度第1回つくば市生涯学習審議会		
開催日時	令和5年(2023年)8月21日(月)開会午前10時 閉会正午		
開催場所	つくば市役所2階 201会議室		
事務局(担当課)	教育局生涯学習推進課		
出席者	委員	武田 直樹委員(会長)、木村 清隆委員(副会長)、飯島 眞市委員、石塚 一夫委員、岡田 克司委員、佐野 洋子委員、鈴木 朱里委員、関 瑞穂委員、田中 秀夫委員、田中 依子委員、中嶋 修委員、長橋 進也委員、根本 典子委員、萩原 武久委員、平野 浩之委員、船橋 秀彦委員、星埜 祥子委員、山崎 誠治委員	
	その他	森田 充教育長	
	事務局	吉沼 正美教育局長、坂田 博之次長、久保田 靖彦次長、澤頭 由紀子生涯学習推進課長、色川 純子課長補佐、渡辺 幹高係長、渡邊 亮太社会教育主事、村上 和宏社会教育主事、尾野 千明主任、川津 里恵係長、山岸 素子主事、佐藤 博社会教育指導員	
公開・非公開の別	<input checked="" type="checkbox"/> 公開	<input type="checkbox"/> 非公開	<input type="checkbox"/> 一部公開
傍聴者数	0名		
非公開の場合はその理由			
議題	(1) 令和4年度第3次つくば市生涯学習推進基本計画進捗状況について (2) 令和5年度第3次つくば市生涯学習推進基本計画事業計画について		

会議録署名人		確定年月日	年 月 日
会議次第第	1 開会 2 教育長挨拶 3 議事 (1) 令和4年度第3次つくば市生涯学習推進基本計画進捗状況について (2) 令和5年度第3次つくば市生涯学習推進基本計画事業計画について 4 その他 5 閉会		
1 開会 事務局	<p>ただいまから令和5年度第1回つくば市生涯学習審議会を開会いたします。</p> <p>はじめに、教育長の森田より挨拶を申し上げます。森田教育長よろしくお願ひいたします。</p>		
2 教育長挨拶 森田教育長	<p>皆さんおはようございます。教育長の森田でございます。本日委員の皆様には大変お忙しい中この生涯学習審議会の方に御参集いただきまして誠にありがとうございます。</p> <p>学校では新型コロナウイルス感染症も5類に移行し、様々これまで中止されていた行事等も順調に進めることができしております。春先も今まで修学旅行、運動会など、子供たちが制限されていたことから解き放たれ、本当に喜んで活動していたことを学校から報告を受けております。</p> <p>今年度の学校づくりは教育大綱を受け、子どもたち全員が幸せを実感できる、そのような園や学校を作ること为目标に進めております。先生たちも非常にその趣旨を</p>		

よく理解して努力しており、様々な活動が順調に進んでいると思っています。

ただ残念なことに不登校児童は、新型コロナウイルス感染症の影響を受けたせいか、かなり増えてしまっている状況です。そのため、今年度は特に中学校全校、義務教育学校全校の校内にフリースクールを設置し、小学校もモデル校6校に設置しました。そのために専任の会計年度職員を配置し、皆で子どもたちの学びを支えようとしています。そして、外部の力もお借りするために、色々なフリースクールに対して援助、支援をするような体制づくり、それからフリースクールを利用する子どもたちには、それぞれに支援する制度も作りしました。

また、地域皆で子どもたちを支えるコミュニティスクールの推進も行っており、ぜひこうした形で、皆が一体となって学校を支え、子どもたちを育てるような体制づくりをこれから進めなければいけないと思っています。

生涯学習関係では、子どもたちを社会と関わらせるような活動も積極的に取り組んでいるところで、以前にもスマートフォンで高齢者の方たちに中学生高校生が指導したり、助けたりする事業を行い、大変喜ばれたことも報告されています。

本日の審議会は次第にもありますが、つくば市生涯学習推進基本計画の進捗と今後の計画について議論をいただく内容になっております。この計画に位置付けられた34の事務事業について、生涯学習に関してのトップランナーである皆さんから忌憚のない御意見をいただ

	<p>な御意見を様々いただければと思っております。</p> <p>最初に一つ目の議事である第3次つくば市生涯学習推進基本計画令和4年度進捗状況について事務局から御説明をお願いいたします。</p>
事務局	<p>—事務局説明実施—</p>
武田会長	<p>ありがとうございます。ただいまの件につきまして、意見、質問等ございましたらお願いいたします。</p> <p>なお、本会議の議事録作成のために、マイクを使っての発言をお願いいたします。また、冒頭にお名前をおっしゃっていただいてから御発言をお願いいたします。挙手にてお願いをいたします。</p>
鈴木委員	<p>ままとーんの鈴木と申します。よろしくお願ひいたします。資料2-1、1ページ目の自動車図書館について、昨年はちょうど私の子供が通っている学校において、昼休みや中休みの時間帯に、自動車図書館が来ていたので、子供がよく本を借りられる状況でありました。</p> <p>今年度に入り、放課後の時間に自動車図書館が来るようになり、なかなか本が借りづらい状況になってきています。小学校の数も多く、調整が難しいかもしれませんが、もし工夫ができるようでしたら、中休みや昼休みの時間に自動車図書館が各学校に来られるようにすると、子供たちが利用しやすいと感じています。御検討をよろしくお願ひいたします。</p>

事務局	<p>ありがとうございます。本日は中央図書館の職員が出席しておりませんので、今の御意見を中央図書館に申し伝えさせていただきたいと思います。</p> <p>逆に質問をしてしまう形になり恐縮ですが、昼休みや中休みだと借りやすく、放課後だと借りづらい理由について、例えば放課後であるとすぐ児童館に行かなければならないから等、鈴木委員のお耳に入っていれば教えていただけると助かります。</p>
鈴木委員	<p>放課後である場合、私の子供が通っている小学校では、集団下校になっているので、下校時間になったら帰らなければなりません。放課後に自動車図書館を利用する場合は、多分親が迎えに来る形で図書館を利用しているようです。</p>
事務局	<p>大変貴重な御意見本当にありがとうございます。</p> <p>中央図書館の自動車図書館事業については、今年度から車を1台1増やし、回る場所をかなり増やしています。</p> <p>一部、今のような夏の暑い時期において中が密閉された暑い空間を作ってしまうということもあり、少しお休みをいただくようなこともあり御迷惑をおかけしているところでございます。</p> <p>いずれにしましても今いただいた御意見は参考にさせていただきますので、どういうふうに工夫ができるのかとい</p>

	<p>うことを、先ほど担当者からも話がありました通り、担当する中央図書館に伝え、検討させていただければと思います。</p>
鈴木委員	<p>どうもありがとうございます。</p>
武田委員長	<p>続いていかがでしょうか。</p>
長橋委員	<p>資料2-2の1-(1)アの部分で、地域交流センターにおけるWi-Fiの環境整備が目標より多く達成できたとあり、目標が3施設で6施設での整備を達成したと記載されていますが、その具体的な施設の場所を教えてください。</p> <p>今後、この施策についてどのように展開していくか、この後の説明があるかもしれませんが、説明できたらお願いしたいと思います。よろしくお願いします。</p>
武田会長	<p>事務局から説明ください。</p>
事務局	<p>御質問ありがとうございます。事務事業を所管する地域支援課が不在であるため、市の公開資料等を調べこの会議の中で可能な範囲でお答えさせていただきます。</p> <p>回答できなかった部分は、後日回答させていただきます。</p>
武田会長	<p>続いていかがでしょうか。</p>

<p>関委員</p>	<p>市民委員の関と申します。最初に令和3年度に対して令和4年度の評価がA評価、S評価ともに増加したことに対しまして、つくば市の皆様に感謝申し上げます。</p> <p>その中で、細かいところですが、資料2-2の8ページ、2-(1)のイに記載のある「家庭教育学級支援事業」について、令和4年度は様々な事業で新型コロナウイルス感染症の影響が収束しつつあるといったこともあり、成果があがっていると思いますが、令和4年度の事業計画において、家庭教育セミナー実施回数の目標が39回に対して、60回も達成できたと記載があります。約1.5倍の達成率になってはいますが、何か理由があったのでしょうか。教えていただきたいと思います。</p>
<p>武田会長</p>	<p>事務局お願いします。</p>
<p>事務局</p>	<p>令和4年度事務事業の目標値39回から実施が60回に増えた経緯については後で回答をさせていただきます。</p>
<p>武田会長</p>	<p>それでは後程よろしく願いいたします。他の質問はいかがでしょうか。感想でも結構です。</p>
<p>石塚委員</p>	<p>石塚です。資料2-2、8ページの一番下に「学校施設開放事業」ということで、小中学校の学校体育館等の</p>

	<p>開放が位置づけられておりますが、私はシルバークラブの会長をしており、荃崎に住んでいますが、荃崎地区には体育館がほとんどありません。</p> <p>そこで、シルバークラブで屋内の事業をするときに、荃崎地区のふれあいプラザは使えますが、少し狭いです。そのため、学校をお借りしたいと考えていたのですが、ここに学校施設の開放について説明があるので、どのような条件で借りることができるのか質問させていただきます。</p>
武田会長	<p>事務局からお願いいたします。</p>
事務局	<p>本日、事務事業を所管する教育施設課が出席しておりませんので、私が回答いたします。</p> <p>学校開放事業についての条件ですが、基本的に営利を目的としないこと、或いは宗教的な目的でないこと等のいくつかの条件はありますが、一般的に公共施設を借りる条件とそれほど相違はありません。</p> <p>ただし、非常に多くの利用希望団体があり、毎年年間スケジュールを決め、その中で抽選のような形になるケースが多々あります。そういった点に御配慮いただきまして、お申し込みいただければと思っております。</p> <p>おそらくシルバークラブが申請できないということはずありません。また、当然生涯学習に寄与するような活動であれば、拒むものではございません。ただ一方で抽選になるほどに希望が多いので、御理解をいただけ</p>

<p>武田会長</p>	<p>ればと思います。どうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>続きましていかがでしょうか。</p>
<p>鈴木委員</p>	<p>ままと一んの鈴木と申します。つくばちびっ子博士について伺います。</p> <p>今年度は新型コロナウイルス感染症による制限が大分解除されて、色々な研究所も事業に参加しやすくなってきたと思います。</p> <p>私の上の子供が小学校1年生の時に新型コロナウイルス感染症が流行する前に初めて参加させていただき、その時に親子ともども「つくば市にこんなに研究所が色々あるんだ！」という感想をもち、楽しく参加させていただきました。</p> <p>その後は、新型コロナウイルス感染症が流行してつくばちびっ子博士がなかなか対面方式で実施できなくなってしまい、動画配信等いろいろな工夫をされている中で、参加させていただいてきましたが、やはり体験をとおして、「こういう仕事があるんだな。」、「こんな研究所があるんだな、すごい！」と思えることが、つくば市の魅力の一つです。これからの子供たちに、つくばではこういうことがいろいろできるよということをもっと広めていってもらいたいなと思います。来年度は、是非とも新型コロナウイルス感染症が流行する前の形式でお願いできればと思っています。</p> <p>また、研究所によっても考え方がおそらくそれぞれで</p>

	<p>あるということで、来場に人数制限を設けていない研究所もあれば、まだいくぶん厳し目にしているところもあるので、そういったところも今後検討していただければと思います。よろしくお願ひいたします。</p>
武田会長	<p>はい、では事務局からお願いします。</p>
事務局	<p>御質問ありがとうございます。生涯学習推進課でつくばちびっ子博士を担当しております。</p> <p>おっしゃっていただいた通り、新型コロナウイルス感染症が5類扱いになり、昨年度よりつくばちびっ子博士において人が大分動いているなということは、教育局でも現地を見ながら感じています。</p> <p>より多く子供たちに現地に行ってもらうことにおける課題としては、研究機関の実施する現地見学がイベント型のものが多いことが挙げられます。常設展示施設のようにいつでも行けることが理想ですが、常設施設を持ってない研究機関においては夏休み期間中の1日や2日間開催というものが多いです。</p> <p>今後は、研究機関とより密にコミュニケーションを取り、7月中旬に子供たちにきちんとパスポートが届いてからどのイベント行こうかよく選べるようにスケジュールを工夫することや、研究所にも実施期間についてお願ひをしていくことに努めたいと考えます。</p> <p>なるべく現地での学びを増やしていけるように努力していきます。</p>

<p>武田会長</p>	<p>今年からつくばちびっ子博士は新たな取り組みを始めたと聞いています。何かコメントありませんか。</p>
<p>事務局</p>	<p>本年度のつくばちびっ子博士については、例年通りの紙のパスポートを使用して現地見学と動画配信で実施するものと、実証的に「つくばちびっこ博士デジタルチャレンジ」という名前で、つくば市立学校の児童生徒が所持している学習者用端末の活用促進のため、端末をもって、研究所に行き、QRコードを読み取ってクイズに答えるタイプの事業を実施しています。</p> <p>デジタルチャレンジでは、紙であればクイズに正解したのか、していないのかわからなかった部分がある場合、その場でわかります。さらに、システムを活用して子供たちの「もう少しこの研究所のことや科学のことを調べてみよう！」という動機づけを行うこともできます。</p> <p>デジタルチャレンジは、実証事業であり、子供たちの反応を見ながら、つくばちびっ子博士の一番の目的である「子供たちが科学に気づきを持つ、科学の世界に入っていく」に近づいていくために一番いい方法を考えながら、今年度の結果をまとめ、来年度事業をより良くしていきたいと考えています。</p>
<p>鈴木委員</p>	<p>ありがとうございます。うちの子供たちの意見としては、やはり現地でスタンプを押す方が楽しいと言っていました。</p>

事務局	<p>スタンプには「押した！」という喜びがあるので、その点はデジタルを活用して、正解した喜びや、研究所を回った喜びを今まで以上に増やしていくことができると考えています。</p>
鈴木委員	<p>先ほど研究所と連絡を密にとっていきたいとおっしゃっていましたが、やはり開催日が1日のところが多く、また、参加可能人数も限られており、毎回応募しても抽選漏れということもいづらかありましたので、そういったところも御検討していただけるとありがたいです。よろしく願いいたします。</p>
武田会長	<p>続きまして、田中委員どうぞ。</p>
田中依子委員	<p>つくば市のOB人材活動支援事業に関しまして、これは、事業計画としてはかなりの数字を掲げていらっしゃいましたが実績が非常に少ない状況です。</p> <p>他の部署との事業の重なりや高齢化など、課題欄や今後の取り組み欄に様々記載がありますが、具体的なことをもう少し御説明いただけたらと思いました。</p> <p>つくば市は本当に色々な世代に人材が多いところで、今後どのような思いで、この人材の活用を考えていらっしゃるのかお聞きしたいと思いました。</p>
事務局	<p>御質問ありがとうございます。この事業は政策イノベ</p>

	<p>ーション部企画経営課が所管しており、正式な回答は本日できません。</p> <p>ただし、今日の会議を実施する前に、6月に「つくば市生涯学習推進本部会議」という庁内の検討会議があり、その場でも、やはりこの事業が話題になり、市長自らこの計画と実績の乖離は気にしていたところです。</p> <p>企画経営課からも、まさに田中委員からもおっしゃっていただいたような、他部署との連携等含めて、本格的に今年度事業のあり方について考えたいというコメントをもらっています。</p> <p>会議後、改めて回答させていただきます。また、この事業は生涯学習推進基本計画に位置付けられているわけですので、今回の質問の回答だけでなく、今後も継続して事業の進捗状況を報告させていただきます。</p>
田中依子委員	<p>ありがとうございます。よろしく願いいたします。</p>
武田会長	<p>おそらく何か実態と噛み合っていないような部分があるのではないのでしょうか。</p>
事務局	<p>庁内に類似した制度があることや、雇用年数が徐々に伸びて、OBとして活躍する年代が変わってきていることなどの課題を担当課からはうかがっているところです。</p>

武田会長	<p>ありがとうございます。また、先ほど回答が後回しとなっていた質問について可能であれば回答ください。</p>
事務局	<p>ありがとうございます。地域交流センターにおけるWi-Fi 整備についてですが、令和4年度に実施をした場所について報告いたします。</p> <p>令和4年度については、「荃崎・竹園・並木・島名・松代・二の宮」の各交流センターで整備されました。</p> <p>令和5年度整備予定の10施設についてはまだわかっておりませんので、本日会議中もしくは後日ということにさせていただきます。</p>
事務局	<p>家庭教育セミナーの実績に関して御質問いただいたことについて回答させていただきます。</p> <p>令和3年度は、新型コロナウイルス感染症等の影響で、各学校、施設等における担当の指導員の方々と学校、施設担当者、生涯学習推進課の社会教育指導員間の協議を行い、対面実施や動画配信、中止等の態度決定をした結果、令和3年度は全部で40か所程度の開催になりました。令和4年度の計画は令和3年度の実績をもとに目標設定しております。</p> <p>令和4年度は新型コロナウイルス感染症に関する対応に緩和がされたので、60ヶ所と増やすことができました。また、「学びを止めない」というところで、動画配信やライブ配信ができた事例もあり、少しずつですが、回数が増えていったということになります。以上で</p>

<p>武田会長</p>	<p>す。</p> <p>ありがとうございます。では他にいかがですか。</p>
<p>萩原委員</p>	<p>スポーツ協会の萩原でございます。資料 2-2 の 1 ページの一番下を御覧いただくとおわかりのように、地域交流センターの利用者数が増えています。非常に多い数であると思います。</p> <p>令和 4 年度の事業実績を見ると、つくば市の人口が 25 万 5,000 人程度ですから、それをはるかに上回る 35 万 5,000 人が、利用をしているという実績です。おそらく、生涯学習という観点からすれば、この施設をこれからどのように利用していくかということが大きなポイントになってくると思います。</p> <p>高齢化社会を迎えて、遠くに出向かなくてもそこで何かできるかということが極めて大きな意味を持ってきます。そういったことを含めて、さらにこの流れを拡大するため、どのようなことをやっていくのかということをやはり考えていただくことだろうと思います。</p> <p>一つ質問したいのは、令和 4 年度の事業計画で利用者数の 28 万人が 35 万人に増えた一方で、登録団体が 1,300 団体から 684 団体に減りました。利用者が増えた理由と、団体数が減った理由についてお答えください。</p>
<p>武田会長</p>	<p>事務局説明をお願いします。</p>

事務局	<p>萩原先生ありがとうございます。交流センターの具体的な利用者数が増えて、登録団体数は目標の半分であったという部分について、当課で明確な理由を事務事業所管課である地域支援課から情報を得ておりませんので、きちんと確認をして、後日回答させていただきたいと思っています。</p>
武田会長	<p>ありがとうございます。団体数については、半減に近いということで、何か理由があると思います。後日回答ください。</p>
船橋委員	<p>つくば市福祉団体等連絡協議会の船橋です。障害者福祉の立場から、感想と要望を述べます。</p> <p>資料の2-2の5ページ「障害者の生涯学習関連事業」について、令和4年度の事業計画が「障害者の自発性を取り入れる」という観点で取り組んでいらっしゃいます。私が「いいな」と思うのは、障害者自身が、やってみたいことを挙げて、「自分たちでこんなことをやってみたい」と決定し、風船バレーを実施した点です。</p> <p>現在、障害者権利条約が批准されて、その中に「私たち抜きに私たちのことを決めないで！」という理念があります。その意味でも、障害者自身が自分の活動を決めて企画し進めていくという点で、非常に新しい取り組みで「いいな」と思います。</p> <p>国が数年前から障害者の生涯学習を大きく取り上げ</p>

	<p>ています。つくば市は、県内では先進的に取り組んでいる地域だと思います。この事業の課題に、「事業を量・質ともに拡大しようとする場合、事業の福祉的要素が強くなるため、庁内における連携強化が求められる」とあります。国はこの取り組みを始めた時に、庁内横断的にいろいろな課、生涯学習課、障害福祉、教育、労働、これらを全部集め、そこから代表を集めて推進委員会を作り、進めました。それに学べば、今年というわけにはいきませんが、庁内の連携を深め、きちんと横断的に関係各課が集まって、障害者の生涯学習をどう進めるか検討するという取り組みを今後ぜひ進めていただきたいと思います」と要望します。</p>
武田会長	事務局いかがですか。
事務局	<p>船橋先生にはいつも当課の事業の応援をいただき、非常にうれしく感じております。御要望いただいた件については、課題として受けとめていますので、検討しながら、前に進めさせていただきたいと考えております。よろしく願いいたします。</p>
武田会長	ありがとうございます。はい、どうぞ。
中嶋委員	<p>中嶋です。生涯学習という言葉は非常に大きい言葉で、市役所でも生涯学習に関わる課として位置付けられている課が広範囲に渡っています。私もこの会議に出席</p>

	<p>するのは、教育長はじめ、生涯学習課、教育局の職員が中心だと思います。ですが、ここまでの議論の中で、例えば交流センターの件での質問にも地域交流センターを所管する文化芸術課が出席していないのでわからないという回答でした。そもそも文化芸術課が交流センターの担当をしていることは私も疑問で、別の場所で質問したこともあります。</p> <p>それはさておき、少なくとも担当課の職員は、1人ぐらいはこの場に出ていないといけないと思います。この審議会で委員が質問したことに対して、担当課がないという回答は少し良くないのではないかというのが、初めてこの会議に参加しての感想です。</p> <p>また、地域交流センターのことで萩原委員の意見は、私も非常に賛成で、やはり地域交流センターをどのように活用していくかということは生涯学習の中核であると私も考えています。</p> <p>例えば荃崎の交流センターは住居の近くですが、最近非常に使いやすくなりました。オープンスペースとして机と椅子を置いてくださり、子供たちが休み中の勉強に使っています。図書館に入って本を見ながら静かに勉強するというやり方の勉強もありますが、ロビーで多少おしゃべりをしたり、飲んだり食べたりしても、自由に勉強できる雰囲気はここ何年か前から方針が変わってできて非常にいいです。</p> <p>ですから我々も、地域交流センターの会議室が取れなくても、テーブルが空いてれば、そこに四、五人が集ま</p>
--	---

	<p>って相談ができるという風になっています。</p> <p>住民はそうしたものを求めていると思います。ふらっ と行って、勉強できたり話ができたり、ちょっと相談が できたり、会議ができたり、そこでできればちょっと飲 食ができれば、さらにありがたいというのが、住民の願 いだと思います。</p> <p>ですから荃崎地区でいろいろな新しいものを現在作 ってくれていますけれども、その際に住民が自由に入 りして相談できたり飲食できたりする場が欲しいとい う要求をしています。地域交流センターの活用方法が いい方向に向かっていますので、話をさせていただきました。</p> <p>私は元教員ですので、先ほど教育長からありましたよ うに、現在不登校の子供たちが多いというのは、非常に 憂慮すべきことだと思っています。不登校の子供たちを すぐ学校に戻すことはなかなか難しいのですが、このよ うな子供たちがどこかで何かができる場所が必要です。</p> <p>一つの例として、こうした交流センターにもし学校に 行けなくても、勉強したり誰かとおしゃべりしたりでき ればよいという思いを持っております。</p> <p>会議の出席メンバーのお話と、地域交流センターの活 用についてでしたが、事務局回答をお願いします。</p> <p>まず会議の開催方法につきましては、例えば事前に御 質問いただいたり、担当課を出席させたりという形で改</p>
武田会長	
事務局	

<p>長橋委員</p>	<p>善したいと考えています。</p> <p>毎年度審議会の1回目が生涯学習推進基本計画の進捗と計画を見てもらう内容となっており、様々な課の事業が対象となりますので、開催方法について検討させていただいて、より良い形にさせていただきたいと思っています。</p> <p>地域交流センターにつきましてはおっしゃっていただいたことを担当課にももちろん伝えさせていただきます。まさに中嶋委員も触れていただいたとおり、現在地域交流センターは市民が気軽に入れるところ、いろいろな話ができる場所にしようということで動いています。相談業務、居場所について市のHPでも触れられていますが、中嶋委員としてはもう少し飲んだり食べたりという色がつくといいなというお話をいただいたと思います。きちんとお伝えさせていただきます。</p> <p>長橋です。Wi-Fiが整備されていると、地域交流センターの利用が非常にしやすいということがありますので、今後どんどん推し進めていただいて、利用率を上げていったり、フリースペースを作っていただいたりすると非常にありがたいです。以前大穂交流センターを使ったときに、終了時間が来てしまって部屋を退出しなければならない時でも、引き続きの話し合いがフリースペースでできるという利点がありました。ぜひそういった点も更に進めていただきたいと思います。</p>
-------------	---

3 議事 (2)	
武田会長	<p>ここで次の令和5年度事業計画に進めさせていただきます。最後に改めて御質問、御意見いただければと思います。時間の関係上大変申し訳ありません。</p> <p>では続きまして、令和5年度つくば市第3次生涯学習推進基本計画令和5年度事業計画について説明をお願いします。</p>
事務局	—事務局説明実施—
武田会長	<p>先ほどの令和4年度の進捗状況報告とも重なるところもあるかと思しますので、そちらも場合によって踏まえていただきながら、御意見御質問ください。</p>
佐野委員	<p>市民委員の佐野と申します。何点か述べさせていただきます。まず交流センターのことについてです。Wi-Fi環境が整備されたことはよいのですが、いかんせん建物が古いので全然バリアフリーの状態ではありません。トイレについても、多目的トイレがある交流センターもあるようですが、ない館もあります。市内各地域に1つ交流センターがあるので、他の交流センターにあればそれでいいだろう、ということにはならないと思います。</p> <p>また、会議室に行くにも、階段だけしかなくエレベーターが無いので、2階に上がるのに苦勞します。障害を持っている方は、2階で行われるイベント等には参加できないというような状態であります。やはり実質的なバ</p>

	<p>リアフリーも解決していかなければならない問題ではないかと思います。</p> <p>ですので、障害者参加の障壁を低くするという時に建物や、その設備の障壁、つまり物理的な障壁をどう下げていくかということも計画も盛り込んでいただきたいと思っています。</p> <p>それが第1点です。次に障害者に限らず言えることですが、交流センターの什器類が貧弱で老朽化しています。パイプイスも壊れたものがそのまま放置されていたりする状態です。什器の見直しというか、什器が整備されているかどうかの点検もきちんと行っていただきたいと思っています。</p> <p>さらに Wi-Fi 環境が整備されたことはいいことですが、今の状況ではプロジェクターを使って、いろんな講義をしたりとか、いろんなプレゼンテーションを見たりする局面が多い中で、プロジェクターを投影しようとすると、ものすごく重いスクリーンを倉庫から持ち出されてきて、それを設置しなければいけないという状況です。私が普段使っている二の宮交流センターはそうした状況で、今後天井からスライドさせれば出てくるスクリーン等が今の時代に合わせて欲しいです。そして照明をスクリーンの部分だけ暗くしようとしても、照明のスイッチがそれに配慮した形で分かれていないので、それができないという点もあります。</p> <p>非常に生涯学習施設として使いづらく、今風にモデルチェンジがなされていません。交流センターの設備の状</p>
--	---

況をどう改善するかということも、この中に盛り込んでいただけたらと思います。

それから、地域交流センターだけでは、場所が足りません。地域交流センターの予約を取って場所を確保することに苦労します。それから圏域の割に地域交流センターが配置されている個数が少ないので、自分の家の近くに交流センターがあるという感覚を持つ人が限られてきてしまいます。その時に地域交流センターの支部のようなもの、場所によっては自治会館などが地区にあるようですけれども、そうした場所がない場合に、例えば空き家を借り上げて居場所づくりをするなど、そのような地域交流センターをより補完するような場所を確保する、集まる場所を確保するという取り組みも、この中にに入れていただけたらいいなと思います。

そういったハードウェアの整備がなされないといくらこんな取り組みをしよう、あんな取り組みをしようとしても、場所がないとか物がないといったことで、意欲が潰えてしまうことになりますので、そこをお願いしたいと思いました。

それから、地域交流センターで、今どんな団体がどんなふうに活動しているのかということをリアルタイムに知ることができればいいなと思います。すでにそのような取組は実施されていらっしゃるのでしょうか。例えば、今日二の宮交流センターでは、こんなサークルがこの会議室でこんなことしているよという情報があって、それが Web で発信されていれば、それを参照して、この

	<p>活動に興味があるから行ってみようかなといった気持ちになることが可能です。もう少し地域交流センターの活動自体の発信活動をどうするかということも計画の中で焦点化していただけるとありがたいなと思いました。</p> <p>複数点にわたって恐縮ですが、つくば市の出前講座がありますよね。私は、出前講座の中で防災に係る講座を受けた経験があり、とても勉強になりました。生涯学習推進基本計画で出前講座の実績値は盛り込まれていませうでしょうか。この出前講座も立派な生涯学習の内容になると思うので、できれば出前講座をどんどん市で盛り上げていただき、市の業務が多忙になるということもあるかと思いますが、この出前講座もしっかり生涯学習として位置付けていただき、何か目標値を据えて、その実現に向けて取り組んでいく動きをつけていただければいいと思いました。</p> <p>いくつかポイントがありましたが、事務局から説明お願いいたします。</p>
武田会長	
事務局	<p>まず、市の生涯学習施設のことについて様々御意見をいただきましたが、施設が古いということは否めない事実と考えております。公共施設の床を増やすことは、つくば市は幸いにもまだ人口が増加している地域であるとはいえ、将来的には人口は減少するという事実は直視しなければならないということがあります。</p>

面積自体を急激に増やすということは難しいと考えますが、そうした中でも効率的に地域交流センター等の公共施設を維持管理していくための計画として、つくば市では施設の長寿命化計画が策定されています。施設のアップグレードをしたり、先ほど御発言のあったバリアフリーの観点から修繕をかけていかなければならないといったことが位置付けられています。

今回お話いただきました地域交流センターについても、市民文化系施設長寿命化計画という計画の中で、例えば先ほどおっしゃっていただいたプロジェクトの関係等の市民ニーズに合わせた施設づくりを適切にしていかなければならないこと、また、これも先ほど発言いただいたバリアフリーの観点ですと、誰もが快適で利用しやすい施設にする必要があるのではないかという論点や、快適性という論点での段差や、交流センターにエレベーターが無く2階に上がることが大変だという状況に対してどう改修していくのかということ、また、設備の見直しについて、例えば視聴覚室等ですでに客席に段があらかじめあって古い投影機で流すような施設がありますが、そういった部分に関する改修も当然考えていかなければならないこと等を10年計画で考えております。施設の優先順位をつけていきながら、順々に改修をしていこうという計画になっております。

今回のつくば市生涯学習推進計画の中では、ハード面の修繕改修というのはやはり長期間かかるということ、また、一つ一つ精査していかなければならず、別個の計

	<p>画がある中でこの計画に盛り込んで進めていくということがなかなか難しいところがあり、含まれておりません。</p> <p>公共施設の長寿命化に関する計画に基づいて、施設を効率的に、そして将来も御利用ただけて、かつ負担の少ない方法はどのようなものがあるかということをして市は考えています。もちろん本日いただいた御意見は、施設を所管しております地域支援課に伝えさせていただきます。</p> <p>続いて2点目の、地域交流センターのサークルの活動状況についてどのような情報発信がされているのかということについては、リアルタイムでこの部屋が使用されているかということと、それぞれのサークルがどんな活動をしているかという情報をそれぞれ発信していますが、その2つを組み合わせたリアルタイムのweb情報の提供は現在ありません。</p> <p>今サークルがどのような活動をしているかという点につきましては、サークル活動を市が紹介してもいいと許可をもらっているサークルについて、ホームページ等で公表はさせていただいております。字が細かい、PDFになって探しづらいという話はあるかもしれませんが、少なくともインターネット検索した画面で、どの曜日のどの場所でやっているかを検索いただけるシステム自体はございます。また、交流センターの施設につきましても予約状況や使用状況についてはインターネットで確認できる形になっておりますが、つくば市役所の1階</p>
--	--

<p>事務局</p>	<p>にあるような会議室掲示板のような形で、地域交流センター全体においてどこでいつだれが何をしているかという紹介がリアルタイムにできている状況ではありません。</p> <p>市民の活動や地域交流センターの活用状況に関する情報発信も重要な要素の一つであると思いますので、これも地域支援課にお伝えさせていただきます。</p> <p>少し補足をします。まず、地域交流センターについては尾野からお話させていただいたとおり、市全体の計画があるので、この第3次つくば市生涯学習推進計画においては、今の第3次計画の中に入れるというよりは、他の計画同士連携しながら進めるという話になると考えます。</p> <p>来年度に入りますと、令和3年度からの5年間で計画期間である生涯学習推進基本計画について、次期の計画をどうするのかという議論がでてきます。その中で、生涯学習審議会の現委員の皆様は2年の任期ですので、交代や再任等動きがあると思いますが、その中で、よく議論をして、あるべき形はどういうものなのかということを考えていく段階に入っていきます。ぜひその段階で審議会委員の皆様には様々意見を聞かせていただき、過去にいただいた議論を踏まえてどういう計画を作っていくかということを考えていきます。</p> <p>また、地域交流センターのような機能を持つ施設が足りないという部分については、これですべて解決という</p>
------------	--

	<p>ことではありませんが、令和5年度4月開校の新設校の特別教室の市民への貸出という施策や、他には、他の部署の所管ですけれども、先ほど佐野委員からもキーワードで出た地域の集会所に対するWi-Fi整備に関する補助等にも取り組んでおります。様々な部署で、佐野委員がおっしゃるような課題に対するアプローチはありますので、もう少しそこは委員の皆様への情報提供を増やせないかなと思います。</p> <p>最後に、出前講座については、生涯学習推進基本計画の事務事業の指標のどこかに足すことができないか検討させていただきます。ただし、つくば市未来構想及び戦略プランという市の根幹となる計画があり、その中で出前講座については、重要な指標として位置づけられ、年間受講者5,500人を目指すとされており、非常に重要な事業であるという認識になっています。昨年度で1,600人ぐらいの受講者という実績で、新型コロナウイルス感染症によって大打撃を受けて減っておりますが、増えてきてはいますので、継続して増やしていきたいと思っています。引き続き応援していただけると嬉しいです。よろしくお願いします。</p>
武田会長	ありがとうございます。
田中依子委員	市民委員の田中です。今の交流センターのことにしまして、私自身も何ヶ所かの地域交流センターでサークルをさせていただいていますが、例えば吉沼交流センタ

	<p>一でしたら和室がフローリングに変わっており、とても使いやすくなっています。逆に、豊里交流センター等では、1階に広い和室がありますが、利用者が高齢化していることもあり正座をして和室を使うニーズは減っています。その状態に対して、例えば机や椅子を置いて和室を使用できないかと施設にお願いしても断られてしまうことがあります。</p> <p>大きな計画は今後順次進めていただけていると思いますが、日々の施設の利用に関して、柔軟に窓口の方と相談ができるようにしてほしいです。現在は、そのような要望をちょっとあげにくい雰囲気は申し訳ありませんが施設の窓口にはあります。机の移動について相談しても「できません。」といった杓子定規な印象を受けますので、長期計画とともに、日々の利用においてできることに関しても、柔軟な対応をお願いさせていただきます。</p> <p>地域交流センターも施設によっていろいろと対応に違いはあると思いますが、そういった点を御考慮いただけたらと思います。そのような声が結構あるということをお届けしたいと思います。</p>
武田会長	事務局いかがですか。
事務局	<p>いろいろ声をあげにくいという声があるということですが、地域交流センターでも一部で利用者協議会を実施しています。それは予約を調整するため等の目的をもった会議ということで、その会議の中で利用者の声を拾</p>

	<p>っています。</p> <p>その他に利用者の声については、地域交流センターで利用者アンケートを実施しております。生涯学習推進基本計画にありますとおり、誰でも気軽に利用できるような施設づくりに努めていますので、御理解のほどよろしくお願いいたします。</p>
田中依子委員	<p>はい、ありがとうございます。</p>
武田会長	<p>星埜委員どうぞ。</p>
星埜委員	<p>子育て休憩室・子育てほっとステーションオアシスの星埜です。お願い事とお尋ねをいくつかいたします。</p> <p>まず、家庭教育学級について質問です。本日の資料に記載されている家庭教育学級は、市内の小学校・中学校の父兄、父母対象の学級のことでしょうか、それとも乳幼児からを含めての家庭教育学級でしょうか。教えてください。</p>
事務局	<p>本日の資料において説明している家庭教育学級は、幼稚園、小・中・義務教育学級が対象のものです。</p>
星埜委員	<p>ありがとうございます。私は、乳幼児をお持ちのお母様たちの集いの場、交流の場を開いています。30年ぐらい前は、乳幼児学級というのが、各地域交流センター、その時は公民館という名前でしたが、その場で相互保育</p>

	<p>という形で、10回程度開かれていました。その事業が、生涯学習の部門に担当が変わって、乳児学級、幼児学級というものに分かれました。</p> <p>今年度の募集内容を見ますと、乳児学級の場合は、第一子が対象となっていますが、私が見ている限り、第一子をお持ちのお母様たちというのは、もう自分とお子さんとの間だけで大変で、他に外に出るとか、どこかで自分のブラッシュアップをするというような余裕がない方が多いです。できればこの「第一子」という条件を外していただいて、乳児でしたら確か10ヶ月ぐらいまで、幼児は1歳半ぐらいまでだったと思いますが、そのお子さんをお持ちのお母様たちやお父様たちは、最初であろうと、2人目であろうと対象なのでどうぞいらしてくださいという枠の広げ方をしていただきたいです。</p> <p>次に、オンラインで家庭教育学級を開かれたと資料にあります。これについても、もしかすると応募する人は少ないかもしれないし、細切れ時間になるかもしれませんが、乳幼児をお持ちのお母様やお父様たちにも輪を広げていただきたいというのがあります。</p> <p>次に、地域交流センター講座の中で、座学だけの講座については、現場に行って参加することに加えて、配信を受けられるというような形を取っていただけると、より多くの方たち、特に高齢者になると、車の運転をして会場まで行くということが大変になるので、家の中で配信を受けるということができればありがたいと思います。</p>
--	---

	<p>次に、図書館の貸し出しについて、回答は後でも結構ですが、電子図書の貸し出しという記載が資料に確かあったと思います。それが今現在どのくらい利用されているかを知りたいです。その理由は、いろいろ図書を予約して、近くの地域交流センターまで取りに行ける年齢の間はいいですが、それができなくなってもやっぱり知識欲だけは残っているというときに、この電子図書の貸し出しというのはとても有益なものだと思います。高齢者だけではなくて、いろいろ外に出にくい方たちにも、これはもうちょっと宣伝すれば使いやすくいいものとして受け入れられるのではないかと思います。</p> <p>最後にもう一つ、今、市内に発達支援の学級や施設等が、小規模でたくさんできています。その中には多分フリースクールもあると思いますが、市で、市内のこうした施設ないしサークルがどのくらいあるかを把握していらしたら、その数を教えていただければと思います。</p> <p>最後の数を知りたいというのは、どういうことですか。</p> <p>実は私の住んでいるところにも、狭い範囲の中で、いくつか学級とといいますか居場所が開かれています。それぞれがどのような活動をしているのか、ちゃんと連携をとって専門家と繋がっているのかどうか、そこがとても気になっています。開いた側からすると善意で開いてしまったということがあるかもしれません。ただし、子供</p>
武田会長	
星埜委員	

	<p>たちの生涯に渡って、いろいろ影響を与えるものかもしれない機能なので、市として実態を把握すべきものではないのかなと思っています。</p>
<p>武田会長</p>	<p>ありがとうございます。この発言にもいくつかポイントがあるかと思いますが、事務局いかがですか。</p>
<p>事務局</p>	<p>家庭教育学級についてお答えいたします。質問いただいた第一子のみという条件の撤廃についてですが、まず、幼児教室は第一子のみという限定はしておりません。乳児学級に関して第一子のみという条件を設けておりますが、これはより多くの方に参加していただくための条件です。いただいた御意見については持ち帰って検討させていただきます。</p> <p>動画の活用の拡大については、お母様たち同士の繋がりを大切にしており、対面形式が大事だと考えています。動画というよりは対面という形で行わせていただいております。動画視聴の申し込みに関しましては、市立幼稚園・小中学校・義務教育学校とさせていただいております。見たい動画を各学級で決めて申し込んでいただき、申し込まれた学級の方のみに限定し見ていただく形をとらせていただいております。</p> <p>令和4年度から対面実施に大分移行しており、新型コロナウイルス感染症の関係で、動画実施が増えたような形にはなっていますが、やはり家庭教育学級というのは対面が一番であり、対面によって皆さんの子育ての悩み</p>

事務局	<p>等が伝わるとお思いますので、対面を重視したいと考えております。</p> <p>過去にはオンラインで家庭教育学級を乳児も幼児も行っていましたが、お母様方からのニーズの大きい部分である「お友達づくり」がなかなか難しいのではないかと御意見もあります。</p> <p>家庭教育学級における動画の活用現状はそのような形で実施しておりますが、やはりオンラインでやることのニーズも我々は把握しております。別の部署にはなりますが、健康増進課、母子保健等を担当している部署では、食育に関する情報について、市の職員である栄養士が例えばこのように料理を作ると良いですよといった動画の配信を行ったり、レシピ集を配信したりしています。</p> <p>お悩みを抱えていらっしゃる方はなかなか、それらを抱えて外に出ていくことも難しい部分があると思いますので、オンラインのこういった育児相談的な機会も設けさせていただき、多様な環境にある方でもサポートをする取り組みは実施されています。</p> <p>今の保護者の皆様はオンラインと対面を上手に使い分けていることを、我々が実施するちびっこ博士事業等の他の事業をとおして非常に感じています。皆様の御意見を伺いながらどのように進めていくか考えていかなければならないと考えています。</p>
-----	---

事務局	<p>地域交流センター講座も配信を、ということについては、地域支援課という担当部署にきちんとお伝えさせていただきます。</p> <p>また、電子図書館については、インターネット上にデータが公開されているものがあるので参考までにお伝えさせていただくと、令和4年10月4日から貸し出しが開始されており、半年前ぐらいのデータですけれども推移を御覧いただくことができます。書籍の数としては、タイトル数が1,400程度でスタートをしております。星埜委員のおっしゃることとしては、電子図書館を進めていってくださいというメッセージと受け止めましたので、きちんと図書館にも伝えさせていただきます。フリースクールについては、発言者を代わらせていただきます。</p>
事務局	<p>星埜委員からフリースクールということで話が出ましたが、つくば市のフリースクールは完全に児童発達支援というものに特化したような形ではなく、つくば市内のいわゆる不登校の生徒、児童生徒が通っている施設という点でいうと、少しデータが古いですが、令和4年3月の数字で、10ヶ所の施設に53名の児童生徒が通所しておりました。</p> <p>おそらく人数としては、今はもう少し増えている可能性はあると思っております。また、公設の施設も1ヶ所ございます。それから教育相談センターの中にある施設である教育支援センターもございますので、実際には</p>

	<p>10 数ヶ所の施設があると思っております。</p> <p>それぞれの施設の経営方針については、それぞれの考えで立案していらっしゃると思いますので、どのようなところと連携してやれているかというところまで具体的に把握はできておりませんが、そのうちの7、8ヶ所程度を昨年度回らせていただいて、学校を含めて施設が様々連携を取れていることも確認しております。そういった施設に対して今年度、新たな事業として市が補助をしていこうということで学び推進課が補助制度を作っています。同時にそちらに通所されている児童生徒に対しても、月謝分の料金を同じく補助交付金という形で補助しようということで、これも今月、できたばかりの制度でございますが始まっています。</p> <p>いずれにしても教育局だけではなく、福祉部局も含めて、連携が必要な事業だととらえておりますので、今後進めていければと考えています。</p>
武田委員	<p>ありがとうございます。木村委員どうぞ。</p>
木村委員	<p>資料2-2の6ページと、資料3の6ページについてです。それぞれ中段で文化財展示講座事業、文化財課所管の事務事業の記載がありますが、以前議場で感謝の意と、またさらなる発展をとという趣旨の質問と要望をさせていただいたテーマであります。まず鎌倉殿の13人のスペシャルトークについて、市内外から約1,000名の来場者という記載でしたが、もっと多かったような気がし</p>

	<p>たのですが数字の確認をさせていただきます。</p> <p>それから、古文書講座についてですが、資料2-2の課題欄にアンケートを取っても大変満足度が高く、その他難易度に関する意見や、多くの人に参加できるような機会を望む声がある等、大変期待が多いです。また申し込みをしてもすぐに定員がいっぱいになってしまうという、大変関心が高いからこそ一部残念な状況になっているとのことでした。</p> <p>それに対して、資料2-2の今後の取り組み、さらに資料3の方で具体的に事業計画が記載されておりますが、少し気になったのが、そのように受講希望者が多い中で、講座を2つ延べ4回に分けて十分に定員をふやすことができるのかということです。昨年も実際には受講者が26名、講演会で82名の参加者など、かなり少ない状況です。大変好評である中での、今年度の計画の妥当性を確認したいと思います。</p> <p>最後に2-2の資料の中の「今後の取り組み」のところの文言の訂正をしていただきたいと思います。今後の取り組みのところ、「担当職員の負担にならないように」と書き出されています。企画展が1,500人の計画に対して実績が2,469人になったこと、スペシャルトーク等様々なことができましたから担当職員の皆さんは本当に御苦労されたと思います。それが反映されたのかもしれませんが、市民は大変に満足しているわけですから、サービスの利用者が増えた時には、職員を工夫して増員する、そのための当初予算や補正予算を取りな</p>
--	---

	<p>がら行うべきであって、先ほどの表現は削除していただきまして、「市民の要望や期待にこたえられるよう」といった表現にされるべきだと思っております。</p> <p>担当職員の方は、幅広く、そつなく、丁寧に対応されていますので、市民から評価されているのであれば、職員の評価を上げていただきたいことをお願い申し上げます。確認お願いいたします。</p>
<p>武田会長</p>	<p>事務局いかがですか。</p>
<p>事務局</p>	<p>まず、数字の確認の部分ですが、資料2-2の6ページに鎌倉殿の13人のスペシャルトークに約1,000人の来場者という記載があります。正確な数字は手元にデータがありませんが、インターネット上の新聞媒体の記事を見ますと約1,200人という数字があります。正確な数字は後日報告差し上げますけれども、1,000人という数字よりはもう少し多かっただろうことは推察されます。</p> <p>次に、御指摘いただいた今後の取り組みの部分の削除については、この審議会がまさにそういった部分を御審議いただく場ですので、持ち帰って検討させていただきたいと思っております。よろしくお願いいたします。</p>
<p>木村委員</p>	<p>ありがとうございます。1,000数百人だったかと記憶しています。さらには応募者が2,500人から3,000人ぐらいいり、抽選した結果それだけになってしまったとい</p>

	<p>うこともありますので、うれしい悲鳴ながら残念だったかなと思いますので、次の機会の際にまた参考にしていただければなと思っております。よろしくお願ひします。</p>
武田会長	<p>岡田委員どうぞ。</p>
岡田委員	<p>岡田と申します。令和5年度の事業計画について1点質問とお願いをさせていただきたいと思ひます。計画に含まれる講座やセミナー、研修といったものに大変興味があります。</p> <p>令和5年度の事業計画とそれから令和4年度の進捗状況とあわせて拝見したときに、講座やセミナー関係の参加者の満足度というような表現があったところと無かったところがありました。私自身は、参加者がどれくらい満足しているか、それを知ることはすごく大事だと思ひています。それが参加者をさらに増やしたり、或いはセミナーや講座の質を向上させたりすることに繋がるのだらうと思ひています。</p> <p>話を戻しますが、令和5年度の計画の中に、回数や参加人数の目標値が設定されているだけで、満足度が設定されている事務事業があまりなかったように思ひます。その差、つまり、満足度を設定した事務事業と、回数や人数のみを設定したものの差がどこにあったのかということをお教えください。もう一つ要望事項として、質の向上を図るためのアンケート等を実施していただい</p>

武田会長	<p>て、満足度の状況を積極的に把握していただくことがいいと思っています。よろしく願いいたします。</p> <p>事務局回答ください。</p>
事務局	<p>御意見ありがとうございます。まず、参加者の満足度が入っているものと入っていないものの違いについては、まずこの令和5年度計画のお示しの仕方が関係しています。各事務事業の担当課それぞれに今年のこの事業の目標はこれですという事務事業ごとの計画を出していただき、それを会議に提示させていただいておりますので、どうしてもそれぞれの差異が生じてしまいます。</p> <p>参加者の満足度を入れているものの多くは生涯学習推進課の所管事業で、当課ではその部分を意識して目標設定させていただきました。今からすべての事業について満足度を位置づけるということは難しいですが、可能なアンケートを取っていない事業は少ないと思いますので、来年度令和5年度進捗状況を報告する際や今年度の2回目の審議会場で別途参考資料を作成して、満足度を図っているものは御報告差し上げるなどを検討したいと思います。</p>
岡田委員	<p>ありがとうございます。参加者の満足度は、評価に大きく関わることだろうと思います。何回行った何人参加しただけではなくて、その中身がどうであったのかという評価が、繰り返しになりますが非常に重要だと思いま</p>

<p>武田会長</p>	<p>すので、さ、ぜひ実施していただけるとありがたいなと思います。よろしく願いいたします。</p> <p>ほぼ終了時間になってきてしまっていますが、まだ発言をしていない委員の方いかがですか。</p>
<p>関委員</p>	<p>令和5年度事業計画についてですが、令和4年度の課題やそれから今後の取り組みというの踏まえて書いてあるかと思います。いくつか確認させていただいたところ、それらが計画に反映されてないものがいくつか見受けられました。今から加筆するというのではなく、事業の実施に当たっては、もう一度この課題等も踏まえていただきたいなと思っております。</p> <p>その中で、実は資料3 9ページの「つくば市0B人材活動支援事業」の令和5年度事業計画ですが、最後に庁内横断的な連携の必要性を検討すると書いてありますが、令和4年度の課題のところ、他部署との連携の必要があると書いてあります。必要性を検討すると令和5年度に書いてあることは、私も同じような職をやっていますので、表現として理解できますが、例えば連携すると言いつらければ「連携する方策を検討する」等に直していただければと思います。</p>
<p>事務局</p>	<p>修正については、検討させていただきたいと思ます。</p>

武田会長	根本委員どうぞ。
根本委員	<p>市民委員の根本といいます。よろしくお願ひします。委員の皆様からたくさん質問がたまひて、事務局も誠心込めて回答していただいたことは非常にありがたく思ひつています。しかしながら質問が余りにも多いので、事務局の方がたくさん回答していただいてもわかりにくいところがあります。できれば事務局の方にはお手数おかけしますが、ある程度事前に質問をまとめていただひて、その回答の書類を作つていただひて、委員の私たちに見せていただくとさらに理解度が上がるのではないでしようかということをお願ひします。</p> <p>次に、私は茨城県のスクールソーシャルワーカーとして活動していますので、それに関連して不登校に関する質問を一つだけさせていただけます。</p> <p>つくば市において事業を活性化するためにフリースクールを開設していただひて、今事業として運営しているようですが、小学校中学校の場合現場の子供たちは、男の子が非常に多いです。その場合に、ほとんどの子供がフリースクールを紹介すると「自分はそういうレベルではない」ということで拒否をします。自分は不登校ではなく、学校に何か障害があるから登校できないだけだという意識がとても強いので、フリースクールのレベルではないとはっきりお断りされているケースがとても多いです。</p> <p>そういう時にフリースクールという内容をどのよう</p>

<p>武田会長</p>	<p>に紹介して、不登校に陥っている子供たちに説明をしているのかということも非常に重要な課題となってきます。そのために相談員等を配置されていると思いますが、その相談員の方々にスクールソーシャルワーカーとか学校の方からこのような子供がいるので、どのようにフリースクールに参加させたら良いか等についてアドバイス等はいただけているのかという質問でございます。</p> <p>事務局いかがですか。</p>
<p>事務局</p>	<p>御質問ありがとうございます。もちろん今お話いただいたような形でスクールソーシャルワーカー、或いはスクールカウンセラー等からの御紹介もあると思いますが、一義的には、学校の担任の先生がどういう形が一番合うのかということをお本人、それから御家庭と相談されるかと思えます。</p> <p>民間のフリースクールもあれば、今年度、教育長の今日の挨拶にもありましたとおり、「ハートフル S ルーム」という名称の校内フリースクールを各校で実施しております。そういった施設もございますので、児童生徒が選択をできる形にはなっていると思っております。</p> <p>その中で御自身に一番合う形のものを御選択いただければいいのかなと思います。ただし、まだ在家庭、家庭から出られないお子さんも正直に申しますといらっしゃると思います。そこに対して我々もまた新たな支援の方策</p>

<p>根本委員</p>	<p>を考えなければならぬとは思っていますが、少なくとも昨年今年とステップアップはできてきていると考えています。今後はよりその選択肢を広げられるように進めていきたいと考えております。</p> <p>ありがとうございました。私は残念ながらつくば市は担当していませんが、他の市自治体に行きましても、そうした流れで進められていると思いますので、つくば市も頑張って事業を進めていただきたいと思います。ありがとうございました。</p>
<p>4 その他 武田会長</p>	<p>ありがとうございます。時間がほぼ 12 時の終了時間になってしましまして、これだけという方がいらっしやいましたら、いかがでしょうか。</p> <p>後程事務局に直接問い合わせいただく形でも結構でございます。本日の議事次第すべてについて終了とさせていただきます。</p>
<p>5 閉会 事務局</p>	<p>皆様本当にどうもありがとうございました。事務局の方に進行をお返しいたします。</p> <p>武田会長、議事進行ありがとうございました。その他として、今回委員の皆様にご説明すべきことはございません。</p> <p>次回の開催時期についてですが、来年 2 月頃になる予定です。よろしくお願いたします。</p>

	<p>また、皆様から御質問等を承りますので、お電話やメールで御質問いただければと思います。</p> <p>以上をもちまして、令和5年度第1回生涯学習審議会を閉会いたします。</p> <p>なお本会議の会議録につきましては、事務局で作成の上、委員の皆様を確認の依頼をさせていただく予定でございます。どうぞよろしく願いいたします。本日は誠にありがとうございました。</p>
--	--

令和5年度第1回つくば市生涯学習審議会 次第

日時 令和5年(2023年)8月21日(月)

午前10時から正午まで

会場 つくば市役所2階201会議室

1 開会

2 教育長挨拶

3 議事

(1) 令和4年度第3次つくば市生涯学習推進基本計画進捗状況について

(2) 令和5年度第3次つくば市生涯学習推進基本計画事業計画について

4 その他

5 閉会

【配布資料】

- 資料 1-1 第3次つくば市生涯学習推進基本計画 令和4年度評価のまとめ
- 資料 1-2 第3次つくば市生涯学習推進基本計画 評価基準
- 資料 2-1 令和4年度施策の方向性ごとの評価一覧
- 資料 2-2 令和4年度事務事業 進捗状況一覧表
- 資料 3 令和5年度事務事業 事業計画一覧表
- 参考資料 1 第3次つくば市生涯学習推進基本計画 前評価基準
- 参考資料 2 第3次つくば市生涯学習推進基本計画令和3年度評価関係資料
- 参考資料 3 令和5年度つくば市生涯学習審議会名簿
- 参考資料 4 つくば市生涯学習審議会条例

【評価基準の変更について】

令和3年(2021年)3月に策定された第3次つくば市生涯学習推進基本計画の進捗管理については、事務事業評価(各担当課実施)及び施策の柱ごとの全体評価(生涯学習推進課実施)の2つの評価を実施しています。

令和4年度の外部委員によるつくば市生涯学習審議会において、評価手法についてより客観的な基準が求められ、令和4年度分の実績評価から評価方法の変更を行いました(資料1-2「評価基準」参照)。

①各事務事業に対する評価(担当課評価)

	S	A	B	C	D	E	—
令和3年度(※)	4	13	10	3	3	0	1
令和4年度	7	15	10	1	1	0	0

※令和3年度評価は、前評価基準に基づき評価が確定しており、本資料における記載は現在の評価基準に基づき評価した場合の参考数値である。

②施策の方向性毎の評価(全体評価)

施策の柱	施策の方向性	令和3年度(※)	令和4年度
多様な学びの実現	施設の利便性向上	8点	7点
	参加機会の拡充	7点	7点
	生涯学習の相談・情報の提供	2点	6点
誰一人取り残さない生涯学習	参加への障壁をなくす取組	8点	9点
	主体的に活動に参加できる取組	7点	8点
地域で学び合う生涯学習	地域で学びきっかけ作り	6点	8点
	地域で学び続ける仕組み作り	7点	7点
「社会力」を持った人材の育成	実践できる人材の育成	8点	8点

※令和3年度評価は、前評価基準に基づき評価が確定しており、本資料における記載は現在の評価基準に基づき評価した場合の参考数値である。

① 事務事業評価

項目	内容																																					
評価者	各事務事業担当課																																					
【第1段階】実施状況評価及び指標評価	<p>【①実施状況評価】</p> <p>令和4年度事業の成果・達成状況の記載内容を踏まえ、事務事業の総合的な実施状況について、以下の評価を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 年度当初の計画を上回って事業を実施できた 2 おおむね年度当初の計画通りに事業を実施できた 3 年度当初の計画に遅れが生じた 4 年度当初の計画を全く実施できなかった <p>— 特別な事情(※)により全く実施できなかった</p> <p>(※)特別な事情とは新型コロナウイルス感染症や自然災害等を指します。 特別な事情下でも工夫して事業が実施できた場合(例:会場開催を動画配信に切り替えた等)は「2 おおむね年度当初の計画通りに事業を実施できた」として扱う。</p> <p>【②指標評価】</p> <p>○指標毎の評点 指標の目標値に対する実績値の割合に応じて、以下の点数を割り当て、複数指標がある場合はそれを平均する。 ※複数指標がある事業に「—」がある場合は、その指標を除いて平均する</p> <table border="1" data-bbox="363 1025 866 1317"> <tr><td>100%以上</td><td>10点</td></tr> <tr><td>70%以上</td><td>7点</td></tr> <tr><td>50%以上</td><td>5点</td></tr> <tr><td>50%未満</td><td>3点</td></tr> <tr><td>0%</td><td>0点</td></tr> <tr><td>特別な事情による未実施</td><td>—</td></tr> </table> <p>○指標の達成状況による評価 指標毎の評点の平均した数値(小数点以下を四捨五入)を以下の表に当てはめ、指標評価とする。</p> <table border="1" data-bbox="363 1451 1225 1641"> <tr><td>10~8.0点以上</td><td>a ※指標を(概ね)達成している</td></tr> <tr><td>8.0未満~5.0点以上</td><td>b ※指標を達成できていない</td></tr> <tr><td>5.0点未満</td><td>c ※指標を大幅に達成できていない</td></tr> <tr><td>全ての指標が「—」</td><td>—</td></tr> </table>	100%以上	10点	70%以上	7点	50%以上	5点	50%未満	3点	0%	0点	特別な事情による未実施	—	10~8.0点以上	a ※指標を(概ね)達成している	8.0未満~5.0点以上	b ※指標を達成できていない	5.0点未満	c ※指標を大幅に達成できていない	全ての指標が「—」	—																	
100%以上	10点																																					
70%以上	7点																																					
50%以上	5点																																					
50%未満	3点																																					
0%	0点																																					
特別な事情による未実施	—																																					
10~8.0点以上	a ※指標を(概ね)達成している																																					
8.0未満~5.0点以上	b ※指標を達成できていない																																					
5.0点未満	c ※指標を大幅に達成できていない																																					
全ての指標が「—」	—																																					
【第2段階】総合評価	<p>【総合評価】</p> <p>①、②の評価をクロスさせ、以下の評価とする。</p> <table border="1" data-bbox="363 1776 1342 2067"> <thead> <tr> <th colspan="2" rowspan="2"></th> <th colspan="5">①実施状況評価</th> </tr> <tr> <th>1</th> <th>2</th> <th>3</th> <th>4</th> <th>—</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <th rowspan="4">②指標評価</th> <th>a</th> <td>S</td> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td></td> </tr> <tr> <th>b</th> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> <td></td> </tr> <tr> <th>c</th> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> <td>E</td> <td></td> </tr> <tr> <th>—</th> <td></td> <td>C</td> <td></td> <td></td> <td>—</td> </tr> </tbody> </table>			①実施状況評価					1	2	3	4	—	②指標評価	a	S	A	B	C		b	A	B	C	D		c	B	C	D	E		—		C			—
				①実施状況評価																																		
		1	2	3	4	—																																
②指標評価	a	S	A	B	C																																	
	b	A	B	C	D																																	
	c	B	C	D	E																																	
	—		C			—																																

②施策の方向性ごとの評価(全体評価)

項目	内容																														
評価者	生涯学習推進課																														
施策の方向性ごとの評価	<p>○各事務事業の総合評価を、それぞれ以下の表に基づいて点数化し、それを平均した値(小数点以下は四捨五入する)を評点とし、施策の方向性ごとの評価の進捗状況を図る目安とする。</p> <table border="1" data-bbox="363 450 852 786"> <thead> <tr> <th>事務事業総合評価結果</th> <th>点数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>S</td> <td>10点</td> </tr> <tr> <td>A</td> <td>8点</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>6点</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>4点</td> </tr> <tr> <td>D</td> <td>2点</td> </tr> <tr> <td>E</td> <td>0点</td> </tr> </tbody> </table> <p>※施策の方向性に含まれる事務事業の中に、総合評価が「一」となっている事務事業が含まれる場合は、その事務事業を除いて平均する。</p> <p>○評点の決定方法の例</p> <table border="1" data-bbox="363 1003 1501 1196"> <thead> <tr> <th></th> <th>事務事業総合評価結果</th> <th>点数</th> <th>計算</th> <th>評点</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>事務事業A</td> <td>S</td> <td>10</td> <td rowspan="3">$(10+4+2) \div 3 = 5.33\dots$</td> <td rowspan="3">5</td> </tr> <tr> <td>事務事業B</td> <td>C</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>事務事業C</td> <td>D</td> <td>2</td> </tr> </tbody> </table>	事務事業総合評価結果	点数	S	10点	A	8点	B	6点	C	4点	D	2点	E	0点		事務事業総合評価結果	点数	計算	評点	事務事業A	S	10	$(10+4+2) \div 3 = 5.33\dots$	5	事務事業B	C	4	事務事業C	D	2
事務事業総合評価結果	点数																														
S	10点																														
A	8点																														
B	6点																														
C	4点																														
D	2点																														
E	0点																														
	事務事業総合評価結果	点数	計算	評点																											
事務事業A	S	10	$(10+4+2) \div 3 = 5.33\dots$	5																											
事務事業B	C	4																													
事務事業C	D	2																													

令和4年度(2022年度)第3次生涯学習推進基本計画 施策の方向性ごとの評価一覧

資料2-1

No.	施策の柱	① 方向性ごとの達成状況に対する評価 評価者：生涯学習推進課 評価：各事務事業の総合評価（E～S）を点数化し、平均した点数（0～10）を施策の方向性ごとの評価とする。	施策の方向性評価	頁（資料2-2）	事業概要	担当課	事務事業名	② R4年度事務事業評価		
	施策の方向性							実施状況評価	指標評価	総合評価
多様な学びの実現										
1-(1)-ア	施設の利便性の向上	令和4年度においても新型コロナウイルス感染症の第7波、第8波の影響があり、施設を軸にサービスを展開する事業は難しい運営を求められたが、事業を工夫しながら概ね計画通り運営し、市役所コミュニティ棟での予約本貸出サービス開始や交流センターのWi-Fi環境整備を目標よりも多く達成する等、各事務事業の成長が見られた。	7	1	開館時間延長の継続、地域で手軽に図書館サービスを受けられる自動車図書館ステーションと返却ができるサービスポイントの増設等	中央図書館	図書館利便性向上事業	2	b	B
1-(1)-ア					誰でも気軽に利用できるような施設づくり	文化芸術課（令和5年度から地域支援課所管）	市民交流施設利便性向上事業	2	a	A
1-(1)-イ	参加機会の拡充	令和3年度に低い評価となった「民間企業等での生涯学習講座の実施促進」について、広報努力等により目標を達成することができた。 新型コロナウイルス感染症の影響が低くなった後も、参加機会の拡充という点で動画等のデジタルコンテンツの活用は効果的であると考えられ、積極的な推進が望まれる。	7	2	民間企業等での生涯学習講座の実施促進	生涯学習推進課	民間企業での生涯学習事業	2	a	A
1-(1)-イ					ウェブを活用し、動画配信等による生涯学習講座の実施	生涯学習推進課	オンラインによる生涯学習講座事業	2	a	A
1-(1)-イ					夜間・休日における学習機会の提供	文化芸術課（令和5年度から地域支援課所管）	地域交流センター活用事業	2	b	B
1-(1)-ウ	生涯学習の相談・情報の提供	令和3年度に両事業とも低い評価となっていたが、令和4年度は、ホームページの改修やスマートフォン向けアプリ「つくスマ」の活用等に努め、概ね事業目標を達成することができた。 ただし、生涯学習に対する相談について市民が望む形式や情報の一元発信を考えるに当たっての内容の整理については課題があり、今後取り組んでいく必要がある。	6	3	オンライン等でも気軽にでき、地域の実情に応じた生涯学習相談の実施	生涯学習推進課	生涯学習相談事業	2	b	B
1-(1)-ウ					広報戦略課と連携し、生涯学習情報を一元的に収集し発信	生涯学習推進課	情報収集・発信事業	2	b	B

No.	施策の柱	① 方向性ごとの達成状況に対する評価 評価者：生涯学習推進課 評価：各事務事業の総合評価（E～S）を点数化し、平均した点数（0～10）を施策の方向性ごとの評価とする。	施策の方向性評価	頁（資料2-2）	事業概要	担当課	事務事業名	② R4年度事務事業評価		
	施策の方向性							実施状況評価	指標評価	総合評価
誰一人取り残さない生涯学習										
1-(2)-ア	参加への障壁をなくす取組	3つの事務事業とも高い総合評価となった。講座やセミナーにおいては、動画配信と感染症対策を実施した上での対面実施を両方向う、もしくは対象者によって使い分けるなどの工夫が講じられた。 各事務事業の今後の取組として、内容の充実が挙げられているものが複数あり、質的な向上も今後期待することができる。	9	4	生涯学習講座における配慮事項を示した指針の作成 生涯学習情報のワンストップ提供	生涯学習推進課	生涯学習ワンストップ対応事業	2	a	A
1-(2)-ア					職員向け広報セミナーの実施 広報事業へのアドバイスの実施	広報戦略課	広報力向上事業	1	a	S
1-(2)-ア					外国語広報誌等の外国人市民向け広報の拡充 外国人市民向け講座（日本語講座）の実施	国際都市推進課	外国人市民向け情報発信・講座事業	2	a	A
1-(2)-イ	主体的に活動に参加できる取組	新型コロナウイルス感染症の影響により、一部の事業で事業計画通りの回数が実施できないものもあったが、中止となった事業について参加予定であった対象者の意見を集める機会を創出したり、内容を深化させることで事業を充実させる工夫が見られ、施策の方向性全体として推進を図ることができていると評価できる。 課題や今後の方向性も次年度に向けて具体的に整理されている事業が多く、今後の更なる推進にも期待をすることができる。	8	5	障害者が自ら生涯学習を楽しめる講座の実施と生涯学習に取り組む障害者への支援体制の構築	生涯学習推進課	障害者の生涯学習関連事業	2	a	A
1-(2)-イ					男女共同参画意識の向上を図りながら、能力や行動力を高めるセミナーの開催	男女共同参画室	男女共同参画啓発事業	1	a	S
1-(2)-イ					障害者スポーツ人材の育成を目指し、スポーツイベントの実施、人材の育成、体制の構築	スポーツ振興課	障害者スポーツ推進事業	2	c	C
1-(2)-イ					チャレンジアートフェスティバル、おひさまサンサン生き生きまつり等の開催、奉仕員養成講座の開催	障害者地域支援室	生涯学習関連事業（障害のある人や支援者対象）	2	a	A

No.	施策の柱	① 方向性ごとの達成状況に対する評価 評価者：生涯学習推進課 評価：各事務事業の総合評価（E～S）を点数化し、平均した点数（0～10）を施策の方向性ごとの評価とする。	施策の方向性評価	頁（資料2-2）	事業概要	担当課	事務事業名	② R4年度事務事業評価		
	施策の方向性							実施状況評価	指標評価	総合評価
地域で学び合う生涯学習										
2-(1)-ア	地域で学ぶきっかけ作り	全ての事務事業においてB以上の総合評価となり、また、AやS評価となったものも数多く、施策の方向性としては順調に推進されていると評価できる。 達成状況の詳細や課題欄からは、事業の実施自体は新型コロナウイルス感染症の影響を受けながらも工夫して実施できるようになってきたものの、参加者数やその内容で改善が必要であるとのコメントが複数あり、それに対して具体的な対応（講座の内容を分かりやすくなるよう複数に分類して参加者を募る等）も記載されている事務事業が多い。	8	6	市民との協働講座(人間学講座)の実施	生涯学習推進課	つくば人間学講座	2	b	B
2-(1)-ア				6	文化財展示施設等での展示、各種文化財・郷土史に関する講座の開設	文化財課	文化財展示講座事業	1	a	S
2-(1)-ア				6	筑波大学を始めとするつくば市域における図書館との連携、小・中・義務教育学校で実施するブックトーク等による読書促進	中央図書館	調査・研究支援事業	2	b	B
2-(1)-ア				7	外国人市民との交流事業の開催及び民間団体実施事業の周知協力	国際都市推進課	多文化共生推進事業	1	a	S
2-(1)-ア				7	スポーツ教室の充実	スポーツ振興課	スポーツ教室事業	2	b	B
2-(1)-ア				7	地域交流センターでの学級・講座の充実	文化芸術課 (令和5年度から地域支援課所管)	地域交流センター講座等事業	2	a	A
2-(1)-ア				7	筑波山地域ジオパークについての講座・体験学習の実施	ジオパーク室	筑波山地域ジオパーク推進事業	2	a	A

No.	施策の柱	① 方向性ごとの達成状況に対する評価 評価者：生涯学習推進課 評価：各事務事業の総合評価（E～S）を点数化し、平均した点数（0～10）を施策の方向性ごとの評価とする。	施策の方向性評価	頁（資料2-2）	事業概要	担当課	事務事業名	② R4年度事務事業評価		
	施策の方向性							実施状況評価	指標評価	総合評価
2-(1)-イ	地域で学びつづける 仕組み作り	ほぼ全ての事務事業で実施状況評価、指標評価ともB以上の結果を得ることができた。多くの事業で、アフターコロナを見据え、例えば動画形式の事業における対話の少なさに関する記述等、参加者の満足や向上心を刺激するための「コミュニケーション」に対する課題や今後の取組での記述があり、各事務事業の内容の深化が求められる。	7	8	生涯学習活動の継続支援	生涯学習推進課	生涯学習活動相談事業	2	a	A
2-(1)-イ				8	家庭教育学級への指導・助言、講演会等の開催	生涯学習推進課	家庭教育学級支援事業	2	a	A
2-(1)-イ				8	生涯学習情報(OB人材、指導者情報)の整備・活用	生涯学習推進課	生涯学習指導者情報提供事業	1	a	S
2-(1)-イ				8	学校施設開放(体育館・グラウンドなど)の推進	教育施設課	学校施設開放事業	2	a	A
2-(1)-イ				9	文化財の解説ボランティアの育成	文化財課	文化財サポーター事業	1	a	S
2-(1)-イ				9	生涯学習情報(OB人材、指導者情報)の整備・活用	企画経営課	つくば市OB人材活動支援事業	3	c	D
2-(1)-イ				9	市民活動センターでの活動相談、アイラブつくばまちづくり補助金事業等市民活動団体の活動支援	市民活動課 (令和5年度より市民協働課所管)	市民活動団体支援事業	2	b	B
2-(1)-イ				10	文化協会の支援	文化芸術課	文化団体等育成支援事業	1	a	S
2-(1)-イ				10	文化振興財団の支援	文化芸術課	(公財)つくば文化振興財団支援事業	2	b	B
2-(1)-イ				10	高齢者の社会活動支援	高齢福祉課	高齢者生きがい活動支援事業	2	b	B

No.	施策の柱	① 方向性ごとの達成状況に対する評価 評価者：生涯学習推進課 評価：各事務事業の総合評価（E～S）を点数化し、平均した点数（0～10）を施策の方向性ごとの評価とする。	施策の方向性評価	頁（資料2-2）	事業概要	担当課	事務事業名	② R4年度事務事業評価		
	施策の方向性							実施状況評価	指標評価	総合評価
「社会力」を持った人材の育成										
2-(2)	実践できる人材の育成	全ての事務事業で「A」評価となり、適切な事務事業の進捗を図ることができたと評価できる。基本計画でも重視している「社会力」育成事業については、社会力という概念の裾野を十分に広げることができたと評価でき、来年度以降は実際に社会で活躍する人材の育成に向け、実践的な内容としていくことを検討している。	8	11	「社会力」を持った人材を育成するために、連続講座など「社会力」を育成する講座を実施	生涯学習推進課	「社会力」人材育成事業	2	a	A
2-(2)				11	地区リーダー勉強会の開催	市民活動課 (令和5年度より市民協働課所管)	地区リーダー勉強会事業	2	a	A
2-(2)				11	まちづくりに関する講座の実施・専門家の派遣	都市計画課	地域まちづくり支援事業	2	a	A

令和4年度(2022年度)第3次生涯学習推進基本計画事務事業進捗状況一覧表

資料2-2

基本方針	施策の柱	施策の方向性	生涯学習基本計画の展開(個別事業内容)				評価の観点	年度内の実績	事業費予算	事業費決算	進捗状況の点検・評価				特記事項	
			No.	事業名	事業概要	担当課	令和4年度事業計画	令和4年度事業の成果・達成状況	単位:千円	単位:千円	実施状況	指標	総合	課題	今後の取組	
誰もが自分らしく生きるための生涯学習の推進	多様な学びの実現	施設の利便性の向上	1-(1)-ア	図書館利便性向上事業	開館時間延長の継続、地域で手軽に図書館サービスを受けられる自動車図書館ステーションと返却ができるサービスポイントの増設等	中央図書館	<p>土日の開館時間の2時間延長と祝日の特別開館を継続実施し、利用者の利便性向上を図る。</p> <p>市内50か所に設けたステーションに火曜日から土曜日に自動車図書館車3台を使って巡回し、貸出及び返却等のサービスを行う。各ステーションには2週間に1回の頻度で巡回する。また、新たなステーションの設置を検討する。</p> <p>並木・広岡・大穂・豊里・鳥名の各交流センター、市役所コミュニティ棟のブックポスト及びオンラインの4交流センターでの図書資料の返却ができる図書返却事業を継続するとともに、さらなる利便性向上のため、新たなブックポストの設置について検討を進める。</p>	<p>土日の開館時間の2時間延長と祝日の特別開館を継続して実施し、利用者の利便性向上を図った。また、市役所コミュニティ棟での予約本貸出サービスを開始した。</p> <p>火曜日から土曜日に自動車図書館車を使って巡回し、貸出及び返却等のサービスを行った。既存の2台の自動車図書館車両に加え、新たに1台を導入するとともに、新規ステーションや滞在時間の検討を行い、ステーションを50か所から54か所に増やしサービスの拡充を図った。</p> <p>並木・広岡・大穂・鳥名の各交流センター、市役所コミュニティ棟のブックポスト及びオンラインの4交流センターでの図書資料の返却ができる図書返却事業を継続し、利用者の利便性向上を図った。</p>	4,668千円	4,512千円	2	b	B	利用が少ないステーションがあり、新規ステーションの開拓とステーションの見直しが必要である。	巡回するステーションの見直しを行い、新規ステーション開拓のために現地調査を行う。各ステーションにおける利用を増やすため、積極的に広報を行う。	特になし
			1-(1)-ア	市民交流施設利便性向上事業	誰でも気軽に利用できるような施設づくり	文化芸術課(令和5年度から地域支援課所管)	<p>生涯学習活動として、様々な団体(サークル)が快適に利用できるよう、地域交流センターの維持管理を行う。</p> <p>また、茶道、華道、囲碁、料理、語学、ボランティア、短歌、音楽、手芸、絵画、書道、バレエ、ダンス、スポーツ、工芸等多様な団体(サークル)の登録を円滑に行い、誰でも気軽に利用できる施設づくりを行う。</p> <p>地域交流センターにおけるWi-Fi環境について、荻崎・竹園・並木の3地域交流センターに整備を行う。</p>	<p>新型コロナウイルス感染症の影響を受けている中での貸館運営であったが、利用者数の実績値が目標値を上回ることができた。</p> <p>交流センターのWi-Fi環境整備にあたり、予算流用等により工事費を確保したため、目標値を上回る整備ができた。</p>	331,946千円	363,587千円	2	a	A	特になし	特になし	特になし
							年間開館日数291日 年間開館時間2,743時間 自動車図書館利用人数14,000人 自動車図書館貸出冊数55,000冊 返却窓口への返却冊数130,000冊	年間開館日数280日 年間開館時間2,640時間 自動車図書館利用人数12,257人 自動車図書館貸出冊数43,141冊 返却窓口への返却冊数129,626冊								
							地域交流センター利用者数280,000人 地域交流センター登録団体1,300団体 Wi-Fi環境の整備3施設	地域交流センター利用者数355,351人 地域交流センター登録団体684団体 Wi-Fi環境の整備6施設								

基本方針	施策の柱	施策の方向性	生涯学習基本計画の展開(個別事業内容)				評価の観点	年度内の実績	事業費予算	事業費決算	進捗状況の点検・評価				特記事項	
			No.	事業名	事業概要	担当課	令和4年度 事業計画	令和4年度 事業の成果・達成状況	単位:千円	単位:千円	実施 状況	指標	総合	課題		今後の取組
誰もが自分らしく生きるための生涯学習の推進	多様な学びの実現	参加機会の拡充	1-(1)-イ	民間企業での生涯学習事業	民間企業等での生涯学習講座の実施促進	生涯学習推進課	民間企業等での講座実施回数を昨年度より増やすことを目標とし、そのために周知活動を強化する。具体的には、市内の企業や研究所が集まる会議体(例:筑波研究学園都市交流協議会)への事業周知を積極的に実施する。 また、今後の民間企業等が求める生涯学習講座へ進化させるための検討材料としてアンケートの実施を検討する。	つくば市出前講座について、民間企業及び研究機関において2回実施をすることができた。また、更なる利用促進を目指し、筑波研究学園都市交流協議会及びつくば市内工業団地に対するつくば市出前講座のPRとアンケートの実施の決定をすることができた(令和5年4月実施)。	24千円	0千円	2	a	A	民間企業の意向に応じたコンテンツの開発を必要がある。	令和5年(2023年)4月に実際に回答を収集するアンケートの結果を分析し、今後の展開を検討する。	特になし
							民間企業等での講座開催数2回 周知活動実施回数5回	民間企業等での講座開催数2回 周知活動実施回数6回								
			1-(1)-イ	オンラインによる生涯学習講座事業	ウェブを活用し、動画配信等による生涯学習講座の実施	生涯学習推進課	生涯学習推進課で実施する事業の動画配信(同時配信、アーカイブ方式含む)を継続して実施していく。	以下の事業で動画配信を実施した。 ・社会力コーディネーター養成講座 5回 ・家庭教育学級 58学級 ・社会教育講演会 2回 ・つくばちびっ子博士 1回 配信動画の満足度は、最も動画視聴された事業である「つくばちびっ子博士」事業アンケートにおいて来年度も動画視聴コンテンツを「とても利用したい」と回答した割合で算出し、目標を達成することができた。	202千円	93千円	2	a	A	新型コロナウイルスの感染状況に合わせ対面講座が増えていった際の動画配信の位置づけが難しい(対面のほうが効果があるが、配信があると配信に人が流れてしまう等)	今後も受講者のニーズを把握しながら、必要に応じて動画配信を継続していく。	特になし
					動画配信回数5回 配信動画の満足度60%	動画配信回数66回 配信動画の満足度61%										
			1-(1)-イ	地域交流センター活用事業	夜間・休日における学習機会の提供	文化芸術課(令和5年度から地域支援課所管)	新型コロナウイルス感染拡大防止のため対策を行った上で、夜間や休日に地域交流センター講座を開講することで、夜間休日における学習機会を提供する。	冬の天体観測や歴史探訪、親子向け工作等の講座を休日に実施した。	5,530千円	3,434千円	2	b	B	特になし	特になし	特になし
						夜間休日の講座の開講12回	夜間休日の講座の開講6回									

基本方針	施策の柱	施策の方向性	生涯学習基本計画の展開(個別事業内容)				評価の観点	年度内の実績	事業費予算	事業費決算	進捗状況の点検・評価				特記事項	
			No.	事業名	事業概要	担当課	令和4年度 事業計画	令和4年度 事業の成果・達成状況	単位:千円	単位:千円	実施 状況	指標	総合	課題		今後の取組
誰もが自分らしく生きるための生涯学習の推進	多様な学びの実現	生涯学習の相談・情報の提供	1-(1)-ウ	生涯学習相談事業	オンライン等でも気軽にでき、地域の実情に応じた生涯学習相談の実施	生涯学習推進課	つくば市ホームページの改修をとおして、生涯学習情報を市民が見やすく・問合せしやすい状態を作り出し、市民から生涯学習に関する相談が寄せられる環境づくり(ホームページ上での相談窓口開設等)を行う。 また、オンラインによる生涯学習相談に関する他自治体の先進事例についてヒアリング等による調査を実施し、事業改善の参考とする。	民間企業からつくば市の生涯学習サービスの活用に関する相談と民間企業のCSR活動を市民の生涯学習につなげる相談をそれぞれ1件ずつ受け、実現につなげることができた。 オンラインでの生涯学習に関する相談について、首都圏の2都市に関する調査を実施した。 また、つくば市と株式会社Bloom Actで実施されたオンライン相談システム「Rooms」の共同研究に参画し、令和5年1月から3月までオンライン相談の受付を行った。	0千円	0千円	2	b	B	・「生涯学習の相談をオンラインで行う」ということに対する潜在的ニーズを測ることができていない。 ・民間における先行事例に関する文献では、「ビデオ会議システムよりチャットの方が利用されやすい」というものもあり最適な方法が発見できていない。	引き続き、幅広く生涯学習に関する情報を発信するなかで、相談を受け付ける姿勢を強く打ち出し、市民が相談をしやすい環境を創出していく。	特になし
			1-(1)-ウ	情報収集・発信事業	広報戦略課と連携し、生涯学習情報を一元的に収集し発信	生涯学習推進課	つくば市報等において、市民にわかりやすい生涯学習に関する新たな情報発信を実施する。 つくば市ホームページの改修をとおして、つくば市の生涯学習関連情報を市民が分野横断的で簡単に入手することができる環境を作る。 つくば市が令和4年(2022年)4月に供用を開始したスマートフォンアプリ「つくスマ」を積極的に活用し、プッシュ型の通知で市民に情報提供を行う。	市民に今までよりわかりやすく情報を発信するため、つくば市生涯学習指導者登録の内容をリニューアルし、併せてホームページを改修した。 令和4年度から本格的に運用が開始されたスマートフォン向けアプリ「つくスマ」については、積極的に利用を生涯学習推進課所管事業全体で推進することができた。	0千円	0千円	2	b	B	生涯学習という概念が広範であることから、情報の一元的な発信について、その内容の整理が難しい。	引き続き広報戦略課と連携し、生涯学習に関する魅力的な情報発信を研究していく。	特になし
						相談数3件 ホームページ改修回数1回 他自治体への調査3回	相談数2件 ホームページ改修回数1回 他自治体への調査2回									
						広報紙1回 ホームページ改修回数1回 つくスマ活用回数10回	広報紙0回 ホームページ改修回数1回 つくスマ活用回数17回									

基本方針	施策の柱	施策の方向性	生涯学習基本計画の展開(個別事業内容)				評価の観点	年度内の実績	事業費予算	事業費決算	進捗状況の点検・評価				特記事項	
			No.	事業名	事業概要	担当課	令和4年度 事業計画	令和4年度 事業の成果・達成状況	単位:千円	単位:千円	実施状況	指標	総合	課題		今後の取組
誰もが自分らしく生きるための生涯学習の推進	誰一人取り残さない生涯学習	参加への障壁をなくす取組	1-(2)-ア	生涯学習ワンストップ対応事業	生涯学習講座における配慮事項を示した指針の作成 生涯学習情報のワンストップ提供	生涯学習推進課	1-(1)-ウ「情報収集・発信事業」と連動して、つくば市ホームページ改修をとした生涯学習情報発信のワンストップ化を進める。 生涯学習講座における配慮事項を示した指針について、他自治体の先進事例を研究し、ヒアリング等調査により作成に向けた検討を行う。	市民に今までよりわかりやすく情報を発信するため、つくば市生涯学習指導者登録の内容をリニューアルし、併せてホームページを改修した。 生涯学習講座に関する配慮事項の指針について、国内の事例3件について調査を行い、今後の検討の参考とすることとした。	0千円	0千円	2	a	A	つくば市においても障害を持った方全体に向けた対応の要領はあるが、生涯学習の現場で実用的に使用できるものには至っていない。	障害を持った方と協働して取り組む生涯学習の機会を積み重ね、その経験や気づきを中長期的にまとめていきたい。	特になし
			1-(2)-ア	広報力向上事業	職員向け広報セミナーの実施 広報事業へのアドバイスの実施	広報戦略課	職員それぞれの広報力向上を目的として、職員向け広報力向上セミナーを年2回以上実施する。開催方法については、昨年に引き続き対面型と動画配信型を併用する。 また、年間を通じて各課が作成するチラシやポスター等の広報部物のデザインチェックや、動画配信に係る撮影やその支援を随時行う。	今年度も新型コロナウイルス感染症に配慮し、対面型(会場参加)と動画配信型(Zoom配信、後日動画配信)を選択できるよう工夫し、職員一人一人の業務形態に合わせたセミナーを実施した。 また、ブランドイメージの統一を図るため、年間を通じて各課が制作する広報物等のデザインチェックや、各政策・事業の動画撮影及び配信の支援を実施した。	12千円	0千円	1	a	S	セミナーは、開催形式やテーマによって、参加者数にバラつきがある。	セミナーの開催形式やテーマについて、課内で重点的に検討する。	特になし
			1-(2)-ア	外国人市民向け情報発信・講座事業	外国語広報誌等の外国人市民向け広報の拡充 外国人市民向け講座(日本語講座)の実施	国際都市推進課	市が発行する文書や冊子等の翻訳 8か国語の外国語広報紙を発行 市ホームページにおける4言語での情報発信 外国人市民に向けた日本語学習支援(大人対象:日本語講座をレベル別に昼・夜コースで開催) (外国にルーツを持つ子ども達対象:プレスクール・プレクラス、こども日本語勉強会、就学・進学支援を開催)	多言語ホームページの発信において、目標値を大幅に上回る発信ができた。日本語講座について、2020年度に開始したオンライン講座(大人)と、感染症対策がなされた対面講座(こども)の両方を取り入れて実施することができた。	1,497千円	3,837千円	2	a	A	日本語講座について、対面授業をする場所の確保が難しい。	つくばセンタービルリニューアルオープン後は、施設内に日本語講座用の部屋の確保ができる見込み。	特になし
						ホームページ改修回数1回 他自治体への調査3回	ホームページ改修回数1回 他自治体への調査3回									
						セミナー参加者150人	セミナー参加者259人									
						外国語広報紙発行回数4回 ホームページでの多言語情報発信回数156回 大人向け日本語講座の受講者数240人 こども日本語勉強会の登録者数30人	外国語広報紙発行回数4回 ホームページでの多言語情報発信回数252回 大人向け日本語講座の受講者数214人 こども日本語勉強会の登録者数22人									

基本方針	施策の柱	施策の方向性	生涯学習基本計画の展開(個別事業内容)				評価の観点	年度内の実績	事業費予算	事業費決算	進捗状況の点検・評価				特記事項	
			No.	事業名	事業概要	担当課	令和4年度 事業計画	令和4年度 事業の成果・達成状況	単位:千円	単位:千円	実施 状況	指標	総合	課題		今後の取組
誰もが自分らしく生きるための生涯学習の推進	誰一人取り残さない生涯学習	主体的に活動に参加できる取組	1-(2)-イ	障害者の生涯学習関連事業	障害者が自ら生涯学習を楽しめる講座の実施と生涯学習に取り組む障害者への支援体制の構築	生涯学習推進課	令和4年度は、「障害者の自発性を取り入れる」という観点を持ち、市内の障害者教育機関と協働した障害者のための生涯学習講座を開催する。	令和4年度は2回の事業を展開した。 【風船バレー教室】 障害者自身が「みんなでやってみよう」とを挙げ、どれにするか選択し、事前準備や当日運営にも参画するつくば市と福祉型専攻科シャントイつくば間の共同事業として実証的に実施した。当日は3つの団体が集まって実施し、参加者からは普段触れ合うことのない人たちと一緒に取り組むことができたこと等について高い評価を受けた。 【障害者のための生涯学習講座】 障害者の生涯学習を進めていく上での前提となる障害者自身やその障害者を支える周囲の社会状況の理解を深めるため、「きょうだい児」をテーマとした講演会を実施した。	237千円	99千円	2	a	A	事業を量・質ともに拡大しようとする場合、事業の福祉的要素が強くなるため、庁内における連携強化が求められる。	庁内連携を深めながら、事業の推進を図っていく。	特になし
			1-(2)-イ	男女共同参画啓発事業	男女共同参画意識の向上を図りながら、能力や行動力を高めるセミナーの開催	男女共同参画室	男女共同参画に関するセミナーの開催 仕事と家庭の両立支援をはじめ、再就職支援やキャリアアップ講座など、学習機会の充実を図る。	防災、女性のエンパワーメント、健康、性的マイノリティ等をテーマに計12回実施し、男女共同参画に対する理解を深め、必要な知識やスキルを学ぶ機会を提供することができた。	8,735千円	7,752千円	1	a	S	特になし	特になし	特になし
			1-(2)-イ	障害者スポーツ推進事業	障害者スポーツ人材の育成を目指し、スポーツイベントの実施、人材の育成、体制の構築	スポーツ振興課	障害者が日常的にスポーツ・レクリエーションに取り組むことができるよう、ニーズや課題を抽出するため、アンケート調査を実施する。併せてスポーツ関連事業者等を対象に、障害者のスポーツ支援に必要な知識を得るための講座を開催する。 また、フェスティバル内で障害者スポーツ体験コーナーを設置したり、スポーツ教室の1つで、車いすパドミントン教室を開催するなど、障害者スポーツに親しむ機会を設ける。	令和4年度はこれまでと形を変え「つくば市障害者スポーツ推進プランフォーラム」として、ディスカッション形式で、障害者スポーツサポーター養成講座を実施した。障害者支援施設やスポーツ施設の職員や相談支援専門員など、スポーツや障害者に係わる方が参加し、課題の解決に向けた話し合いを行うことができた。 また、「スポーツフェスティバル&つくパラ」や障害者スポーツを体験できる教室などを開催し、障害者スポーツに触れる機会を提供することができた。	740千円	426千円	2	c	C	障害者が身近で気軽にスポーツをするためのシステムや支援体制の構築や環境の整備	令和5年度は障害者スポーツのサポーター養成講座について、スポーツ推進委員を対象として実施し、支援体制の構築を試みる。また、実際に障害者がスポーツ施設を体験利用する講座を開催する。	特になし
			1-(2)-イ	生涯学習関連事業(障害のある人や支援者対象)	チャレンジアートフェスティバル、おひさまサンサン生き生きまつり等の開催、奉仕員養成講座の開催	障害者地域支援室	チャレンジアートフェスティバルは、前年度実施できた展示や映像作品の上映のほか、舞台発表実施の検討を行う。茨城県庁やつくば市役所庁舎内での巡回展示による、一般市民への広報は引き続き取り組む。おひさまサンサン生き生きまつりの開催は検討とする。手話奉仕員養成講座は7月からの開催、音訳・点訳・要約筆記の奉仕員養成講座は9月以降の開催を予定する。	チャレンジアートフェスティバルは、三年振りに舞台発表を実施することができた。県庁展や市役所展を開催することにより、一般市民に対する事業周知を行った。おひさまサンサン生き生きまつりは中止としたが、今後の実施について高齢者及び障害者団体からの意見を伺った。奉仕員養成講座事業は、参加者へ感染防止対策をとっていたり、日程を調整するなど、参加者の不安軽減に努めた。	11,958千円	6,213千円	2	a	A	作品展の来場者数は増加傾向にあるものの、コロナウイルス感染拡大の影響により舞台発表の来場者数が平成30年度実績の約3分の1となっている。奉仕員養成講座事業は、参加者への感染対策や実施方法を工夫したため一定の参加者を得られた。	イベント周知の方法を検討し、一般市民に対する広報活動を行う。奉仕員養成講座事業の参加者募集については、PRするなど成果向上の工夫に取り組む。	特になし
						開催回数2回 講座参加者の満足度80%	開催回数2回 講座参加者の満足度100%									
						講座の開催数2回 講座の参加延べ人数20人 障スポサポーター登録者数10人	講座の開催数1回 講座の参加延べ人数10人 障スポサポーター登録者数4人									
						チャレンジアートフェスティバルへ参加者数2,150人 奉仕員養成講座受講者数55人	チャレンジアートフェスティバルへ参加者数2,053人 奉仕員養成講座受講者数56人									

基本方針	施策の柱	施策の方向性	生涯学習基本計画の展開(個別事業内容)				評価の観点	年度内の実績	事業費予算	事業費決算	進捗状況の点検・評価				特記事項	
			No.	事業名	事業概要	担当課	令和4年度 事業計画	令和4年度 事業の成果・達成状況	単位:千円	単位:千円	実施 状況	指標	総合	課題		今後の取組
学びの力をいかにすることができる生涯学習の推進	地域で学び合う生涯学習	地域で学びきっかけ作り	2-(1)-ア	つくば人間学講座	市民との協働講座(人間学講座)の実施	生涯学習推進課	市民との協働で組織する実行委員会をとおして、市民に多面的な学びの場を継続して提供していく。各講座においてはアンケートを実施し、次年度以降の開催に関する意見を集め、魅力的な事業の展開に活かしていく。	市民と協働して組織する「つくば人間学講座実行委員会」にて、講座内容を決定し、以下の4講座を開催した。 ・人工知能(AI)と人間はどう付き合っていくか 2022(2022/7/30@市民ホールやたべ) ・ある日、アートの偉大な力に気づいた人間の話(2022/9/10@アルスホール) ・歌舞伎は日本のオペレッタお能は日本のオペラです パート12(2022/11/26@つくば市役所) ・ツボを知る 心と体の手当で免疫力UP↑(2023/1/28@アルスホール)	262千円	290千円	2	b	B	・新型コロナウイルス感染症の影響も受け、目標としていた参加者数に実績が届かなかった。 ・「学園都市の特徴を活かした学びの機会を手軽に提供する」として平成7年に事業が始まってから時間が経過し、つくば市の環境・住民とも変化が起きており、参加者の新たな層の掘り起こしが進んでいない。	引き続き実行委員会の中で、市民と十分に意見交換を行いながら、市民が興味を持ち、満足してもらえる講座の実施に努める。	特になし
			2-(1)-ア	文化財展示講座事業	文化財展示施設等での展示、各種文化財・郷土史に関する講座の開設	文化財課	9月~1月にかけて、大河ドラマに関連した小田氏と小田城について紹介する催事を、関連事業として10月に体験講座を、11月に講演会を実施する。 市域の江戸時代の古文書を題材にした、古文書講座を7~9月に全7回実施する。 文化財保護強調週間と関連して、平沢官衙遺跡周辺を歩いて解説するウォーキングイベントを11月に実施する。	・古文書講座を7~8月で再開することができ、26名の参加者があり、初心者を含めて古文書や地域の歴史に親しむことができた。 ・巡回企画展「鎌倉殿の御家人『八田知家』とつくば」を9月~2月で開催し、企画展約2,500人、講演会82人、体験講座22人(市内在住、在学、在勤者)の来場者及び参加者を得た。 ・10月に「大河ドラマ『鎌倉殿の13人』スペシャルトークinつくば」を実施し、市内外から約1,000名の来場者を得た。 ・いずれもアンケートの満足度等も高く、実施によって歴史や文化財に対する市民の関心や郷土愛を育成することができた。	2,747千円	8,558千円	1	a	S	古文書講座について、アンケートの満足度が高い一方で、難易度についての意見や、また多くの人が参加できるような機会を望む声が多かった。	担当職員の負担にならないよう、隔週開催など工夫しながら初級・中級の2講座を開催する。	特になし
			2-(1)-ア	調査・研究支援事業	筑波大学を始めとするつくば市域における図書館との連携、小・中・義務教育学校で実施するブックトーク等による読書促進	中央図書館	つくば市域に所在する各機関の図書館それぞれの情報、資源及び活動成果等の交流を促進し、かつ、連携してその活用を図るため、つくば市域図書館連携協議会において協議を行う。 学校訪問ブックトーク、団体貸出し(調べ学習の支援・学級文庫支援)、ジュニア図書館員受入れ、社会科見学・職場体験学習受入れ、司書教諭及び司書教諭補助員等の研修実施といった学校図書館支援や、ファーストブック講座、ワークショップなど、各種イベントを行う。 参考資料を充実させるとともに、電話やインターネットからの調査・研究の質問を受け付け、専門職員から資料情報を提供する。	つくば市域に所在する各機関の図書館それぞれの情報、資源及び活動成果等の交流を促進し、かつ、連携してその活用を図るため、つくば市域図書館連携協議会において協議を行った。 学校訪問ブックトーク、団体貸出し(調べ学習の支援・学級文庫支援)、社会科見学、職場体験学習受入れ、学校図書館司書教諭及び司書教諭補助員等の研修、レファレンスについては、目標の達成に至らなかった。	1,122千円	1,069千円	2	b	B	新型コロナ感染症対策拡大により、イベントの縮小や中止が続いたが、今後はコロナ前の状態に戻して各種イベントを計画、開催していく必要がある。	引き続き感染症対策を行い、各種イベントを開催する。 各種イベントやレファレンス業務について積極的に広報を行う。	特になし
						開催数4回 参加者数300人	開催数4回 参加者数111人									
						企画展のテーマに沿った講演会や体験講座の開催日数2回 巡回企画展参加人数1,500人	企画展のテーマに沿った講演会や体験講座の開催日数2日 巡回企画展参加人数2,469人									
						つくば市域図書館連携協議会の開催2回 学校訪問ブックトーク40校 団体貸出図書冊数15,000冊 社会科見学等の図書館見学受入回数10回 職場体験学習受入人数40人 学校図書館司書教諭補助員等の研修参加人数170人 ファーストブック講座参加人数40人 レファレンス受付件数1,800件	つくば市域図書館連携協議会の開催2回 学校訪問ブックトーク29校 団体貸出図書冊数8,458冊 社会科見学等の図書館見学受入回数6回 職場体験学習受入人数16人 学校図書館司書教諭補助員等の研修参加人数49人 ファーストブック講座参加人数58人 レファレンス受付件数1,458件									

基本方針	施策の柱	施策の方向性	生涯学習基本計画の展開(個別事業内容)				評価の観点	年度内の実績	事業費予算	事業費決算	進捗状況の点検・評価				特記事項		
			No.	事業名	事業概要	担当課	令和4年度 事業計画	令和4年度 事業の成果・達成状況	単位:千円	単位:千円	実施状況	指標	総合	課題		今後の取組	
学びの力をいかにすることができる生涯学習の推進	地域で学び合う生涯学習	地域で学ぶきっかけ作り	2-(1)-ア	多文化共生推進事業	外国人市民との交流事業の開催及び民間団体実施事業の周知協力	国際都市推進課	国籍を越えた市民交流を推進するためのイベント等の開催 外国人市民が日本語を話したり、日本文化に触れることができるイベントの開催支援	つくば市国際交流協会主催の国際理解講座「世界お茶のみ話」は予定通り対面で実行することができた。日中国交正常化50周年にあたり、友好都市である中国・深圳市の高校生とつくば市の高校生によるオンライン交流を実施したほか、フランス・グルノーブル日本語補習校とつくば市の小学生親子によるオンライン交流を実施するなど姉妹都市・友好都市と交流を深めることができた。	0千円	95千円	1	a	S	外国人市民が日本語を話したり、日本文化に触れる機会が少ない。	つくばセンタービルリニューアルオープンに合わせ、つくば市国際交流協会が国際交流ラウンジを運営し、外国人市民向けのイベント等が実施される予定。	特になし	
			2-(1)-ア	スポーツ教室事業	スポーツ教室の充実	スポーツ振興課	市民のスポーツ活動の促進を図るため、さまざまな種類のスポーツ教室を開催し、スポーツの楽しさや健康維持の手法等を学ぶ機会やスポーツを始める機会を提供する。	【開催した教室】 バドミントン、トレイルラン、心と体をほぐすヨガ、スラックライン、体幹ムーブメント、ランニング、車いすに座ってできるスポーツ体験、スプリント、子どもの体験教室(低学年)、子どものスポーツ体験教室(高学年) 実績は目標値には達しなかったものの、感染対策を講じつつ各種教室を開催することができた。	3,354千円	1,614千円	2	b	B	民間で実施しているスポーツ教室等との別化やスポーツをはじめのきっかけとなるような教室の選定	令和5年度は子どものスポーツ体験教室やスポーツの基本となるランニング教室、障害者スポーツに関する教室などを実施する。	当初設定していた主な取組の実施形式(指標)について、実績値を出すことが困難なため、左記「教室の参加者数(延べ人数)」に変更した。なお、変更後の指標の目標値については、つくば市事務事業評価で設定している目標値(750人)として計算している。	
			2-(1)-ア	地域交流センター講座等事業	地域交流センターでの学級・講座の充実	文化芸術課(令和5年度から地域支援課所管)	新型コロナウイルス感染拡大防止のための対策を行った上で、講座を開講する。利用者アンケートや講座受講者に対するアンケート結果を踏まえ、市民ニーズに対応した講座を実施する。	新型コロナウイルス感染症の影響を受けている中での講座実施であったが、参加者がやや増加したこともあり、目標値を上回ることができた。	5,530千円	3,434千円	2	a	A	特になし	特になし	特になし	
			2-(1)-ア	筑波山地域ジオパーク推進事業	筑波山地域ジオパークについての講座・体験学習の実施	ジオパーク室	令和4年度も引き続き、ジオパークを活用した生涯学習講座を実施する。 また、将来的に、より多様で充実した生涯学習講座を実施するため、これまでの実績を整理し、今後の方針を検討する。	令和4年度は、筑波山地域ジオパークとしても、生涯学習を目的とした企画(47回)、部会、シンポジウム、ジオガイドのスキルアップ講座を実施するなど、地域を学ぶきっかけとなる機会を幅広く創出することができた。 また、筑波山地域ジオパークでは、教育・学術部会で実施可能な生涯学習講座の整理をはじめた。	8,012千円	6,059千円	2	a	A	特になし	特になし	特になし	
						世界お茶のみ話開催数12回 民間団体・事業者等と連携事業数3回 姉妹都市等との連携イベント数2回	世界お茶のみ話開催数12回 民間団体・事業者等と連携事業数3回 姉妹都市等との連携イベント数5回										
						教室の開催数12回 成人の方が教室参加後、今後もスポーツを続けたいと思った人の割合(スポーツを継続者も含む)65%	教室の開催数10回 教室の参加者数(延べ人数)589人										
						年間講座数102回	年間講座数108回										
						市民向け講座等開催数5回 部会開催数9回 ジオガイド講座開催数3回 学術シンポジウム開催数1回	市民向け講座等開催数3回 部会開催数11回 ジオガイド講座開催数4回 学術シンポジウム開催数1回										

基本方針	施策の柱	施策の方向性	生涯学習基本計画の展開(個別事業内容)				評価の観点	年度内の実績	事業費予算	事業費決算	進捗状況の点検・評価				特記事項	
			No.	事業名	事業概要	担当課					令和4年度事業計画	令和4年度事業の成果・達成状況	単位:千円	単位:千円		実施状況
学びの力をいかにすることができる生涯学習の推進	地域で学び合う生涯学習	地域で学びつづける仕組みづくり	2-(1)-イ	生涯学習活動相談事業	生涯学習活動の継続支援	生涯学習推進課	<p>出前講座事業について、新規講座を立ち上げ、市民が継続して生涯学習に取り組む支援をおこなう。</p> <p>また、1-(1)-ウ「生涯学習相談事業」、「情報収集・発信事業」と連動させた事業展開を行い、周知活動や市民が相談しやすい環境を創出するための検討を行う。</p>	<p>令和4年度は、以下の2つの新規出前講座を開設することができた。</p> <p>○人権・同和問題について(地域改善対策室)</p> <p>○今日からはじめる！基本的な感染症予防対策！(感染症対策室)</p> <p>また、更なる利用促進を目指し、筑波研究学園都市交流協議会及びつくば市内工業団地に対するつくば市出前講座のPRとアンケートの実施の決定をすることができた(令和5年4月実施)。</p>	0千円	0千円	2	a	A	生涯学習推進の活動継続における市民ニーズを正確に把握し、必要な施策を展開していく必要がある。	生涯学習推進課で展開する各種事業において、積極的に生涯学習に関する意見を収集し、今後の展開の参考としていく。	特になし
			2-(1)-イ	家庭教育学級支援事業	家庭教育学級への指導・助言、講演会等の開催	生涯学習推進課	<p>家庭教育学級、家庭教育セミナーを継続して開催する。学級の運営について、社会教育指導員が指導・助言を行い、講演会や学習会を開催する。</p>	<p>家庭教育学級については、多くの講座を動画配信で実施することで、新型コロナウイルス感染症の影響下であっても事業規模を確保することができた。社会教育講演会については、下記の内容で2回実施した。</p> <p>①10月22日「いじめの予防最前線～大人も子どもと共に学びましょう～」参加者38人</p> <p>②3月4日「その瞬間生き残れるか。」参加者35人</p> <p>家庭教育セミナーについては、学校にすべての保護者が集まる行事を利用して家庭教育のヒントとなる話を社会教育指導員より伝える機会として実施した。</p>	3,320千円	1,628千円	2	a	A	動画視聴は隙間時間で家庭教育情報が得られるメリットがあった一方、保護者間のつながりの希薄化から子育ての不安やストレスを共有できる仲間づくりができず、子育てが孤立するデメリットが浮き彫りになった。	不安やストレスを解消するため、子供を取り巻く身近な問題を語り合い共有して、「対話とつながり」に重点を置いた家庭教育学級を開催する。具体的には、対面講座を軸に保護者同士が直接会い話し合える場を提供していく。	特になし
			2-(1)-イ	生涯学習指導者情報提供事業	生涯学習情報(OB人材、指導者情報)の整備・活用	生涯学習推進課	<p>1-(1)-ウ「生涯学習相談事業」、「情報収集・発信事業」と連動し、情報提供数増に向けた周知活動を実施する。</p> <p>指導者リストの更新及びホームページの改修を行い、市民が利用しやすい情報提供体制を構築する。</p>	<p>つくば市指導者登録制度について、指導者の登録カテゴリを市民が利用しやすいように再整理を行う等、制度のリニューアルを行い、「学びのつくバンク」という愛称を設定した。</p> <p>情報提供回数は昨年度より大きく増加し、また、上記のリニューアルに併せてホームページの改修も行うことができた。</p>	0千円	0千円	1	a	S	・情報提供数の更なる増加を図っていく必要がある。 ・令和4年度に数年ぶりに指導者の登録状況を指導者に確認をとった上で整理したところ、指導者の数が減少した。	事業別だけでなく、生涯学習施策全体で広報活動を展開するという発想をもって事業を進めようと効果的な周知ができると思料する。	特になし
2-(1)-イ	学校施設開放事業	学校施設開放(体育館・グラウンドなど)の推進	教育施設課	<p>小・中学校、義務教育学校の学校体育施設の開放を行う。</p> <p>新たに中学校1校(体育館・武道場)、義務教育学校1校(大体育館)の計2校を開放する。</p> <p>つくば市学校開放新型コロナウイルス対応ガイドラインに基づき、感染拡大に注意しつつ事業を運営する。</p> <p>施設開放の制限については、国や県の制限、学校からの要請等に準拠する。</p>	<p>小中学校、義務教育学校の学校体育施設の開放を行った。</p> <p>新たに中学校1校、義務教育学校の1施設を開放した。</p> <p>また、重複申請を行っていると思われる団体について、利用状況と申請書との整合性の確認を行った。</p>	50千円	24千円	2	a	A	学校開放事業は社会体育に寄与する目的である。使用団体はスポーツ少年団、地域の高齢者団体、社会人団体、営利目的と思われる団体等多岐にわたることから、学校開放事業の在り方について、社会体育部門であるスポーツ振興課や市スポーツ協会を含めた協議・見直しが必要である。	優先すべき団体の位置づけや、使用時間の考え方、使用団体の決定の方法等が主だった改善点と考える。	特になし			
						小学校施設開放事業90% 中学校施設開放事業90% 義務教育学校施設開放事業90%	小学校施設開放事業95% 中学校施設開放事業98% 義務教育学校施設開放事業100%									

基本方針	施策の柱	施策の方向性	生涯学習基本計画の展開(個別事業内容)				評価の観点	年度内の実績	事業費予算	事業費決算	進捗状況の点検・評価				特記事項	
			No.	事業名	事業概要	担当課	令和4年度 事業計画	令和4年度 事業の成果・達成状況	単位:千円	単位:千円	実施 状況	指標	総合	課題		今後の取組
学びの力をいかすことができる生涯学習の推進	地域で学び合う生涯学習	地域で学びつづける仕組みづくり	2-(1)-イ	文化財サポーター事業	文化財の解説ボランティアの育成	文化財課	令和3年度も引き続き新型コロナウイルスの影響もよりボランティアの活動機会がほとんどなかったものの、登録者は当初の目標を達成することができた。 今年度も、感染症対策を徹底しながら10～12月に全6回のボランティア養成講座を開講し、登録者を増やす。 また、新型コロナウイルスの影響で解説依頼が激減している中、登録者の知見向上を目指すための臨時講座を開講し、講座修了者からボランティア登録者を募り、展示施設や文化財の解説のほか、学校支援業務への協力、文化財の見回り、イベント時の補助、展示作成時の補助などを実施する。 小田城跡のボランティア団体である常陸小田城親衛隊の会についても、知見向上のための定期的に研修会を実施する。	・10月～12月に谷田部・桜地区の解説を目標とした第4回解説ボランティア養成講座(全6回)を開催、修了者8名のうち新規登録者8名で、計31名となった。 ・大河ドラマトークショーのイベント補助や、学校授業における展示施設の解説をボランティア登録者へ依頼し、協力を得た。 ・ボランティア登録者を対象とした臨時講座を2回、意見交換会を1回開催した。 ・年間を通じて、民間のボランティア団体「常陸小田城親衛隊の会」と連携し、小田城跡での解説や会員への研修等を実施。市の事業に市民が参加し、文化財への理解と愛着を深める機会とすることができた。	237千円	211千円	1	a	S	ボランティア登録者の意欲を維持・継続するため、臨時講座等を学校解説シーズン等前に実施する必要がある。	ボランティア登録者を対象とした臨時講座を開催して登録者の知見を深めるほか、意見交換会を実施して意見を受けることにより、よりよい事業の改善を目指す。	特になし
			2-(1)-イ	つくば市OB人材活動支援事業	生涯学習情報(OB人材、指導者情報)の整備・活用	企画経営課	昨年度からオンラインでの対応が可能となったことで、感染症の影響を最小限に止め切れ目なく事業を継続するとともに、シニア・エキスパート便覧を改定する(第20版)等の必要な広報活動を実施する。	依然として新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受けている中ではあるが、パンフレット・便覧の配布やホームページ等における周知を継続的に実施したことに加え、令和5年度以降のV字回復へ弾みをつけるため、高齢福祉課発行のシニア向け冊子へも掲載することで、事業を広く周知した。	9千円	9千円	3	c	D	登録者の高齢化に伴い、活動の継続を断念する場合が見受けられることに加え、定年延長を始めとする雇用制度の変化により新規登録者数が減少傾向にある。さらに、他部署において類似の取り組みがあることや、講師の多くが研究機関や大学との関係があることから、本事業を発展させるに当たっては、生涯学習や科学技術を所掌する他部署と連携する必要がある。	継続した周知を図るとともに、利用者のニーズや登録者の活動意欲に沿った効果的な活用方法を検討する。	特になし
			2-(1)-イ	市民活動団体支援事業	市民活動センターでの活動相談、アイラブつくばまちづくり補助金事業等市民活動団体の活動支援	市民活動課(令和5年度より市民協働課所管)	市民活動団体等の取組を応援し、相談を受けるとともに、市民団体の新たな活動を支援する。 アイラブつくばまちづくり寄付基金を活用し、個性豊かで活力あるまちづくりの実現を目指すため、市民主体の公益的な活動を支援する。	市民活動センターが市の直営となり、市民活動課と連携を取りながら、相談事業等市民活動団体支援のための様々な業務に取り組むことができた。 また、アイラブつくばまちづくり寄附基金を有効活用し、市民活動団体等が自主的に企画し提案した事業に補助金を交付するとともに、担当部署の協力により事業の自立に向けた支援を行うことができた。	6,384千円	4,600千円	2	b	B	新型コロナウイルス感染症の影響で、市民活動団体等の活動制限により利用者数や相談件数は目標値に達しなかったが、アイラブつくば補助金採択事業数は目標値に達し、一定の実績をあげることができたため。	市民活動センターと連携支援等を行いながら、市民活動団体等の要望等の解決を目指す。また、新たな市民活動拠点として新施設の検討を行う。 アイラブつくばまちづくり補助金交付回数終了後の自主財源確保に向けた採択団体のニーズについて、市公式フェイスブックページ「つくば市民活動のひろば」取材時に調査を行い、課題解決に向けた施策について調査・研究を行う。	特になし

基本方針	施策の柱	施策の方向性	生涯学習基本計画の展開(個別事業内容)				評価の観点	年度内の実績	事業費予算	事業費決算	進捗状況の点検・評価				特記事項	
			No.	事業名	事業概要	担当課	令和4年度 事業計画	令和4年度 事業の成果・達成状況	単位:千円	単位:千円	実施状況	指標	総合	課題		今後の取組
学びの力をいかすことができる生涯学習の推進	地域で学び合う生涯学習	地域で学びつづける仕組みづくり	2-(1)-イ	文化団体等育成支援事業	文化協会の支援	文化芸術課	市民の文化活動の活性化を目指し、つくば市文化協会に対する事業費補助として補助金を交付し、主体的な活動を促進するよう支援する。 事業実施の際には、新型コロナウイルス感染症対策や、会計処理について指導を行う。	市民ホールや交流センター、美術館など、つくば市内を拠点として事業を展開した。新型コロナウイルス感染症対策を講じて、予定していた全ての事業を実施し、文化芸術活動を推進することができた。 また、本年度新たな試みとして参加・体験型公演としてレクチャーコンサートを実施し、文化芸術に触れる機会の拡充を図ることができた。	1,200千円	1,200千円	1	a	S	・新型コロナウイルス感染症対策を講じた上で当初の計画を上回る事業を展開することができた。 ・今後はウィズコロナ、アフターコロナを見据えた事業展開を検討していく必要がある。	令和4年度は、レクチャーコンサートを2回実施した。今後も参加・体験型コンサート等の企画を開催し、多くの市民が文化芸術に触れる機会の拡充を図っていく。	特になし
			2-(1)-イ	(公財)つくば文化振興財団支援事業	文化振興財団の支援	文化芸術課	公益財団法人つくば文化振興財団への指導・助言のほか、財政的支援として行政補完型運営補助金の交付を行う。 また、同財団と協定を締結し、共同主催により市内の文化施設等で音楽・演劇・芸能・美術等の幅広いジャンルの文化芸術振興事業を実施する。	新型コロナウイルス感染症対策を講じた上で、ノバホールやつくばカピオ、市民ホールなどを会場として公演事業を実施したほか、美術館での展覧会、小中学生を対象としたアウトリーチ、文化芸術支援なども並行して展開し、計画された事業を全て実施することができた。 文化芸術公演における入場率について、令和3年度が56.8%に対し、令和4年度は70.7%と大幅に上回り、市民ニーズが高く、予想以上の集客が図れた。	55,000千円	49,981千円	2	b	B	・ウィズコロナ、アフターコロナを見据えた事業方法・事業展開を検討していく必要がある。ホール公演のみに依存しない企画内容の検討が必要になる。 ・限られた予算の中で、満足度の高い企画を提供していくために、企画の内容、実施方法を検討していく。	・実施する企画内容を精査し、収支バランスを考慮した事業内容について検討していく。 ・アフターコロナを見据え、従来からの市民参加型事業をはじめ、幅広い対象を世代を対象にバランスのとれた各種事業を展開していく。	特になし
			2-(1)-イ	高齢者生きがい活動支援事業	高齢者の社会活動支援	高齢福祉課	【各種イベントやシルバークラブ活動への支援】 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、イベント開催中止や事業規模縮小となったが、内容変更等対策を講じ、高齢者の健康づくりや生きがいづくり、社会参加の促進に寄与した。 また、129の単位シルバークラブを含むシルバークラブ連合会に補助金を交付することで、その活動を支援した。 いばらきねんりんスポーツ大会は5月に地区予選会、6月に市大会を実施した。 【シルバー人材センター】 新規入会者64名 退会者99名 市からは、施設の夜間当番/草刈り/清掃等を依頼している。 補助金を交付することにより、シルバー人材センターの円滑な運営を支援し、高齢者の生きがいの充実、社会参加の促進等に寄与できた。	【各種イベントやシルバークラブ活動への支援】 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、イベント開催中止や事業規模縮小となったが、内容変更等対策を講じ、高齢者の健康づくりや生きがいづくり、社会参加の促進に寄与した。 また、129の単位シルバークラブを含むシルバークラブ連合会に補助金を交付することで、その活動を支援した。 いばらきねんりんスポーツ大会は5月に地区予選会、6月に市大会を実施した。 【シルバー人材センター】 新規入会者64名 退会者99名 市からは、施設の夜間当番/草刈り/清掃等を依頼している。 補助金を交付することにより、シルバー人材センターの円滑な運営を支援し、高齢者の生きがいの充実、社会参加の促進等に寄与できた。	42,246千円	41,844千円	2	b	B	シルバークラブ会員数が減少傾向にある。	若手会員の加入促進や魅力ある活動メニューを広げる取組みに努めることで、シルバークラブ連合会全体の活性化を支援する。	特になし
						主催事業の実施10回	主催事業の実施15回									
						文化芸術振興事業の実施23回	文化芸術振興事業の実施20事業									
						シルバークラブ会員数6,670人 単位シルバークラブ数140団体 契約件数4,400件 参加者数600人	シルバークラブ会員数6,113人 単位シルバークラブ数129団体 契約件数2,858件 参加者数536人									

基本方針	施策の柱	施策の方向性	生涯学習基本計画の展開(個別事業内容)				評価の観点	年度内の実績	事業費予算	事業費決算	進捗状況の点検・評価				特記事項	
			No.	事業名	事業概要	担当課	令和4年度 事業計画	令和4年度 事業の成果・達成状況	単位:千円	単位:千円	実施状況	指標	総合	課題		今後の取組
学びの力をいかすことができる生涯学習の推進	「社会力」を持った人材の育成	実践できる人材の育成	2-(2)	「社会力」人材育成事業	「社会力」を持った人材を育成するために、連続講座など「社会力」を育成する講座を実施	生涯学習推進課	令和4年度は「社会力について知る」という令和3年度の講座からバージョンアップし、社会力を生かして活躍していく人材である「社会力コーディネーター」を養成することをテーマとした講座を年5回実施する。 令和5年度以降の社会力を具体的に育成していくための事業展開を検討していく。	社会力に関する講座の実施2年度目として、社会力をいかして活躍するロールモデルとしての「社会力コーディネーター」の存在にスポットを当て、市内外における先進事例を実際に運営する人物(=社会力コーディネーター)を講師として招き、参加者への学びと動機付けを5回の講座として実施することができた(参加者数198人)。 令和3年度の講座参加者が56人であったことから、社会力という考え方がつくば市内で広がり、興味を持つ人が増えてきたと考えることができる。	650千円	650千円	2	a	A	第3次つくば市生涯学習推進基本計画に合わせ5か年で実施する予定だが、実際に社会力を発揮し活動できるよう、来年度以降はより実践的な内容としていく必要がある。	令和5年度の講座は「実践編」として実施し、講座受講者が実際に「社会力」を発揮して地域で活躍する団体の活動に体験参加する内容を講座に盛り込む。	特になし
			2-(2)	地区リーダー勉強会事業	地区リーダー勉強会の開催	市民活動課(令和5年度より市民協働課所管)	地域のリーダーである区長の担い手不足など、区会における近年の課題をテーマにした勉強会(講演会等)を開催して、その解決策を検討していく。9月に開催を計画している。	地区リーダー勉強会については、令和2年度及び3年度は新型コロナウイルス感染症の影響から中止とした。令和4年度は、講演のテーマを「巨大地震と豪雨災害への備え」として、災害のリスクについて認識し、自分で守る「自助」、地域で助け合う「共助」に関する内容を市公式Youtubeチャンネルにて配信した。 配信形式で実施したことにより、参加者(視聴者)が大幅に増え、より多くの区長等に参加(視聴)していただくことができた。	356千円	330千円	2	a	A	各地域のコミュニティ活動をより活性化するため、地域社会のリーダーである区長へ向けた勉強会(講演会等)の内容を引き続き検討していく。	市区会連合会及び各地区会連合会と連携して事業を進めていく。	特になし
			2-(2)	地域まちづくり支援事業	まちづくりに関する講座の実施・専門家の派遣	都市計画課	【都市計画講座の実施】 市民向けに、まちづくりへの関心と理解を深めることを目的として、都市計画の制度やつくば市の現状を紹介し、現地見学会を行う講座を開催する。 【まちづくり見学会の実施】 地域まちづくりグループ及び推進団体を対象として、今後のまちづくりの参考となるよう先進地を訪問し、現地見学会を行う講座を開催する。 【専門家の派遣】 地域住民などで構成される地域まちづくりグループや地域まちづくり推進団体等が活動を行う上で、組織の運営に関すること、まちの課題や将来像に関すること等について指導や助言等を求めてきた際に、地域まちづくり専門家の派遣を行う。	【まちづくりに関する講座の実施】 新型コロナウイルス感染症の影響も懸念されたが、谷田部地区を対象とした街歩き・グループワークにより多くの方々に学びの機会を提供することができた。 【専門家の派遣】 地域まちづくり推進グループ及び地域まちづくり推進団体からあった申請すべてに対し適切に専門家を派遣することができた。	330千円	180千円	2	a	A	特になし	特になし	特になし

基本方針	施策の柱	施策の方向性	生涯学習基本計画の展開(個別事業内容)				評価の観点		事業費予算		進捗状況の点検・評価				
			No.	事業名	事業概要	担当課	(参考)令和4年度 事業の成果・ 達成状況	令和5年度 事業計画	令和4年度決算 (単位:千円)	令和5年度予算 (単位:千円)	実施 状況	指標	総合	課題	今後の取組
誰もが自分らしく生きるための生涯学習の推進	多様な学びの実現	施設の利便性の向上	1-(1)-ア	図書館利便性向上事業	開館時間延長の継続、地域で手軽に図書館サービスを受けられる自動車図書館ステーションと返却ができるサービスポイントの増設等	中央図書館	<p>土日の開館時間を2時間延長と祝日の特別開館を継続して実施し、利用者の利便性向上を図った。また、市役所コミュニティ棟での予約本貸出サービスを開始した。火曜日から土曜日に自動車図書館車を使って巡回し、貸出及び返却等のサービスを行った。既存の2台の自動車図書館車両に加え、新たに1台を導入するとともに、新規ステーションや滞在時間の検討を行い、ステーションを50か所から54か所に増やしサービスの拡充を図った。</p> <p>並木・広岡・大穂・島名の各交流センター、市役所コミュニティ棟のブックポスト及びオンラインの4交流センターでの図書資料の返却ができる図書返却事業を継続し、利用者の利便性向上を図った。</p>	<p>土日の開館時間2時間延長と祝日の特別開館の継続および市庁舎コミュニティ棟における予約本の貸出しを継続し、利用者の利便性向上を図る。また、かとりだい交流館、研究学園小学校図書室でのサービスを開始し、サービスポイントの拡充を図る。火曜日から土曜日に自動車図書館車3台を使って、市内57か所のステーションで貸出及び返却等のサービスを行う。各ステーションは2週間に1回の頻度で巡回する。</p> <p>並木・広岡・大穂・島名の各交流センター、市役所コミュニティ棟のブックポスト及びオンラインの4交流センターでの図書資料の返却ができる図書返却事業を継続するとともに、新たにかとりだい交流館にブックポストを設置し、更なる利便性向上を図る。</p>	4,512千円	4,680千円					
							<p>年間開館日数280日 年間開館時間2,640時間 自動車図書館利用人数12,257人 自動車図書館貸出冊数43,141冊 返却窓口への返却冊数129,626冊</p>	<p>年間開館日数291日 年間開館時間2,743時間 自動車図書館利用人数14,000人 自動車図書館貸出冊数65,000冊 返却窓口への返却冊数170,000冊</p>							
			1-(1)-ア	市民交流施設利便性向上事業	誰でも気軽に利用できるような施設づくり	地域支援課	<p>新型コロナウイルス感染症の影響を受けている中での貸館運営であったが、利用者数の実績値が目標値を上回ることができた。</p> <p>交流センターのWiFi環境整備にあたり、予算流用等により工事費を確保したため、目標値を上回る整備ができた。</p>	<p>市民の自主的な活動や交流の場として、様々な団体(サークル)が快適に利用できるよう、地域交流センターの維持管理を行う。</p> <p>また、茶道、華道、囲碁、料理、語学、ボランティア、短歌、音楽、手芸、絵画、書道、バレエ、ダンス、スポーツ、工芸等多様な団体(サークル)の登録を円滑に行い、誰でも気軽に利用できる施設づくりを行う。</p>	363,587千円	513,526千円					
						<p>地域交流センター利用者数355,351人 地域交流センター登録団体684団体 Wi-Fi環境の整備6施設</p>	<p>地域交流センター利用者数470,000人 地域交流センター登録団体800団体 地域交流センターWi-Fi整備10施設</p>								

基本方針	施策の柱	施策の方向性	生涯学習基本計画の展開(個別事業内容)				評価の観点		事業費予算		進捗状況の点検・評価				
			No.	事業名	事業概要	担当課	(参考)令和4年度 事業の成果・ 達成状況	令和5年度 事業計画	令和4年度決算 (単位:千円)	令和5年度予算 (単位:千円)	実施 状況	指 標	総 合	課題	今後の取組
誰もが自分らしく生きるための生涯学習の推進	多様な学びの実現	参加機会の拡充	1-(1)-イ	民間企業での生涯学習事業	民間企業等での生涯学習講座の実施促進	生涯学習推進課	つくば市出前講座について、民間企業及び研究機関において2回実施をすることができた。また、更なる利用促進を目指し、筑波研究学園都市交流協議会及びつくば市内工業団地に対するつくば市出前講座のPRとアンケートの実施の決定をすることができた(令和5年4月実施)。	民間企業等からの要望や意見を生涯学習推進課の事業に反映させながら、民間企業等での生涯学習講座の実施実績を伸ばしていく。	0千円	25千円					
							民間企業等での講座開催数2回 周知活動実施回数6回	民間企業等での講座開催回数5回							
			1-(1)-イ	オンラインによる生涯学習講座事業	ウェブを活用し、動画配信等による生涯学習講座の実施	生涯学習推進課	以下の事業で動画配信を実施した。 ・社会力コーディネーター養成講座 5回 ・家庭教育学級 58学級 ・社会教育講演会 2回 ・つくばちびっ子博士 1回 配信動画の満足度は、最も動画視聴された事業である「つくばちびっ子博士」事業アンケートにおいて来年度も動画視聴コンテンツを「とても利用したい」と回答した割合で算出し、目標を達成することができた。	動画を活用して生涯学習講座を実施するという点については、定着が見られるため、令和5年度は生涯学習に関する講座等での動画の内容・本数の充実を図っていく。	93千円	442千円					
						動画配信回数66回 配信動画の満足度61%	新規動画数13本 視聴動画の満足度80%								
			1-(1)-イ	地域交流センター活用事業	夜間・休日における学習機会の提供	地域支援課	冬の天体観測や歴史探訪、親子向け工作等の講座を休日に実施した。	平日昼間に就労している社会人や子育て中の方等も含め、より多くの方が参加しやすいよう、夜間や休日に実施する講座を設定することで、夜間休日における学習機会を提供する。	3,434千円	5,622千円					
							夜間休日の講座の開講6回	夜間休日の講座の開講12回							

基本方針	施策の柱	施策の方向性	生涯学習基本計画の展開(個別事業内容)				評価の観点		事業費予算		進捗状況の点検・評価				
			No.	事業名	事業概要	担当課	(参考)令和4年度 事業の成果・ 達成状況	令和5年度 事業計画	令和4年度決算 (単位:千円)	令和5年度予算 (単位:千円)	実施 状況	指標	総合	課題	今後の取組
誰もが自分らしく生きるための生涯学習の推進	多様な学びの実現	生涯学習の相談・情報の提供	1-(1)-ウ	生涯学習相談事業	オンライン等でも気軽にでき、地域の実情に応じた生涯学習相談の実施	生涯学習推進課	民間企業からつくば市の生涯学習サービスの活用に関する相談と民間企業のCSR活動を市民の生涯学習につなげる相談をそれぞれ1件ずつ受け、実現につなげることができた。 オンラインでの生涯学習に関する相談について、首都圏の2都市に関する調査を実施した。 また、つくば市と株式会社Bloom Actで実施されたオンライン相談システム「Rooms」の共同研究に参画し、令和5年1月から3月までオンライン相談の受付を行った。	令和4年度に引き続き、つくば市ホームページにおける生涯学習情報発信の見せ方のマイナーチェンジや、つくば市の広報誌等を活用した生涯学習相談の周知を実施する。また、生涯学習相談をオンラインでも受けるための環境整備にも取り組む。	0千円	0千円					
							相談数2件 ホームページ改修回数1回 他自治体への調査2回	相談数3回 調査研究3回							
			1-(1)-ウ	情報収集・発信事業	広報戦略課と連携し、生涯学習情報を一元的に収集し発信	生涯学習推進課	市民に今までよりわかりやすく情報を発信するため、つくば市生涯学習指導者登録の内容をリニューアルし、併せてホームページを改修した。 令和4年度から本格的に運用が開始されたスマートフォン向けアプリ「つくスマ」については、積極的に利用を生涯学習推進課所管事業全体で推進することができた。	つくば市報における生涯学習の一元的情報発信を実施するために計画を進めていく。 その他、引き続きつくば市ホームページの改修を通じた一元的情報発信の促進及び積極的な「つくスマ」アプリの活用を進めていく。	0千円	0千円					
							広報紙0回 ホームページ改修回数1回 つくスマ活用回数17回	広報紙を活用した新規情報発信1回 ホームページ改修回数1回 つくスマ活用回数20回							

基本方針	施策の柱	施策の方向性	生涯学習基本計画の展開(個別事業内容)				評価の観点		事業費予算		進捗状況の点検・評価				
			No.	事業名	事業概要	担当課	(参考)令和4年度 事業の成果・ 達成状況	令和5年度 事業計画	令和4年度決算 (単位:千円)	令和5年度予算 (単位:千円)	実施 状況	指 標	総 合	課題	今後の取組
誰もが自分らしく生きるための生涯学習の推進	誰一人取り残さない生涯学習	参加への障壁をなくす取組	1-(2)-ア	生涯学習ワンストップ対応事業	生涯学習講座における配慮事項を示した指針の作成 生涯学習情報のワンストップ提供	生涯学習推進課	市民に今までよりわかりやすく情報を発信するため、つくば市生涯学習指導者登録の内容をリニューアルし、併せてホームページを改修した。 生涯学習講座に関する配慮事項の指針について、国内の事例3件について調査を行い、今後の検討の参考とすることとした。	1-(1)-ウ「情報収集・発進事業」及び1-(2)-イ「障害者の生涯学習関連事業」と連動して、生涯学習に関する情報発信についてワンストップ化に引き続き努める。また、生涯学習講座における配慮事項については実際に実施した「障害者の生涯学習事業」で得られた気づきや学びを記録し、ノウハウを蓄積していく。	0千円	0千円					
							ホームページ改修回数1回 他自治体への調査3回	ホームページ改修回数1回 障害者の生涯学習に関する記録作成1回							
			1-(2)-ア	広報力向上事業	職員向け広報セミナーの実施 広報事業へのアドバイスの実施	広報戦略課	今年度も新型コロナウイルス感染症に配慮し、対面型(会場参加)と動画配信型(Zoom配信、後日動画配信)を選択できるように工夫し、職員一人一人の業務形態に合わせたセミナーを実施した。 また、ブランドイメージの統一を図るため、年間を通じて各課が制作する広報物等のデザインチェックや、各政策・事業の動画撮影及び配信の支援を実施した。	職員一人一人の広報力向上を目的として、職員向け広報力向上セミナーを年2回以上実施する。開催方法については、昨年に引き続き対面型と動画配信型を併用する。 また、年間を通じて各課が作成するチラシやポスター等の広報物のデザインチェックや、動画配信に係る撮影やその支援を随時行う。	0千円	12千円					
						セミナー参加者259人	セミナー参加者150人								
			1-(2)-ア	外国人市民向け情報発信・講座事業	外国語広報誌等の外国人市民向け広報の拡充 外国人市民向け講座(日本語講座)の実施	国際都市推進課	多言語ホームページの発信において、目標値を大幅に上回る発信ができた。日本語講座について、2020年度に開始したオンライン講座(大人)と、感染症対策がなされた対面講座(子ども)の両方を取り入れて実施することができた。	市が発行する文書や冊子等の翻訳 8か国語の外国語広報紙を発行 市ホームページにおける4言語での情報発信 外国人市民に向けた日本語学習支援(大人対象:日本語講座をレベル別に昼・夜コースで開催) (外国にルーツを持つ子ども対象:プレスクール・プレクラス、子ども日本語勉強会、就学・進学支援を開催)	3,837千円	6,462千円					
						外国語広報紙発行回数4回 ホームページでの多言語情報発信回数252回 大人向け日本語講座の受講者数214人 子ども日本語勉強会の登録者数22人	外国語広報紙発行回数4回 ホームページでの多言語情報発信回数156回 大人向け日本語講座の受講者数240人 子ども日本語勉強会の登録者数30人								

基本方針	施策の柱	施策の方向性	生涯学習基本計画の展開(個別事業内容)				評価の観点		事業費予算		進捗状況の点検・評価				
			No.	事業名	事業概要	担当課	(参考)令和4年度 事業の成果・ 達成状況	令和5年度 事業計画	令和4年度決算 (単位:千円)	令和5年度予算 (単位:千円)	実施 状況	指標	総合	課題	今後の取組
誰もが自分らしく生きるための生涯学習の推進	誰一人取り残さない生涯学習	主体的に活動に参加できる取組	1-(2)-イ	障害者の生涯学習関連事業	障害者が自ら生涯学習を楽しめる講座の実施と生涯学習に取り組む障害者への支援体制の構築	生涯学習推進課	令和4年度は2回の事業を展開した。 【風船バレー教室】 障害者自身が「みんなでやってみよう」を挙げ、どれにするか選択し、事前準備や当日運営にも参画するつくば市と福祉型専攻科シヤンティつくば間の共同事業として実証的に実施した。当日は3つの団体が集まって実施し、参加者からは普段触れ合うことのない人たちと一緒に取り組むことができたこと等について高い評価を受けた。 【障害者のための生涯学習講座】 障害者の生涯学習を進めていく上での前提となる障害者自身やその障害者を支える周囲の社会状況の理解を深めるため、「きょうだい児」をテーマとした講演会を実施した。	令和5年度も「障害者の自発性を取り入れる」という観点を持ち、それを令和4年度より深めていくことを目的とし、市内の障害者教育機関と協働した障害者のための生涯学習講座又は体験活動を開催する。	99千円	388千円					
			1-(2)-イ	男女共同参画啓発事業	男女共同参画意識の向上を図りながら、能力や行動力を高めるセミナーの開催	男女共同参画室	防災、女性のエンパワーメント、健康、性的マイノリティ等をテーマに計12回実施し、男女共同参画に対する理解を深め、必要な知識やスキルを学ぶ機会を提供することができた。	男女共同参画に関するセミナーの開催 仕事と家庭の両立支援をはじめ、再就職支援やキャリアアップ講座など、学習機会の充実を図る。	7,752千円	7,671千円					
			1-(2)-イ	障害者スポーツ推進事業	障害者スポーツ人材の育成を目指し、スポーツイベントの実施、人材の育成、体制の構築	スポーツ振興課	令和4年度はこれまでと形を変え「つくば市障害者スポーツ推進プランフォーラム」として、ディスカッション形式で、障害者スポーツサポーター養成講座を実施した。障害者支援施設やスポーツ施設の職員や相談支援専門員など、スポーツや障害者に係る方が参加し、課題の解決に向けた話し合いを行うことができた。 また、「スポーツフェスティバル&つくぱら」や障害者スポーツを体験できる教室などを開催し、障害者スポーツに触れる機会を提供することができた。	障害者が日常的にスポーツ・レクリエーションに取り組むことができるよう、サポート体制を強化するため、障害者のスポーツ支援に必要な知識を得るための講座を開催する。 また、スポーツフェスティバル内で障害者スポーツを体験するコーナーを設置したり、障害者スポーツを体験できる教室を開催するなど、障害者スポーツに親しむ機会を設ける。	426千円	1,275千円					
			1-(2)-イ	生涯学習関連事業(障害のある人や支援者対象)	チャレンジアートフェスティバル、おひさまサンサン生き生きまつり等の開催、奉仕員養成講座の開催	障害者地域支援室	チャレンジアートフェスティバルは、三年振りに舞台発表を実施することができた。県庁展や市役所展を開催することにより、一般市民に対する事業周知を行った。おひさまサンサン生き生きまつりは中止としたが、今後の実施について高齢者及び障害者団体からの意見を伺った。奉仕員養成講座事業は、参加者へ感染防止対策をとっていたり、日程を調整するなど、参加者の不安軽減に努めた。	チャレンジアートフェスティバルは、作品展と舞台発表を実施する。加えて、茨城県庁やつくば市役所庁舎内での巡回展示による、一般市民への広報は引き続き取り組む。 おひさまサンサン生き生きまつりは、障害者と高齢者交流による社会参加を目的として開催予定としている。 令和5年度の奉仕員養成講座は、年間に手話奉仕員養成講座入門・基礎コースとも各30回、要約筆記・音訳・点訳奉仕員養成講座各10回実施する。奉仕員を養成することにより聴覚障害者等に対する日常生活に支援を図り、社会参加に寄与する。	6,213千円	12,331千円					
						開催回数2回 講座参加者の満足度100%	講座参加者数20名 講座参加者の満足度90%								
						講座の開催数1回 講座の参加延べ人数10人 障スポサポーター登録者数4人	講座・教室の数2回 講座・教室の参加延べ人数25人								
						チャレンジアートフェスティバルへ参加者数2,053人 奉仕員養成講座受講者数56人	チャレンジアートフェスティバル2,200人 おひさまサンサン生き生きまつり700人 奉仕員養成講座75人								

基本方針	施策の柱	施策の方向性	生涯学習基本計画の展開(個別事業内容)				評価の観点		事業費予算		進捗状況の点検・評価				
			No.	事業名	事業概要	担当課	(参考)令和4年度 事業の成果・ 達成状況	令和5年度 事業計画	令和4年度決算 (単位:千円)	令和5年度予算 (単位:千円)	実施 状況	指標	総合	課題	今後の取組
学びの力をいかにすることができる生涯学習の推進	地域で学び合う生涯学習	地域で学びきっかけ作り	2-(1)-ア	つくば人間学講座	市民との協働講座(人間学講座)の実施	生涯学習推進課	<p>市民と協働して組織する「つくば人間学講座実行委員会」にて、講座内容を決定し、以下の4講座を開催した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人工知能(AI)と人間はどうか 2022(2022/7/30@市民ホールやたべ) ・ある日、アートの偉大な力に気づいた人間の話(2022/9/10@アルスホール) ・歌舞伎は日本のオペレッタお能は日本のオペラです パート12(2022/11/26@つくば市役所) ・ツボを知る 心と体の手当てで免疫力UP↑(2023/1/28@アルスホール) <p>開催数4回 参加者数111人</p>	<p>令和4年度に引き続き、市民との協働で組織する実行委員会をとおり、市民に多面的な学びの場を提供していく。</p> <p>【実施テーマ(予定)】発達障害、農業、美容、天気</p> <p>参加者数200人 満足度80%</p>	290千円	375千円					
			2-(1)-ア	文化財展示講座事業	文化財展示施設等での展示、各種文化財・郷土史に関する講座の開設	文化財課	<ul style="list-style-type: none"> ・古文書講座を7~8月で再開することができ、26名の参加者があり、初心者を含めて古文書や地域の歴史に親しむことができた。 ・巡回企画展「鎌倉殿の御家人『八田知家』とつくば」を9月~2月で開催し、企画展約2,500人、講演会82人、体験講座22人(市内在住・在学・在勤者)の来場者・参加者を得た。 ・10月に「大河ドラマ『鎌倉殿の13人』スペシャルトークinつくば」を実施し、市内外から約1,000名の来場者を得た。 ・いずれもアンケートの満足度等も高く、実施によって歴史や文化財に対する市民の関心や郷土愛を育成することができた。 <p>企画展のテーマに沿った講演会や体験講座の開催日数2日 巡回企画展参加人数2,469人</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・10月~2月にかけて巡回企画展を、関連事業として11月に体験講座を、12月に講演会を実施する。 ・市域に伝わる江戸時代の古文書を題材にした古文書講座を、難易度に分け、8~9月・1~2月にそれぞれ全4回実施する。 ・「ちびっ子博士」のイベント開催時期に合わせて、夏休みに市内小学生を対象とした勾玉作り講座を実施する。 <p>企画展のテーマに沿った講演会や体験講座の開催日数2日 巡回企画展参加人数1,500人</p>	8,558千円	4,318千円					
			2-(1)-ア	調査・研究支援事業	筑波大学を始めとするつくば市域における図書館との連携、小・中・義務教育学校で実施するブックトーク等による読書促進	中央図書館	<p>つくば市域に所在する各機関の図書館それぞれの情報、資源及び活動成果等の交流を促進し、かつ、連携してその活用を図るため、つくば市域図書館連携協議会において協議を行った。</p> <p>学校訪問ブックトーク、団体貸出し(調べ学習の支援・学級文庫支援)、社会科見学、職場体験学習受入れ、学校図書館司書教諭及び司書教諭補助員等の研修、レファレンスについては、目標の達成に至らなかった。</p> <p>つくば市域図書館連携協議会の開催2回 学校訪問ブックトーク29校 団体貸出図書冊数8,458冊 社会科見学等の図書館見学受入回数6回 職場体験学習受入人数16人 学校図書館司書教諭補助員等の研修参加人数49人 ファーストブック講座参加人数58人 レファレンス受付件数1,458件</p>	<p>つくば市域に所在する各機関の図書館それぞれの情報、資源および活動成果等の交流を促進し、かつ、連携してその活用を図るため、つくば市域図書館連携協議会において協議を行う。</p> <p>学校図書館ブックトーク、団体貸出し(調べ学習の支援・学級文庫支援)、社会科見学・職場体験学習受入れ、司書教諭補助員および学校司書等への研修実施といった学校図書館支援や、ファーストブック講座などのイベントを実施する。</p> <p>参考資料を充実させるとともに、電話やメール等による調査・研究の質問を受け付け、専門職員が資料情報を提供する。</p> <p>つくば市域連携協議会の開催2回 学校訪問ブックトーク40校 団体貸出冊数15,000冊 社会科見学等の図書館見学受入回数10回 職場体験学習受入人数40人 学校司書等の研修参加人数55人 ファーストブック講座参加人数40人 レファレンス受付件数1,800件</p>	1,069千円	1,288千円					

基本方針	施策の柱	施策の方向性	生涯学習基本計画の展開(個別事業内容)				評価の観点		事業費予算		進捗状況の点検・評価				
			No.	事業名	事業概要	担当課	(参考)令和4年度 事業の成果・ 達成状況	令和5年度 事業計画	令和4年度決算 (単位:千円)	令和5年度予算 (単位:千円)	実施 状況	指 標	総 合	課題	今後の取組
学びの力をいかにすることができる生涯学習の推進	地域で学び合う生涯学習	地域で学びきっかけ作り	2-(1)-ア	多文化共生推進事業	外国人市民との交流事業の開催及び民間団体実施事業の周知協力	国際都市推進課	つくば市国際交流協会主催の国際理解講座「世界お茶のみ話」は予定通り対面で実行することができた。日中国交正常化50周年にあたり、友好都市である中国・深圳市の高校生とつくば市の高校生によるオンライン交流を実施したほか、フランス・グルノーブル日本語補習校とつくば市の小学生親子によるオンライン交流を実施するなど姉妹都市・友好都市と交流を深めることができた。	・国籍を超えた市民交流を推進するためのイベント等の開催 ・外国人市民が日本語を話したり、日本文化に触れることができるイベントの開催支援	95千円	866千円					
							世界お茶のみ話開催数12回 民間団体・事業者等と連携事業数3回 姉妹都市等との連携イベント数5回	国際理解講座開催数40回 世界お茶のみ話開催数12回 民間団体・事業者等との連携事業数2事業							
			2-(1)-ア	スポーツ教室事業	スポーツ教室の充実	スポーツ振興課	【開催した教室】 バドミントン、トレイルラン、心と体をほぐすヨガ、スラックライン、体幹ムーブメント、ランニング、車いすに座ってできるスポーツ体験、スプリント、子どもの体験教室(低学年)、子どものスポーツ体験教室(高学年) 実績は目標値には達しなかったものの、感染対策を講じつつ各種教室を開催することができた。	市民のスポーツ活動の促進を図るため、さまざまな種類のスポーツ教室を開催し、スポーツの楽しさや健康維持の手法を学ぶ機会やスポーツを始める機会を提供する。	1,614千円	1,519千円					
							教室の開催数10回 教室の参加者数(延べ人数)589人	教室の開催数6回 教室の参加延べ人数670人							
			2-(1)-ア	地域交流センター講座等事業	地域交流センターでの学級・講座の充実	地域支援課	新型コロナウイルス感染症の影響を受けている中での講座実施であったが、参加者がやや増加したこともあり、目標値を上回ることができた。	利用者アンケートや講座受講者に対するアンケート結果を踏まえ、市民ニーズに対応した講座を実施する。	3,434千円	5,622千円					
						年間講座数108回	年間講座数102回								
			2-(1)-ア	筑波山地域ジオパーク推進事業	筑波山地域ジオパークについての講座・体験学習の実施	ジオパーク室	令和4年度は、筑波山地域ジオパークとしても、生涯学習を目的とした企画(47回)、部会、シンポジウム、ジオガイドのスキルアップ講座を実施するなど、地域を学ぶきっかけとなる機会を幅広く創出することができた。 また、筑波山地域ジオパークでは、教育・学術部会で実施可能な生涯学習講座の整理をはじめた。	令和5年度も引き続き、ジオパークを活用した生涯学習講座を実施する。 また、筑波山地域ジオパークとして教育・学術部会を中心に、生涯学習講座の整理を進める。	6,059千円	15,309千円					
						市民向け講座等開催数3回 部会開催数11回 ジオガイド講座開催数4回 学術シンポジウム開催数1回	市民向け講座等開催数5回 部会開催数9回 ジオガイド講座開催数3回 学術シンポジウム開催数1回								

基本方針	施策の柱	施策の方向性	生涯学習基本計画の展開(個別事業内容)				評価の観点		事業費予算		進捗状況の点検・評価				
			No.	事業名	事業概要	担当課	(参考)令和4年度 事業の成果・ 達成状況	令和5年度 事業計画	令和4年度決算 (単位:千円)	令和5年度予算 (単位:千円)	実施 状況	指標	総合	課題	今後の取組
学びの力をいかすことができる生涯学習の推進	地域で学び合う生涯学習	地域で学びつづける仕組みづくり	2-(1)-イ	生涯学習活動相談事業	生涯学習活動の継続支援	生涯学習推進課	令和4年度は、以下の2つの新規出前講座を開講することができた。 ○人権・同和問題について(地域改善対策室) ○今日からはじめる!基本的な感染症予防対策!(感染症対策室) また、更なる利用促進を目指し、筑波研究学園都市交流協議会及びつくば市内工業団地に対するつくば市出前講座のPRとアンケートの実施の決定をすることができた(令和5年4月実施)。 出前講座新規講座2講座 周知活動回数6回	生涯学習活動の継続を支援する環境として、令和5年度中に新設校であるつくば市研究学園小学校及び香取台小学校の特別教室(例:図工室)の一部を市民に対して開放する事業を開始させる。 また、1-(1)-ウ「生涯学習相談事業」、「情報収集・発信事業」と連動させた事業展開を行い、周知活動や市民が相談しやすい環境を創出していくことに引き続き取り組む。 相談数3回 特別教室開放学校数2校	0千円	0千円					
			2-(1)-イ	家庭教育学級支援事業	家庭教育学級への指導・助言、講演会等の開催	生涯学習推進課	家庭教育学級については、多くの講座を動画配信で実施することで、新型コロナウイルスの影響下であっても事業規模を確保することができた。社会教育講演会については、下記の内容で2回実施した。 ①10月22日「いじめの予防最前線～大人も子どもと共に学びましょう～」 参加者38人 ②3月4日「その瞬間生き残れるか。」 参加者35人 家庭教育セミナーについては、学校にすべての保護者が集まる行事を利用して家庭教育のヒントとなる話を社会教育指導員より伝える機会として実施した。 家庭教育学級4,917人 社会教育講演会2回 家庭教育セミナー60回	家庭教育学級、家庭教育セミナーを継続して開催する。学級の運営について、社会教育指導員が、指導・助言を行い、講演会や講習会を開催する。 家庭教育学級5,000人 社会教育講演会2回 家庭教育セミナー60回	1,628千円	3,322千円					
			2-(1)-イ	生涯学習指導者情報提供事業	生涯学習情報(OB人材、指導者情報)の整備・活用	生涯学習推進課	つくば市指導者登録制度について、指導者の登録カテゴリを市民が利用しやすいように再整理を行う等、制度のリニューアルを行い、「学びのつくバンク」という愛称を設定した。 情報提供回数は昨年度より大きく増加し、また、上記のリニューアルに併せてホームページの改修も行うことができた。 周知活動回数3回 情報提供数37回 ホームページ改修回数1回	令和4年度に実施した、指導者リストの更新や指導カテゴリの改善等の環境整備を活かし、令和5年度は積極的な情報発信に努め、情報提供数・登録講師数ともに伸ばしていくことを目指す。 情報提供数40回 登録講師増加数20人	0千円	96千円					
			2-(1)-イ	学校施設開放事業	学校施設開放(体育館・グラウンドなど)の推進	教育施設課	小中学校、義務教育学校の学校体育施設の開放を行った。 新たに中学校1校、義務教育学校の1施設を開放した。 また、重複申請を行っていると思われる団体について、利用状況と申請書との整合性の確認を行った。 小学校施設開放事業95% 中学校施設開放事業98% 義務教育学校施設開放事業100%	小中学校、義務教育学校の学校体育施設の開放を行う。 新たに義務教育学校1校を開放する。 昨年度課題となった、利用団体決定のための調整における個人情報交換によるトラブル防止や、追加申請の公平な受付等に留意しつつ事業を運営する。 小学校施設稼働率90% 中学校施設稼働率95% 義務教育学校施設稼働率95%	24千円	88千円					

基本方針	施策の柱	施策の方向性	生涯学習基本計画の展開(個別事業内容)				評価の観点		事業費予算		進捗状況の点検・評価				
			No.	事業名	事業概要	担当課	(参考)令和4年度 事業の成果・ 達成状況	令和5年度 事業計画	令和4年度決算 (単位:千円)	令和5年度予算 (単位:千円)	実施 状況	指 標	総 合	課題	今後の取組
学びの力をいかすことができる生涯学習の推進	地域で学び合う生涯学習	地域で学びつづける仕組みづくり	2-(1)-イ	文化財サポーター事業	文化財の解説ボランティアの育成	文化財課	<ul style="list-style-type: none"> ・10月～12月に谷田部・桜地区の解説を目標とした第4回解説ボランティア養成講座(全6回)を開催、修了者8名のうち新規登録者8名で、計31名となった。 ・大河ドラマトークショーのイベント補助や、学校授業における展示施設の解説をボランティア登録者へ依頼し、協力を得た。 ・ボランティア登録者を対象とした臨時講座を2回、意見交換会を1回開催した。 ・年間を通じて、民間のボランティア団体「常陸小田城親衛隊の会」と連携し、小田城跡での解説や会員への研修等を実施。市の事業に市民が参加し、文化財への理解と愛着を深める機会とすることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度は新規のボランティア養成講座は休止し、現在のボランティア登録者の知見向上を目指すための臨時講座を開講し、展示施設や文化財の解説のほか、意見交換、学校支援業務への協力、イベント時の補助、展示作成時の補助などを実施する。 ・小田城跡のボランティア団体である常陸小田城親衛隊の会についても、知見向上のための定期的に研修会を実施する。 	211千円	237千円					
			2-(1)-イ	つくば市OB人材活動支援事業	生涯学習情報(OB人材、指導者情報)の整備・活用	企画経営課	<ul style="list-style-type: none"> 依然として新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受けている中ではあるが、パンフレット・便覧の配布やホームページ等における周知を継続的に実施したことに加え、令和5年度以降のV字回復弾みをつけるため、高齢福祉課発行のシニア向け冊子へも掲載することで、事業を広く周知した。 	<ul style="list-style-type: none"> V字回復弾みをつけるため、昨年度に実施した周知活動の流れを止めることなく、継続した周知活動を図るとともに、より効果的な事業となるよう庁内横断的な連携の必要性を検討する。 	9千円	9千円					
			2-(1)-イ	市民活動団体支援事業	市民活動センターでの活動相談、アイラブつくばまちづくり補助金事業等市民活動団体の活動支援	市民協働課	<ul style="list-style-type: none"> 市民活動センターが市の直営となり、市民活動課と連携を取りながら、相談事業等市民活動団体支援のための様々な業務に取り組むことができた。 また、アイラブつくばまちづくり寄附基金を有効活用し、市民活動団体が自主的に企画し提案した事業に補助金を交付するとともに、担当部署の協力により事業の自立に向けた支援を行うことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 市民活動団体等の取組を応援し、相談を受けるとともに、市民団体の新たな活動を支援する。 アイラブつくばまちづくり寄附基金を活用し、個性豊かで活力あるまちづくりの実現を目指すため、市民主体の公益的な活動を支援する。 	4,600千円	11,264千円					
						文化財ボランティア登録人数31人	意見交換会開催回数4回 研修会開催回数2回								
						市民活動センター利用者数2,265人 市民活動センター相談件数177件 アイラブつくばまちづくり補助金採択事業数30件	市民活動センター利用者数7,000人 市民活動センター相談件数200件 アイラブつくばまちづくり補助金採択事業数35件								

基本方針	施策の柱	施策の方向性	生涯学習基本計画の展開(個別事業内容)				評価の観点		事業費予算		進捗状況の点検・評価				
			No.	事業名	事業概要	担当課	(参考)令和4年度 事業の成果・ 達成状況	令和5年度 事業計画	令和4年度決算 (単位:千円)	令和5年度予算 (単位:千円)	実施 状況	指標	総合	課題	今後の取組
学びの力をいかすことができる生涯学習の推進	地域で学び合う生涯学習	地域で学びつづける仕組みづくり	2-(1)-イ	文化団体等 育成支援事業	文化協会の 支援	文化芸術課	市民ホールや交流センター、美術館など、つくば市内を拠点として事業を展開した。 新型コロナウイルス感染症対策を講じて、予定していた全ての事業を実施し、文化芸術活動を推進することができた。 また、本年度新たな試みとして参加・体験型公演としてレクチャーコンサートを実施し、文化芸術に触れる機会の拡充を図ることができた。 主催事業の実施15回	市民の文化活動の活性化を目指し、つくば市文化協会に対する事業費補助として補助金を交付し、主体的な活動を促進するよう支援する。 事業実施の際には、新型コロナウイルス感染症対策や、会計処理について指導を行う。 主催事業の実施17事業	1,200千円	1,200千円					
			2-(1)-イ	(公財)つくば文化振興財団支援事業	文化振興財団の支援	文化芸術課	新型コロナウイルス感染症対策を講じた上で、ノバホールやつくばカピオ、市民ホールなどを会場として公演事業を実施したほか、美術館での展覧会、小中学生を対象としたアウトリーチ、文化芸術支援なども並行して展開し、計画された事業を全て実施することができた。 文化芸術公演における入場率について、令和3年度が56.8%に対し、令和4年度は70.7%と大幅に上回り、市民ニーズが高く、予想以上の集客が図れた。 文化芸術振興事業の実施20事業	公益財団法人つくば文化振興財団への指導・助言のほか、財政的支援として行政補完型運営補助金の交付を行う。 また、同財団と協定を締結し、共同主催により市内の文化施設等で音楽・演劇・芸能・美術等の幅広いジャンルの文化芸術振興事業を実施する。 文化芸術公演事業入場率80%	49,981千円	55,000千円					
			2-(1)-イ	高齢者生きがい活動支援事業	高齢者の社会活動支援	高齢福祉課	【各種イベントやシルバークラブ活動への支援】 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、イベント開催中止や事業規模縮小となったが、内容変更等対策を講じ、高齢者の健康づくりや生きがいづくり、社会参加の促進に寄与した。 また、129の単位シルバークラブを含むシルバークラブ連合会に補助金を交付することで、その活動を支援した。 いばらきねんりんスポーツ大会は5月に地区予選会、6月に市大会を実施した。 【シルバー人材センター】 新規入会者64名 退会者99名 市からは、施設の夜間当番/草刈り/清掃等を依頼している。 補助金を交付することにより、シルバー人材センターの円滑な運営を支援し、高齢者の生きがいの充実、社会参加の促進等に寄与できた。 シルバークラブ会員数6,113人 単位シルバークラブ数129団体 契約件数2,858件 参加者数536人	シルバークラブ大会:役員功労者表彰、感謝状贈呈、講演会等を実施 シルバークラブ育成支援:年間を通じて、シルバークラブ連合会の支援を社会福祉協議会に委託し行う。 高齢者労働能力活用事業費補助事業:補助金を交付し、公益社団法人つくば市シルバー人材センターの円滑な運営を支援する。 茨城県健康福祉祭いばらきねんりんスポーツ大会の予選会として市大会を開催する。 種目:グラウンド・ゴルフ、ゲートボール、バタンク、輪投げ シルバークラブ会員数6,418人 単位シルバークラブ数135団体 契約件数4,400件 参加者数610人	41,844千円	42,395千円					

基本方針	施策の柱	施策の方向性	生涯学習基本計画の展開(個別事業内容)				評価の観点		事業費予算		進捗状況の点検・評価				
			No.	事業名	事業概要	担当課	(参考)令和4年度 事業の成果・ 達成状況	令和5年度 事業計画	令和4年度決算 (単位:千円)	令和5年度予算 (単位:千円)	実施 状況	指標	総合	課題	今後の取組
学びの力をいかにすることができる生涯学習の推進	「社会力」を持った人材の育成	実践できる人材の育成	2-(2)	「社会力」人材育成事業	「社会力」を持った人材を育成するために、連続講座など「社会力」を育成する講座を実施	生涯学習推進課	社会力に関する講座の実施2年度目として、社会力をいかして活躍するロールモデルとしての「社会力コーディネーター」の存在にスポットを当て、市内外における先進事例を実際に運営する人物(=社会力コーディネーター)を講師として招き、参加者への学びと動機付けを5回の講座として実施することができた(参加者数198人)。 令和3年度の講座参加者が56人であったことから、社会力という考え方がつくば市内で広がり、興味を持つ人が増えてきたと考えることができる。 講座実施回数5回 講座満足度92%	令和5年度は社会力講座【実践編】として講座を年間で5回実施する。 「社会力」を発揮して地域で活躍する団体の活動に体験参加することをメインの内容に据え、これから地域で活躍したいと思っている市民等が継続して活動していくきっかけ作りを行っていく。 体験実習参加者数15名 「社会力」を活かした今後の活動意向80%	650千円	650千円					
			2-(2)	地区リーダー勉強会事業	地区リーダー勉強会の開催	市民協働課	地区リーダー勉強会については、令和2年度及び3年度は新型コロナウイルスの影響から中止とした。令和4年度は、講演のテーマを「巨大地震と豪雨災害への備え」として、災害のリスクについて認識し、自分で守る「自助」、地域で助け合う「共助」に関する内容を市公式Youtubeチャンネルにて配信した。 配信形式で実施したことにより、参加者(視聴者)が大幅に増え、より多くの区長等に参加(視聴)していただくことができた。 人材づくりイベントの参加者数774人	地域のリーダーである区長の担い手不足など、区会における近年の課題をテーマにした勉強会(講演会等)を開催して、その解決策を検討していく。8月又は9月に開催を計画している。 人材づくりイベントの参加者数600視聴数	330千円	581千円					
			2-(2)	地域まちづくり支援事業	まちづくりに関する講座の実施・専門家の派遣	都市計画課	【まちづくりに関する講座の実施】 新型コロナウイルス感染症の影響も懸念されたが、谷田部地区を対象とした街歩き・グループワークにより多くの方々に学びの機会を提供することができた。 【専門家の派遣】 地域まちづくり推進グループ及び地域まちづくり推進団体からあった申請すべてに対し適切に専門家を派遣することができた。 都市計画講座1回 まちづくり見学会1回 専門家の派遣5回	【都市計画講座の実施】 市民向けに、まちづくりへの関心と理解を深めることを目的として、都市計画の制度やつくば市の現状を紹介し、現地見学会を行う講座を開催する。 【まちづくり見学会の実施】 地域まちづくりグループ及び推進団体を対象として、今後のまちづくりの参考となるよう先進地を訪問し、現地見学会を行う講座を開催する。 【専門家の派遣】 地域住民などで構成される地域まちづくりグループや地域まちづくり推進団体等が活動を行う上で、組織の運営に関すること、まちの課題や将来像に関すること等について指導や助言等を求めてきた際に、地域まちづくり専門家の派遣を行う。 都市計画講座1回 まちづくり見学会1回 専門家の派遣8回	180千円	360千円					

第3次つくば市生涯学習推進基本計画の評価基準(旧版)

①方向性ごとの達成状況と課題

評価者:生涯学習推進課

方法:方向性ごとに、達成状況と課題を抽出

評価:A 計画以上に進んでいる

B 計画どおり進んでいる

C 計画より遅れている

— 評価することができない

②事務事業評価

事務事業評価は、つくば市役所の全課が自分の課で行っているすべての事務事業を評価しているものです。

有効性と効率性を評価した後、その組み合わせで総合評価(SからEまでの6段階)で評価します。

なお、特別な事情(新型コロナウイルス感染症・自然災害等)により、総合評価を行わない場合は、「—」で表記します。

■有効性

事業を実施した結果、成果の達成度合いを年度当初と比較するもの

高…年度当初の目標値と比較し、成果が大きく向上、又は高水準を維持

中…年度当初の目標値と比較し、同程度の成果

低…年度当初の目標値と比較し、成果が大きく低下、又は低水準を維持

—…特別な事情(新型コロナウイルス感染症・自然災害等)が生じたため、
年度当初の目標値と比較することができない

※特別な事情により、事業が実施できなかった場合は、「—」と表記してください。
事業内容を工夫して実施できた場合は、「中」と表記してください。

■効率性

得られた成果に対して、費やした事業費や人件費(=費用対効果)を評価するもの

高…年度当初の目標値と比較し、費用対効果が大きく向上、又は高水準を維持

中…年度当初の目標値と比較し、同程度の費用対効果

低…年度当初の目標値と比較し、費用対効果が大きく低下、又は低水準を維持

—…特別な事情(新型コロナウイルス感染症・自然災害等)が生じたため、
年度当初の目標値と評価することができない

※特別な事情により、事業が実施できなかった場合は、「—」と表記
事業内容を工夫して費用対効果を評価できた場合は、「中」と表記

■総合評価

有効性/効率性

高/高 S成果・費用対効果を維持して継続実施

高/中 A成果を維持して継続実施

中/高 A費用対効果を維持して継続実施

中/中 B成果・費用対効果の向上に努めつつ継続実施

高/低 C成果を維持し費用対効果を向上させる必要有り

低/高 C費用対効果を維持し成果を向上させる必要有り

中/低 D費用対効果を向上させる必要有り

低/中 D成果を向上させる必要有り

低/低 E事業の抜本的な見直しの必要有り

—/— —総合評価は行わない

※有効性及び効率性の両方又はいずれかに「—」がある場合は、
特別な事情(新型コロナウイルス感染症・自然災害等)を
考慮して総合評価は行いません。

令和3年度(2021年度)第3次生涯学習推進基本計画 施策の方向性ごとの評価一覧

参考資料2

No.	施策の柱 施策の方向性	① 方向性ごとの達成状況と課題 評価者：生涯学習推進課 評価：A(計画以上に進んでいる) B(計画どおり進んでいる) C(計画より遅れている) - (評価することができない)	施策評価	事業概要	担当課	事務事業名	② R3年度事務事業評価		
							有効性	効率性	総合評価
多様な学びの実現									
1-(1)-ア	施設の利便性の向上	「施設の利用」は、新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受ける部分であるが、予防対策や事業の創意工夫を行うことで、一定の実績を上げ、特に地域交流センターについては目標値を大きく上回る実績を上げており、計画以上に施策が進んでいると評価することができる。	A	開館時間延長の継続、地域で手軽に図書館サービスを受けられる自動車図書館ステーションと返却ができるサービスポイントの増設等	中央図書館	図書館利便性向上事業	中	中	B
1-(1)-ア				誰でも気軽に利用できるような施設づくり	文化芸術課	市民交流施設利便性向上事業	高	中	A
1-(1)-イ	参加機会の拡充	民間企業等での生涯学習講座の実施促進については、つくば市内の企業や研究機関のニーズの把握の段階にあり、実施数という評価指標から低い事業評価となったが、その他の2事業は目標値に近い、もしくは高い実績となり、十分な有効性をあげており、施策全体としては計画どおり生涯学習に対する参加機会の拡充を図ることができていると評価する。 オンラインによる事業の展開は、今後も社会からの要請も高いことが想定されるが、配信に要する人的・物的コストは高いと考えられ、効率性とバランスをとることが重要になると考えられる。	B	民間企業等での生涯学習講座の実施促進	生涯学習推進課	民間企業での生涯学習事業	低	中	D
1-(1)-イ				ウェブを活用し、動画配信等による生涯学習講座の実施	生涯学習推進課	オンラインによる生涯学習講座事業	高	中	A
1-(1)-イ				夜間・休日における学習機会の提供	文化芸術課	地域交流センター活用事業	中	中	B
1-(1)-ウ	生涯学習の相談・情報の提供	2事業とも目標値に届かない結果となった。「生涯学習」という幅広い分野をカバーする領域に対して、市民にとってわかりやすく、利用しやすい相談業務や情報発信をおこなうためには、その基盤となるホームページや周知に要する資料等の媒体を整理・準備する必要があり、丁寧な事業及び施策の進行を行っていく必要がある。	C	オンライン等でも気軽にでき、地域の実情に応じた生涯学習相談の実施	生涯学習推進課	生涯学習相談事業	低	中	D
1-(1)-ウ				広報戦略課と連携し、生涯学習情報を一元的に収集し発信	生涯学習推進課	情報収集・発信事業	低	中	D

No.	施策の柱 施策の方向性	① 方向性ごとの達成状況と課題 評価者：生涯学習推進課 評価：A(計画以上に進んでいる) B(計画どおり進んでいる) C(計画より遅れている) - (評価することができない)	施策評価	事業概要	担当課	事務事業名	② R3年度 事務事業評価		
							有効性	効率性	総合評価
誰一人取り残さない生涯学習									
1-(2)-ア	参加への障壁をなくす 取組	全ての事業において、オンライン形式での事業実施に積極的に取り組んだ結果、十分な実績をあげること成功している。 特に「外国人市民向け情報発信・講座事業」においては、オンライン形式にすることにより、参加できる人の幅が広がったという効果を発揮することにもつながっており、計画どおり施策が進んでいると評価できる。	B	生涯学習講座における配慮事項を示した指針の作成 生涯学習情報のワンストップ提供	生涯学習推進課	生涯学習ワンストップ 対応事業	中	中	B
1-(2)-ア				職員向け広報セミナーの実施 広報事業へのアドバイスの実施	広報戦略課	広報力向上事業	中	中	B
1-(2)-ア				外国語広報誌等の外国人市民向け広報の拡充 外国人市民向け講座(日本語講座)の実施	国際交流室	外国人市民向け 情報発信・講座事業	高	高	S
1-(2)-イ	主体的に活動に参加 できる取組	スポーツや障害者を対象とした事業は、オンライン形式への切り替えは難しい分野ではあるものの、日程や内容の変更などの柔軟な対応に取り組むことで、一定の実績を上げること成功しており、計画どおり施策が進んでいると評価できる。 さらに、事業の見直し・取組への反映という観点も事業評価シートに多く盛り込まれていた(障害者の自発性を取り入れた事業展開の検討、アンケート調査による新しい方策の検討、周知の強化)。今後の施策の進捗にも期待ができる状態である。	B	障害者が自ら生涯学習を楽しめる講座の実施と生涯学習に取り組む障害者への支援体制の構築	生涯学習推進課	障害者の 生涯学習関連事業	中	中	B
1-(2)-イ				男女共同参画意識の向上を図りながら、能力や行動力を高めるセミナーの開催	男女共同参画室	男女共同参画啓発事業	中	中	B
1-(2)-イ				障害者スポーツ人材の育成を目指し、スポーツイベントの実施、人材の育成、体制の構築	スポーツ振興課	障害者スポーツ推進事業	中	中	B
1-(2)-イ				チャレンジアートフェスティバル、おひさまサンサン生き生きまつり等の開催、奉仕員養成講座の開催	障害福祉課	生涯学習関連事業 (障害のある人や支援者対象)	中	中	B

No.	施策の柱 施策の方向性	① 方向性ごとの達成状況と課題 評価者：生涯学習推進課 評価：A(計画以上に進んでいる) B(計画どおり進んでいる) C(計画より遅れている) －(評価することができない)	施策評価	事業概要	担当課	事務事業名	② R3年度 事務事業評価		
							有効性	効率性	総合評価
地域で学び合う生涯学習									
2-(1)-ア	地域で学ぶきっかけ作り	<p>一部事業については、オンラインへの切り替えが難しいイベント(緊急事態宣言による図書館の臨時休館に起因するイベント中止)もあったが、施策に含まれる多くの事業は、オンライン形式を取り入れることで、多くの事業の指標として位置付けられた講座の開催数や参加者数について一定の実績をあげることができており、計画どおり施策が進んでいると評価できる。</p> <p>また、事業評価の理由として、他団体との連携による効果的な講座運営やアンケート調査の好結果なども挙げられており、魅力的な事業展開ができていると考えられる。</p>	B	市民との協働講座(人間学講座)の実施	生涯学習推進課	つくば人間学講座	中	中	B
2-(1)-ア				文化財展示施設等での展示、各種文化財・郷土史に関する講座の開設	文化財課	文化財展示講座事業	中	中	B
2-(1)-ア				筑波大学を始めとするつくば市域における図書館との連携、小・中・義務教育学校で実施するブックトーク等による読書促進	中央図書館	調査・研究支援事業	中	中	B
2-(1)-ア				外国人市民との交流事業の開催及び民間団体実施事業の周知協力	国際交流室	多文化共生推進事業	中	中	B
2-(1)-ア				スポーツ教室の充実	スポーツ振興課	スポーツ教室事業	中	中	B
2-(1)-ア				地域交流センターでの学級・講座の充実	文化芸術課	地域交流センター講座等事業	高	中	A
2-(1)-ア				筑波山地域ジオパークについての講座・体験学習の実施	ジオパーク室	筑波山地域ジオパーク推進事業	中	中	B

No.	施策の柱 施策の方向性	① 方向性ごとの達成状況と課題 評価者：生涯学習推進課 評価：A(計画以上に進んでいる) B(計画どおり進んでいる) C(計画より遅れている) - (評価することができない)	施策評価	事業概要	担当課	事務事業名	② R3年度 事務事業評価		
							有効性	効率性	総合評価
2-(1)-イ	地域で学びつづける 仕組み作り	<p>事業評価において、目標値をおおむね達成している事業が多く、計画どおりに進んでいると評価をおこなった。</p> <p>高い成果を挙げた事業については、講座を動画配信形式に切り替えて積極的に展開したこと(家庭教育学級)や、施設を利用する団体に密を避けて利用してもらうためのガイドライン作成や団体間の調整回数を増やした(学校施設開放)等の丁寧な事業運営に努めたことが成果の要因として挙げられる。</p> <p>一方、課題や今後の展開については、人材の意欲・意識を低下させないための新規事業の検討(文化財サポーター事業)や、情報提供の強化(生涯学習活動相談事業)、生涯学習に取り組む団体の要望等の解決に向けた調査研究等が挙げられており、「学び続ける」ために必要な取組が様々な事業で検討されており、今後の施策の進捗に期待を持つことができる。</p>	B	生涯学習活動の継続支援	生涯学習推進課	生涯学習活動相談事業	低	中	D
2-(1)-イ				家庭教育学級への指導・助言、講演会等の開催	生涯学習推進課	家庭教育学級支援事業	高	高	S
2-(1)-イ				生涯学習情報(OB人材、指導者情報)の整備・活用	生涯学習推進課	生涯学習指導者情報提供事業	中	中	B
2-(1)-イ				学校施設開放(体育館・グラウンドなど)の推進	教育施設課	学校施設開放事業	中	高	A
2-(1)-イ				文化財の解説ボランティアの育成	文化財課	文化財サポーター事業	中	中	B
2-(1)-イ				生涯学習情報(OB人材、指導者情報)の整備・活用	企画経営課	つくば市OB人材活動支援事業	中	中	B
2-(1)-イ				市民活動センターでの活動相談、アイラブつくばまちづくり補助金事業等市民活動団体の活動支援	市民活動課	市民活動団体支援事業	中	中	B
2-(1)-イ				文化協会の支援	文化芸術課	文化団体等育成支援事業	中	中	B
2-(1)-イ				文化振興財団の支援	文化芸術課	(公財)つくば文化振興財団支援事業	中	中	B
2-(1)-イ				高齢者の社会活動支援	高齢福祉課	高齢者生きがい活動支援事業	中	中	B

No.	施策の柱 施策の方向性	① 方向性ごとの達成状況と課題 評価者：生涯学習推進課 評価：A(計画以上に進んでいる) B(計画どおり進んでいる) C(計画より遅れている) - (評価することができない)	施策評価	事業概要	担当課	事務事業名	② R3年度 事務事業評価		
							有効性	効率性	総合評価
「社会力」を持った人材の育成									
2-(2)	実践できる人材の育成	一つの事業について新型コロナウイルス感染症の影響で実施することができず評価できない事業はあるが、それ以外についてはおおむね目標値に近い実績を上げることができたため、計画どおり施策が進んでいると評価した。 その他の施策における事業評価を関連全部署で共有し、施策推進力の底上げを行っていく。	B	「社会力」を持った人材を育成するために、連続講座など「社会力」を育成する講座を実施	生涯学習推進課	「社会力」人材育成事業	中	中	B
2-(2)				地区リーダー勉強会の開催	市民活動課	地区リーダー勉強会事業	-	-	-
2-(2)				まちづくりに関する講座の実施・専門家の派遣	都市計画課	地域まちづくり支援事業	中	中	B

評価全体に関する注記

生涯学習に関する事業は、市民等を集めて実施するイベントや講座形式をとっているものが多く、新型コロナウイルス感染症の流行状況による影響を受けやすい。その状況の中で、生涯学習を推進し続けていくため、つくば市で実施するITリテラシーの向上に資する事業と連携しながら、今後も新型コロナウイルス感染症の影響を想定した事業の実施に努めていきたい。

基本方針	施策の柱	施策の方向性	生涯学習基本計画の展開(個別事業内容)				評価の観点	年度内の実績	進捗状況の点検・評価				事業の見直し・取組への反映				
			No.	事業名	事業概要	担当課	令和3年度 事業計画	令和3年度 事業の成果・ 達成状況	有効性	効率性	総合評価	特別な事情	評価の理由	問題・課題の改善	今後の方向性		
															継 続	修 正	中 止
誰もが自分らしく生きるための生涯学習の推進	多様な学びの実現	施設の利便性の向上	1-(1)-ア	図書館利便性向上事業	開館時間延長の継続、地域で手軽に図書館サービスを受けられる自動車図書館ステーションと返却ができるサービスポイントの増設等	中央図書館	引き続き土日の閉館時間を午後5時から午後7時に変更し、開館時間を2時間延長するとともに、祝日の特別開館を実施し、利用者の利便性向上を図る。 市内47か所に設けたステーションに火曜日から土曜日に自動車図書館車2台を使って巡回し、貸出及び返却等のサービスを行う。各ステーションには2週間に1回の頻度で巡回する。令和3年度には、現在の2台の移動図書館車両に加え、右左外架書架設備による最大限約600冊積載可能な移動図書館車を新たに1台導入し、サービスの拡充を図るとともに、新型コロナウイルスの影響下における中央図書館への来館者の分散化を図る。 並木・広岡・大穂・豊里の各交流センター、市役所コミュニティ棟のブックポスト及びオンラインの4交流センターで図書資料の返却ができるようにする図書返却事業を実施する。また、新たに島名交流センター及び筑波大学附属中央図書館へのブックポストの設置について検討を進める。	土日の開館時間を2時間延長し、午後7時までとするとともに、祝日の特別開館を実施し、利用者の利便性向上を図った。 市内48か所に設けたステーションに火曜日から土曜日に自動車図書館車2台を使って巡回し、貸出及び返却等のサービスを行った。既存の2台の移動図書館車両に加え、右左外架書架設備による最大約600冊積載可能な移動図書館車両を新たに1台導入した。新規車両は、令和4年度から運行し、サービスの拡充を図るとともに新型コロナウイルス感染症の影響下における中央図書館への来館者の分散化を図っていく。 島名交流センターにブックポストを設置し、新たに図書の返却できるサービスポイントを増設した。	中	中	B	新型コロナウイルス感染症	緊急事態宣言発出等による臨時休館もあり、大半の取組で目標の達成には至らなかったが、新型コロナウイルス感染症の影響を受けながらも一定の実績をあげることができたため。	なし	継続		
			年間開館日数291日 年間開館時間2740.5時間 自動車図書館利用人数14,000人 自動車図書館貸出冊数55,000冊 返却窓口への返却冊数130,000冊	年間開館日数260日 年間開館時間2,458時間 自動車図書館利用人数9,678人 自動車図書館貸出冊数37,244冊 返却窓口への返却冊数162,984冊	高	中	A	新型コロナウイルス感染症	新型コロナウイルス感染症の影響によりさまざまな制限がある中でも、目標値を達成することができたため。	なし	継続						
1-(1)-ア	市民交流施設利便性向上事業	誰でも気軽に利用できるような施設づくり	文化芸術課	生涯学習活動として、様々な団体(サークル)が快適に利用できるよう、地域交流センターの維持管理を行う。 また、茶道、華道、囲碁、料理、語学、ボランティア、短歌、音楽、手芸、絵画、書道、バレエ、ダンス、スポーツ、工芸等多種多様な団体(サークル)の登録を円滑に行い、誰でも気軽に利用できる施設づくりを行う。	地域交流センター利用者数200,000人 地域交流センター登録団体650団体	新型コロナウイルス感染症の影響で、部屋の定員を通常定員の50パーセントとしての貸出としたが、利用者数、登録団体ともに目標値を上回った。	高	中	A	新型コロナウイルス感染症	新型コロナウイルス感染症の影響によりさまざまな制限がある中でも、目標値を達成することができたため。	なし	継続				
						地域交流センター利用者数276,376人 地域交流センター登録団体1,287団体											

基本方針	施策の柱	施策の方向性	生涯学習基本計画の展開(個別事業内容)				評価の観点	年度内の実績	進捗状況の点検・評価				事業の見直し・取組への反映		
			No.	事業名	事業概要	担当課	令和3年度 事業計画	令和3年度 事業の成果・ 達成状況	有効性	効率性	総合評価	特別な事情	評価の理由	問題・課題の改善	今後の方向性
															継続
誰もが自分らしく生きるための生涯学習の推進	多様な学びの実現	参加機会の拡充	1-(1)-イ	民間企業での生涯学習事業	民間企業等での生涯学習講座の実施促進	生涯学習推進課	民間企業でのニーズと必要性に沿った生涯学習の機会を提供していく。提供方法は、会場参加・オンライン・動画配信により実施し、参加機会を拡充する。 また、講座終了後にアンケートを実施し、アンケート等の集計結果から、今後の講座内容として反映させ、生涯学習の環境や取組みを促進する。 講座開催数2回 参加者数(動画視聴含む)40人	市内民間企業に対する家庭教育学級を1回実施し、併せてつくば市出前講座の周知を実施した。 講座開催数1回 参加者数(動画視聴含む)13人	低	中	D	新型コロナウイルス感染症	新型コロナウイルス感染症の影響を受けながらも、実施実績を作ることができたため。	市内の企業や研究所が集まる会議体(例:筑協、団地協)に対して出前講座、生涯学習講師情報提供制度、家庭教育学級の周知を行い、民間企業等での出前講座実施数を増やすよう努める。 また、民間企業等の求める出前講座のモデルを検討する必要があり、民間企業等に対するアンケート実施を検討する。	継続
			1-(1)-イ	オンラインによる生涯学習講座事業	ウェブを活用し、動画配信等による生涯学習講座の実施	生涯学習推進課	市民が希望している生涯学習に応じた生涯学習講座を把握し、気軽に参加できる生涯学習講座をオンラインや動画配信等で行う。 オンライン講座3回 動画配信3回	オンライン講座(同時配信のみ、現地と同時配信の併用)については、人間学講座で2回、社会力講座で4回の実施を行った。 動画配信(事後のアーカイブ閲覧が可能であるもの)については、ちびっ子博士事業及び人間学講座のうち1回(「私とGeorgia(ジョージア)」)にて実施を行った。 オンライン講座6回 動画配信2回	高	中	A		オンライン講座の積極的な実施を図り、目標値を大きく上回る実績を得ることができたため。	オンライン講座に関する市民ニーズの把握を行う必要がある。 ただし、動画配信は、配信に要する技術を持った職員を用意する必要があり、また、事後の配信には時間的なリソースが多く割かれてしまう。	継続
			1-(1)-イ	地域交流センター活用事業	夜間・休日における学習機会の提供	文化芸術課	新型コロナウイルス感染拡大防止のため対策を行ったうえで、夜間や休日に地域交流センター講座を開講することで、夜間休日における学習機会を提供する。 夜間休日の講座の開講10回	天体観測や日本舞踊等の夜間講座を開催した。また、応急手当や防災に関する講座等を休日に開催した。平日には交流センター講座への参加が難しい人に対して学習機会を提供することができた。 夜間休日の講座の開講11回	中	中	B	新型コロナウイルス感染症	新型コロナウイルス感染症対策を講じつつ、夜間及び休日の講座を開催することができたため。	なし	継続

基本方針	施策の柱	施策の方向性	生涯学習基本計画の展開(個別事業内容)				評価の観点	年度内の実績	進捗状況の点検・評価				事業の見直し・取組への反映		
			No.	事業名	事業概要	担当課			令和3年度 事業計画	令和3年度 事業の成果・ 達成状況	有効性	効率性	総合評価	特別な事情	評価の理由
誰もが自分らしく生きるための生涯学習の推進	多様な学びの実現	生涯学習の相談・情報の提供	1-(1)-ウ	生涯学習相談事業	オンライン等でも気軽にでき、地域の実情に応じた生涯学習相談の実施	生涯学習推進課	気軽に生涯学習を相談できる機会として、生涯学習相談をオンラインで行い、情報提供体制を整える。 相談数5件	具体的なオンラインでの生涯学習に関する相談受付の実現には至らなかったが、インターネットに掲載したつくば市生涯学習指導者情報に対して10件の情報提供をおこない、また、つくば市出前講座についてはオンラインからの講座メニュー閲覧が容易になるようガイドブックの作成を行った。 相談数0件	低	中	D		オンライン相談の基盤づくりは実施できたが、具体的な相談数は0であるため、有効性を低とした。	つくば市公式ホームページの「生涯学習」に関するページをマイナーチェンジし、見やすく・相談しやすい形にすることで市民が気軽に相談ができる環境を構築する。 フェイストゥフェイスで生涯学習に関する相談を有効かつ効率的に実施できる手法(連携できる事業)を調査研究する。	継続
			1-(1)-ウ	情報収集・発信事業	広報戦略課と連携し、生涯学習情報を一元的に収集し発信	生涯学習推進課	市の生涯学習に関する取組みについて、生涯学習推進課だけでなく、様々な部署で行われ全庁的な実施体制である一方、個別に周知を行っているため、開催スケジュールなど、市民のわかりづらさがあるとの声に応える。各課で行っている生涯学習について、情報収集し市民に提供できる体制を整え、情報収集した内容を広報誌やホームページ等で広く市民に周知していく。 広報紙5回 ホームページ5回	つくば市出前講座について、オンラインからの講座メニュー閲覧が容易になるようガイドブックの作成をおこなった。 広報紙0回 ホームページ1回	低	中	D		出前講座ガイドブックの作成は、事業情報の一元発信に寄与したが、その他に生涯学習情報の一元的な発信に寄与する事業が展開できなかったため。	つくば市報における生涯学習特集ページの作成を検討する。 つくば市公式ホームページ上の「生涯学習」関連ページにてつくば市イベントカレンダー等の関連情報媒体をシェアする。	継続

基本方針	施策の柱	施策の方向性	生涯学習基本計画の展開(個別事業内容)				評価の観点	年度内の実績	進捗状況の点検・評価				事業の見直し・取組への反映		
			No.	事業名	事業概要	担当課			令和3年度 事業計画	令和3年度 事業の成果・ 達成状況	有効性	効率性	総合評価	特別な事情	評価の理由
誰もが自分らしく生きるための生涯学習の推進	誰一人取り残さない生涯学習	参加への障壁をなくす取組	1-(2)-ア	生涯学習ワンストップ対応事業	生涯学習講座における配慮事項を示した指針の作成 生涯学習情報のワンストップ提供	生涯学習推進課	誰一人取り残さない生涯学習の実現に向けて、これまで生涯学習に十分に取組むことができなかった方々が参加できるよう、障壁を取り除くことが必要となることから生涯学習に取り組もうと考えている人をサポートするために取組みを行う。 ホームページ1回	誰一人取り残さない生涯学習の実現という観点で、第3次つくば市生涯学習推進基本計画において障害者の生涯学習推進を施策の柱として位置付けており、令和3年度は市内の障害者教育施設と連携し、Zoomを活用した障害者が参加するお弁当講座と障害者教育に関する講演会を実施し、ホームページ上で広報を実施した。 ホームページ2回	中	中	B	新型コロナウイルス感染症	新型コロナウイルスの影響下の中でも、Zoomを活用とした事業を実施することができた。	市役所が講座を企画し、障害者に参加してもらう形式には継続性と自主性が見込めないため、障害者自身の自主性を尊重した事業展開を図っていく。	継続
			1-(2)-ア	広報力向上事業	職員向け広報セミナーの実施 広報事業へのアドバイスの実施	広報戦略課	全庁的な職員の広報力向上を目的として、職員向け広報力向上セミナーを年3回程度実施する。なお、新型コロナウイルス感染症の状況を考慮し、会場参加またはオンラインにより実施する。 また、年間を通じて、チラシ・ポスター等広報物のデザインチェックや、事業の動画撮影に係る相談や支援を随時行う。 セミナー参加者数150人	新型コロナウイルス感染症の状況により、多数の職員を集めた対面型の広報力向上セミナーの実施が難しかったため、対面型と動画配信型(申込者にURLを公開。実施日以降も視聴可能。)を選択できるよう工夫し、職員一人ひとりの業務形態に合わせたセミナーを実施した。2月末時点で目標値に達していなかったため、3月下旬から全庁職員を対象にセミナー動画URLを公開し、視聴できる環境をより広げた。 また、ブランドイメージの統一を図るため、年間を通じて各課が制作する広報物等のデザインチェックや、各政策・事業の動画撮影及び配信の支援を実施した。 セミナー参加者数136人	中	中	B	新型コロナウイルス感染症	新型コロナウイルス感染症の影響により、対面型を憂慮する職員に対しても動画配信を実施することで、広報力向上に係る学びの機会を確保することができた。	なし	継続

基本方針	施策の柱	施策の方向性	生涯学習基本計画の展開(個別事業内容)				評価の観点	年度内の実績	進捗状況の点検・評価				事業の見直し・取組への反映				
			No.	事業名	事業概要	担当課	令和3年度 事業計画	令和3年度 事業の成果・ 達成状況	有効性	効率性	総合評価	特別な事情	評価の理由	問題・課題の改善	今後の方向性		
															継 続	修 正	中 止
誰もが自分らしく生きるための生涯学習の推進	誰一人取り残さない生涯学習	参加への障壁をなくす取組	1-(2)-ア	外国人市民向け情報発信・講座事業	外国語広報誌等の外国人市民向け広報の拡充 外国人市民向け講座(日本語講座)の実施	国際交流室	市が発行する文書や冊子等の翻訳 8か国語の外国語広報紙を発行 4言語の多言語ホームページでの情報発信 外国人市民に向けた日本語学習支援 (大人対象:日本語講座をレベル別に昼 コースと夜コースを設けて開催) (外国にルーツを持つ子どもたち対象:プ レスクール・プレクラス、こども日本語勉強 会、就学・進学支援を開催)	外国語広報紙については、当初の目標通り 年4回、8言語で発行し、新型コロナウイルス 感染症やワクチン接種に関する情報を重 点的に掲載した。 新型コロナウイルス感染症やワクチン接 種に関する情報については、特に多言語 ホームページでの情報発信に力を入れた 結果、予算の執行を伴うホームページの更 新(情報発信)回数は当初の目標を大きく 上回る回数となった。また、これ以外にも 予算の執行を伴わない情報発信を129回 行った。 大人向け日本語講座はオンラインでの実 施としたことで参加できる人の幅が広が り、延べ231人と目標を大幅に上回る人 数が受講できた。 こども日本語勉強会はオンラインと対面 のハイブリット形式とし、令和3年度は対 象学校を拡大して実施できた。	高	高	S	多言語ホームページでの情 報発信において、目標値を 大幅に上回る回数の多言語 情報発信を行ったほか、大 人向け日本語講座受講者数 も目標値を大きく上回った ため。	なし	継続			
		主体的に活動に参加できる取組	1-(2)-イ	障害者の生涯学習関連事業	障害者が自ら生涯学習 を楽しめる講座の実施 と生涯学習に取り組む 障害者への支援体制の 構築	生涯学習推進課	障害者のための生涯学習講座について は、新型コロナウイルス感染症の感染状況 に応じて、会場参加・オンライン・動画配信 のいずれかの方法により年4回実施する。 また、講座終了後にアンケートを実施し、 アンケート結果や、オンライン・動画視聴回 数等の集計結果から、次年度の開催形式 を検討し、講座内容として反映させる。	6月5日に「～健康と自立を応援する～ オープンで作るかんたん♪唐揚げ弁当」と題 した障害者も参加できる料理教室を Zoomを活用したオンライン形式で実施 し、4名の参加者を集めた。 12月11日に「自分らしさを輝かせ、豊か に生きる生涯学習体験～知的障害者の18 歳以降の学びの場と生涯学習～」をテー マとした講演会をZoomを活用したオンラ イン形式で実施し、36名の参加者を集め た。	中	中	B	新型コロナウイルスの影響 下の中でも、Zoomを活用 とした事業を実施すること ができた。 講座参加者に対するアン ケート結果も満足度が高く、 継続していく価値があると 考える。	市役所が講座を企画し、障 害者に参加してもらう形式 には継続性と自主性が見込 めないため、障害者自身の 自主性を尊重した事業展開 を図っていく。	継続			

基本方針	施策の柱	施策の方向性	生涯学習基本計画の展開(個別事業内容)				評価の観点	年度内の実績	進捗状況の点検・評価				事業の見直し・取組への反映		
			No.	事業名	事業概要	担当課	令和3年度 事業計画	令和3年度 事業の成果・ 達成状況	有効性	効率性	総合評価	特別な事情	評価の理由	問題・課題の改善	今後の方向性
															継続
誰もが自分らしく生きるための生涯学習の推進	誰一人取り残さない生涯学習	主体的に活動に参加できる取組	1-(2)-イ	男女共同参画啓発事業	男女共同参画意識の向上を図りながら、能力や行動力を高めるセミナーの開催	男女共同参画室	男女共同参画に関するセミナーの開催 仕事と家庭の両立支援をはじめ、再就職支援やキャリアアップ講座など、学習機会の充実を図る。	新型コロナウイルス感染症の拡大により、延期となったセミナーがあり、年8回の実施となった。 参加者層は、40代28%、60代23%、70代以上16%で、10~30代の参加は18%であった。	中	中	B		新型コロナウイルス感染症の影響下ではあったが、感染症対策を行いながら、当初の目標数のセミナーを企画・実施することができた。参加者数も徐々に戻りつつあり、セミナー内容によっては、勤労者や男性の参加者を多く集客することができた。	幅広い年齢層に啓発する機会とするため、セミナー内容や対象年代に合わせた企画内容等の工夫が今後も必要である。	継続
			1-(2)-イ	障害者スポーツ推進事業	障害者スポーツ人材の育成を目指し、スポーツイベントの実施、人材の育成、体制の構築	スポーツ振興課	障害者スポーツ活動を推進するため、筑波大学の受託研究として委託契約を締結し、市民の障害者スポーツに対する意識や取り組みやすい活動の分析及び検討を行う。併せて障害者スポーツの体験も可能な障害者スポーツサポーター養成講座を開催する。	新型コロナウイルス感染症の影響で、教室の中止や、講座の日程や開催方法の変更を余儀なくされたが、主な取組における目標値は達成することができた。 【実施講座】 障スポサポーター養成講座 車いすバドミントン体験講座Aコース 車いすバドミントン体験講座Bコース	中	中	B	新型コロナウイルス感染症	主な取組の目標値は達成したものの、講座の受講者が限定的で、広がりが見られなかった。	これまで実施してきた、障スポサポーター養成講座の対象者を変えて実施し、更にニーズと課題を明確にするため、アンケート調査を実施するなど、新たな方策を検討する。	修正
			1-(2)-イ	生涯学習関連事業(障害のある人や支援者対象)	チャレンジアートフェスティバル、おひさまサンサン生き生きまつり等の開催、奉仕員養成講座の開催	障害者地域支援室	チャレンジアートフェスティバルについては、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、舞台発表は中止とし、作品展示のみとする。作品展は3/8~3/13で実施する。開催前に茨城県庁及びつくば市役所庁舎内にて、令和2年度制作の作品を展示し、一般市民に向けた広報啓発を行う。令和3年度おひさまサンサン生き生きまつりについては、新型コロナウイルス感染拡大防止のため開催中止。 令和3年度の奉仕員養成講座の開催については、手話奉仕員養成講座入門コース6月9日から30回、基礎コース6月8日から30回、音訳奉仕員養成講座10月7日から10回、パソコン要約筆記養成講座10月6日から10回、点訳奉仕員養成講座10月1日から10回実施する。	おひさまサンサン生き生きまつりは、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から中止とした。奉仕員養成講座事業は、手話及び点訳奉仕員養成講座の受講希望者が定員より少なかったが、参加者へ感染防止対策をとっていたり、日程を調整するなど、参加者の不安軽減に努めた。チャレンジアートフェスティバルは、舞台発表は中止としたが、作品展示を実施し、20周年記念事業としてコンサートやワークショップを感染防止対策の上実施したこともあり、一定の参加者数を保つことができた。	中	中	B	新型コロナウイルス感染症	新型コロナウイルス感染症の影響により、事業の中止や内容変更としたものもあったが、参加者への感染対策や実施方法を工夫したため、一定の参加者を得られた。	奉仕員養成講座事業の参加者募集については、講座実施体制の説明や講座受講のメリットを更にPRするなど成果向上の工夫に取り組む。	継続
						男女共同参画セミナー10回	男女共同参画セミナー8回								
						講座の開催数2回 講座の参加者数(延べ人数)20人 障害者スポーツニュースのメール配信回数12回	講座の開催数3回 講座の参加者数(延べ人数)46人 障害者スポーツニュースのメール配信回数12回								
						チャレンジアートフェスティバル来場者数3,350人 奉仕員養成講座受講者数75人	チャレンジアートフェスティバル来場者数2,139人 奉仕員養成講座受講者数51人								

基本方針	施策の柱	施策の方向性	生涯学習基本計画の展開(個別事業内容)				評価の観点	年度内の実績	進捗状況の点検・評価				事業の見直し・取組への反映		
			No.	事業名	事業概要	担当課	令和3年度 事業計画	令和3年度 事業の成果・ 達成状況	有効性	効率性	総合評価	特別な事情	評価の理由	問題・課題の改善	今後の方向性
															継続
学びの力をいかすことができる生涯学習の推進	地域で学び合う生涯学習	地域で学ぶきっかけ作り	2-(1)-ア	つくば人間学講座	市民との協働講座(人間学講座)の実施	生涯学習推進課	<p>学びの成果を生かして地域社会に貢献するなど、生涯学習の成果を生かし、活躍する社会をつくるに当たっての地域の課題や最新の情報を知る学びの場が求められる中、市民との協働事業を行う。人間学講座については、新型コロナウイルス感染症の感染状況に応じて、会場参加・オンライン・動画配信のいずれかの方法により年4回実施する。</p> <p>また、講座終了後にアンケートを実施し、アンケート結果や、オンライン・動画視聴回数等の集計結果から、次年度の開催形式を検討し、講座内容として反映させる。</p>	<p>以下の日程と内容で延べ4回の講座を実施し、うち2回を現地開催と併せてZoomを活用したオンライン配信を実施した。</p> <p>(現地開催のみ)</p> <p>① 10月2日「つくば市誕生秘話」参加者114人</p> <p>② 1月29日「スクールロイヤーからのメッセージ」参加者28人(現地開催・オンライン配信併用)</p> <p>③ 11月13日「わたしとGeorgia(ジョージア)」参加者105人</p> <p>④ 12月5日「生きづらさを抱えた大人のための学び舎」参加者40人</p>	中	中	B	新型コロナウイルス感染症	オンライン同時配信の可否について、講師の意向を確認しながら、可能な範囲で実施し、一定の参加者数を確保することができた。	なし	継続
			2-(1)-ア	文化財展示講座事業	文化財展示施設等での展示、各種文化財・郷土史に関する講座の開設	文化財課	<p>11月～2月にかけて巡回企画展を、関連する催事として11月に体験講座を、12月に講演会を実施する。</p> <p>市域の江戸時代の古文書を題材にした、古文書講座を10～11月に全7回実施する。</p> <p>文化財保護強調週間と関連して、平沢官衙遺跡周辺を歩いて解説するウォーキングイベントを11月に実施する。</p>	<p>昨年度は新型コロナウイルス感染症等の影響で中止となった古文書講座を10・11月で再開することができ、18名の参加者があり、初心者を含めて古文書や地域の歴史に親しむことができた。</p> <p>巡回企画展「つくば市の遺跡と発掘調査-先人の営みを探る-」も11～2月で開催でき、企画展約1,200人、講演会62人、体験学習12人(市内在住・在学の小中学生及び保護者)の来場者・参加者を得た。アンケートの満足度も高く、実施によって歴史や文化財に対する市民の関心や郷土愛を育成することができた。</p> <p>11月に平沢官衙遺跡周辺歴史ウォーキングを実施し、16名の参加者があり、史跡平沢官衙遺跡周辺の遺跡などを体感することができた。</p>	中	中	B	新型コロナウイルス感染症	講演会や体験講座及び古文書講座について、新型コロナウイルス感染症の影響により、参加者の人数を減らして対応することとなったが、アンケートなどによる評価は、満足度が高いものであった。	なし	継続
				講座開催数4回 会場参加者数300人 オンライン参加者数200人 動画視聴数(延べ)100回					講座開催数4回 会場参加者数213人 オンライン参加者数61人 動画視聴数(延べ)24回						
				企画展のテーマに沿った講演会や体験講座の開催日数2回 巡回企画展参加人数1,500人					企画展のテーマに沿った講演会や体験講座の開催日数2回 巡回企画展参加人数1,187人						

基本方針	施策の柱	施策の方向性	生涯学習基本計画の展開(個別事業内容)				評価の観点	年度内の実績	進捗状況の点検・評価				事業の見直し・取組への反映			
			No.	事業名	事業概要	担当課	令和3年度 事業計画	令和3年度 事業の成果・ 達成状況	有効性	効率性	総合評価	特別な事情	評価の理由	問題・課題の改善	今後の方向性	
															継続	修正
学びの力をいかすことができる生涯学習の推進	地域で学び合う生涯学習	地域で学びきっかけ作り	2-(1)-ア	調査・研究支援事業	筑波大学を始めとするつくば市域における図書館との連携、小・中・義務教育学校で実施するブックトーク等による読書促進	中央図書館	つくば市域に所在する各機関の図書館それぞれの情報、資源及び活動成果等の交流を促進し、かつ、連携してその活用を図るため、つくば市域図書館連携協議会において協議を行う。 学校訪問ブックトーク、団体貸出し(調べ学習の支援・学級文庫支援)、ジュニア図書館員受入れ、社会科見学・職場体験学習受入れ、司書教諭及び司書教諭補助員等の研修実施といった学校図書館支援や、ファーストブック講座、ワークショップなど、各種イベントを行う。 参考資料を充実させるとともに、電話やインターネットからの調査・研究の質問を受け付け、専門職員から資料情報を提供する。 つくば市域図書館連携協議会の開催2回 学校訪問ブックトーク40校 団体貸出図書冊数15,000冊 ジュニア図書館員受入人数75人 社会科見学等の図書館見学受入回数10回 職場体験学習受入人数40人 学校図書館司書教諭補助員等の研修参加人数170人 レファレンス受付件数1,800件	つくば市域に所在する各機関の図書館それぞれの情報、資源及び活動成果等の交流を促進し、かつ、連携してその活用を図るため、つくば市域図書館連携協議会において協議を行った。 学校訪問ブックトーク、団体貸出し(調べ学習の支援・学級文庫支援)、司書教諭及び司書教諭補助員等の研修については、新型コロナウイルス感染症の影響により、目標の達成に至らなかった。 また、ジュニア図書館員受入れ、社会科見学・職場体験学習受入れについては、同様の理由により実施が見送りとなった。 レファレンスについても、新型コロナウイルス感染症による臨時休館などもあり、目標の達成に至らなかった。 つくば市域図書館連携協議会の開催2回 学校訪問ブックトーク23校 団体貸出図書冊数7,780冊 ジュニア図書館員受入人数0人 社会科見学等の図書館見学受入回数3回 職場体験学習受入人数0人 学校図書館司書教諭補助員等の研修参加人数49人 レファレンス受付件数1,440件	中	中	B	新型コロナウイルス感染症	緊急事態宣言発出による臨時休館のため、ジュニア図書館員、職場体験学習については受け入れが中止となった。 学校訪問ブックトーク、社会科見学は、新型コロナウイルス感染症の影響で、申し込み後のキャンセルが多数あった。 ただし、学校図書館司書教諭補助員等の研修に関しては、対面式の研修ではなく、事前に録画した動画を各学校で観る形式に変更する等の工夫を行った。	ジュニア図書館やワークショップなどのイベントに関しては、新型コロナウイルス感染症の影響を受けやすいため、講義形式や資料配布形式にするなど、開催方法や内容を変更する必要がある。	修正	
			2-(1)-ア	多文化共生推進事業	外国人市民との交流事業の開催及び民間団体実施事業の周知協力	国際交流室	国籍を越えた市民交流を推進するためのイベント等の開催 外国人住民が日本語を話したり、日本文化に触れることができるイベントの開催支援 つくばワールドフットサルの外国人参加率20% 世界お茶飲み話開催数12回 周知協力イベント(事業)数4事業	国際交流協会主催で「世界お茶のみ話」を11回開催。新型コロナウイルス感染症拡大状況を鑑み、オンラインを活用してできる限り実施したほか、Youtubeで録画配信を行うことでより多くの方に見ていただけるよう工夫した。(無観客開催2回、有観客開催9回) また、アイラブつくばまちづくり補助金交付事業等、国籍を超えた国際交流に資するイベント等について周知協力を行った。 なお、つくばワールドフットサルについては、新型コロナウイルス感染症の拡大により中止した。 つくばワールドフットサルの外国人参加率0% 世界お茶飲み話開催数11回 周知協力イベント(事業)数4事業	中	中	B	新型コロナウイルス感染症	新型コロナウイルス感染拡大等により、予定通り実施できなかった事業もあったが、オンラインの活用等によりほとんどの事業が実施でき、目標値を達成したため。	なし	継続	

基本方針	施策の柱	施策の方向性	生涯学習基本計画の展開(個別事業内容)				評価の観点	年度内の実績	進捗状況の点検・評価				事業の見直し・取組への反映				
			No.	事業名	事業概要	担当課	令和3年度 事業計画	令和3年度 事業の成果・ 達成状況	有効性	効率性	総合評価	特別な事情	評価の理由	問題・課題の改善	今後の方向性		
															継 続	修 正	中 止
学びの力をいかすことができる生涯学習の推進	地域で学び合う生涯学習	地域で学びきっかけ作り	2-(1)-ア	スポーツ教室事業	スポーツ教室の充実	スポーツ振興課	市民のスポーツ活動の促進を図るため、さまざまな種類のスポーツ教室を開催し、スポーツの楽しさや健康維持の手法等を学ぶ機会やスポーツをはじめる機会を提供する。	新型コロナウイルス感染症の影響で、目標としていた回数の教室を実施することができなかったが、1回当たりの教室参加者数が多く、参加者数は目標に近い人数となった。	中	中	B	新型コロナウイルス感染症	年度当初には新型コロナウイルス感染症の感染拡大状況を予測することができず、回数の面では目標達成できなかったが、1回あたりの参加者数は目標値に近い数値であったため。	なし	継続		
			教室の開催数10回 教室の参加者数(延べ人数)720人	教室の開催数7回 教室の参加者数(延べ人数)714人	2-(1)-ア	地域交流センター講座等事業	地域交流センターでの学級・講座の充実	文化芸術課	新型コロナウイルス感染拡大防止のための対策を行ったうえで、講座を開講する。利用者アンケートや講座受講者に対するアンケート結果を踏まえ、市民ニーズに対応した講座を実施する。	新型コロナウイルス感染症対策を講じた上で、地域交流センター17施設で前期講座及び後期講座を開講した。	高	中	A	新型コロナウイルス感染症	令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響で前期講座が中止となったが、令和3年度は前期・後期とも講座を開催することができたため。	なし	継続
			年間講座数80回	年間講座数98回	2-(1)-ア	筑波山地域ジオパーク推進事業	筑波山地域ジオパークについての講座・体験学習の実施	ジオパーク室	令和2年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、講座や会議等の多くが実施できなかった。令和3年度はオンラインや動画配信等を活用し実施する。また、令和3年度中に「筑波山地域ジオパークアクションプラン前期(2021-2024)」を策定し、生涯学習講座の現状・課題・活動内容を整理する。	令和3年度は、環境政策課や文化芸術課が主催する事業への協力や、茨城県及び他市からの依頼を受けジオパークに関連する講座を開催するなど、市民向け講座等を計5回開催した。筑波山地域ジオパークとしても、地域住民が参加する多くの講座やイベント(26回)、部会、シンポジウムを実施し、生涯学習の場を提供することで、地域住民のジオパークへの理解をさらに深めることができた。また、ジオガイドのスキルアップを目的に、インタープリテーション研修を実施した。	中	中	B	新型コロナウイルス感染症	市民向け講座は希望団体等から依頼を受けて実施しているため、新型コロナウイルス感染症の影響もあり昨年度は目標値より少ない開催数となったが、他団体との連携により効果的に市民向け講座を実施することができた。また、ジオガイドについても、オンラインを活用し会合やスキルアップ講座を実施することで、生涯学習講座の担い手の育成を図ることができた。	なし	継続
市民向け講座開催数10回 部会開催数9回 ジオガイド養成講座開催数3回 学術シンポジウム開催数1回	市民向け講座開催数5回 部会開催数14回 ジオガイド養成講座開催数1回 学術シンポジウム開催数1回																

基本方針	施策の柱	施策の方向性	生涯学習基本計画の展開(個別事業内容)				評価の観点	年度内の実績	進捗状況の点検・評価				事業の見直し・取組への反映			
			No.	事業名	事業概要	担当課	令和3年度 事業計画	令和3年度 事業の成果・ 達成状況	有効性	効率性	総合評価	特別な事情	評価の理由	問題・課題の改善	今後の方向性	
															継 続	修 正 中 止
学びの力をいかすことができる生涯学習の推進	地域で学び合う生涯学習	地域で学びつづける仕組みづくり	2-(1)-イ	生涯学習活動相談事業	生涯学習活動の継続支援	生涯学習推進課	市民から生涯学習に対し相談があったときに、適正に支援ができるようにする。また、生涯学習の取組を継続して行えるよう市民にサポートを行う。 支援数2回	生涯学習に関する取組として、市民が主催する学習会等に暮らしに役立つ内容や市政に関する出前講座を新型コロナウイルス感染対策を行いながら36回実施し、市民の市政に関する理解を深めたいという生涯学習に対する要望に応えた。出前講座の場を活かして、今後の出前講座で取り扱ってほしいテーマが4件挙がった。 支援数0回	低	中	D	新型コロナウイルス感染症	新型コロナウイルスの影響があったものの、具体的な支援(出前講座の新規講座立ち上げ及び実施)には至らなかったため。	事業の目的は、生涯学習に関する全般的な分野に対する支援を目指しており、1-(2)-ア「生涯学習ワンストップ対応事業」と同様、市民にわかりやすく相談しやすくなる情報発信を多角的に行っていく必要がある。	継続	
			2-(1)-イ	家庭教育学級支援事業	家庭教育学級への指導・助言、講演会等の開催	生涯学習推進課	家庭教育学級・家庭教育セミナーを開催する。 学級の運営にあたり社会教育指導員が指導・助言を行い、講演会や学習会を開催する。 家庭教育学級 幼稚園 16園、小学校 29校、中学校 12校、義務教育学校 4校 乳児 3か所、幼児2か所の開設 社会教育講演会 年2回開催 家庭教育学級3,000人 社会教育講演会2回 家庭教育セミナー18回	家庭教育学級については、多くの講座を動画配信で実施することで、新型コロナウイルスの影響下であっても事業規模を確保することができた。 社会教育講演会については、以下の内容で2回実施した。 ①10月23日「子どものからだところの今～子どものからだの”おかしさ”を科学する～」会場:つくば市役所 参加者74人 ②3月5日「コロナ禍のメンタルケアの備えのために～社会抑うつ度調査から見えるもの～」オンライン配信 参加者94人 なお、両会とも家庭教育学級にて動画配信を実施している。 家庭教育セミナーについては、学校にすべての保護者が集まる行事を利用して家庭教育のヒントとなる話を社会教育指導員より伝える機会として実施した。 家庭教育学級10,139人 社会教育講演会2回 家庭教育セミナー37回	高	高	S	新型コロナウイルス感染症	新型コロナウイルスの状況下においても、積極的に動画配信を行い、成果を挙げることができた。 動画に対するアンケート結果も、内容について「とても良かった・良かった」と回答する割合が多い。	なし	継続	
			2-(1)-イ	生涯学習指導者情報提供事業	生涯学習情報(OB人材、指導者情報)の整備・活用	生涯学習推進課	令和2年度においては、生涯学習を希望する市民に対し、希望に沿う指導者を紹介することができた。 令和3年度においても、市民が希望する学習の指導者を紹介することに努める。 情報提供数20回 新規登録数5人 登録者総数250人	情報提供について、語学・運動・ダンス・礼儀作法等幅広い分野に関する講師情報の提供を行うことができた。 情報提供数10回 新規登録数11人 登録者総数256人	中	中	B	新型コロナウイルス感染症	情報提供回数が目標値を下回っていることについては、新型コロナウイルス感染症の影響を受けたと考えられる。ただし、新規登録数や累計登録者数は目標を上回り、生涯学習に対する市民の意欲は高い状態である。	情報提供数が最も大事な数値目標であると考えており、指導者情報の提供するチャンネルの増加や情報提供依頼につながる魅力的な情報発信が必要である。	修正	

基本方針	施策の柱	施策の方向性	生涯学習基本計画の展開(個別事業内容)				評価の観点	年度内の実績	進捗状況の点検・評価				事業の見直し・取組への反映				
			No.	事業名	事業概要	担当課	令和3年度 事業計画	令和3年度 事業の成果・ 達成状況	有効性	効率性	総合評価	特別な事情	評価の理由	問題・課題の改善	今後の方向性		
															継続	修正	中止
学びの力をいかすことができる生涯学習の推進	地域で学び合う生涯学習	地域で学びつづける仕組みづくり	2-(1)-イ	学校施設開放事業	学校施設開放(体育館・グラウンドなど)の推進	教育施設課	<p>小・中学校、義務教育学校の学校体育施設の開放を行う。 新たに、義務教育学校1校を開放する。 廃校1校について跡地利用決定のため、今年度の学校施設開放事業をもって終了する。 新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、ガイドラインを作成し、感染拡大に注意を払って活動を運営する。 施設開放の制限については、国や県、学校からの制限等に準拠する。</p> <p>小学校施設開放事業238団体(重複込) 中学校施設開放事業77団体(重複込) 義務教育学校施設開放事業21団体(重複込)</p>	<p>小・中学校、義務教育学校の学校体育施設の開放を行った。 新たに義務教育学校1校を開放した。 跡地利活用の決定に伴い、旧筑波東中学校の開放を令和3年度の事業をもって終了した。 令和3年度の延べ申請数は521件であった。(うち16件は新規団体)</p> <p>新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、ガイドラインを作成・見直しを行い、感染拡大に細心の注意を払って事業を運営した。 施設開放の制限については、国や県、学校からの要請等に準拠した。</p>	中	高	A	新型コロナウイルス感染症	<p>新型コロナウイルス感染拡大に伴い、利用する団体を調整する会議の回数が多くなったが、密を避けながら効率的に行うことができた。 使用団体数の目標値には到達しなかったものの、利用率については小学校・中学校・義務教育学校のいずれにおいても、95%以上と非常に高い水準を維持していた。</p>	なし	継続		
			2-(1)-イ	文化財サポーター事業	文化財の解説ボランティアの育成	文化財課	<p>令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響を受けて学校等の依頼が激減したが、5名が解説ボランティアとして新規登録してもらい、ボランティア登録者数は合計で15名となった。今年度は、感染症対策を徹底しながら10～12月に全6回のボランティア養成講座を開講し、登録者を増やす。 また、新型コロナウイルスの影響で解説依頼が激減している中、登録者の知見向上を目指すための臨時講座を開講する。 小田城跡のボランティア団体である常陸小田城親衛隊の会についても、知見向上のための定期的に研修会を実施する。</p> <p>文化財サポーター参加人数(令和3年度末)20人</p>	<p>10月～12月に谷田部・桜地区の解説を目標とした第3回解説ボランティア養成講座を開催、修了者8名のうち新規登録者8名で、計23名となった。 また、年間を通じて、民間のボランティア団体「常陸小田城親衛隊の会」と連携し、小田城跡での解説や会員への研修等を実施。市の事業に市民が参加し、文化財への理解と愛着を深める機会とすることができた。</p> <p>文化財サポーター参加人数(令和3年度末)23人</p>	中	中	B	新型コロナウイルス感染症	<p>新型コロナウイルスの影響でサポーターの活躍の機会が少なかったものの、新規の登録者を増やすことができた。</p>	<p>登録者の意識が低下しないよう、参加の機会や登録者の知見の向上を目指す研修も必要となる。 引続き解説ボランティア養成講座を定期的開催し新規登録者を増やすほか、登録者向けのステップアップ研修も実施する。</p>	継続		

基本方針	施策の柱	施策の方向性	生涯学習基本計画の展開(個別事業内容)				評価の観点	年度内の実績	進捗状況の点検・評価				事業の見直し・取組への反映		
			No.	事業名	事業概要	担当課	令和3年度 事業計画	令和3年度 事業の成果・ 達成状況	有効性	効率性	総合評価	特別な事情	評価の理由	問題・課題の改善	今後の方向性 継 修 中 続 正 止
学びの力をいかすことができる生涯学習の推進	地域で学び合う生涯学習	地域で学びつづける仕組みづくり	2-(1)-イ	つくば市OB人材活動支援事業	生涯学習情報(OB人材、指導者情報)の整備・活用	企画経営課	<p>新型コロナウイルス感染症の影響に鑑み、登録者のオンライン対応の可否について個別に把握し、オンライン形式を推進することで、停止中の対面形式での活動を補完するかたちで事業継続を図る。 また、シニア・エキスパート便覧(第19版)の発行・配布などの広報活動については、対面形式の再開を見据え、継続的に実施する。</p>	<p>昨年度からマッチングを中断していたが、10月にはアフターコロナを見据えた本事業の再構築に当たり、11月からのマッチングの再開について明確にした。 併せて、つくば市シニア・エキスパート便覧の改訂(第19版)に当たり、オンライン形式に対応可能であるシニア・エキスパートを一覧化したことで、感染拡大期においてもオンライン形式での対応ができる体制を整えた。</p>	中	中	B	新型コロナウイルス感染症	<p>オンラインに対応するなど、制限された中でも必要な対応を取ることができた。</p>	<p>状況に応じてハイブリッド形式とオンラインに限定する形式とを使い分けることで、感染症の状況に柔軟に対応する環境を整えた。</p>	継続
							登録者の活動回数690回	登録者の活動回数6回							
			2-(1)-イ	市民活動団体支援事業	市民活動センターでの活動相談、アイラブつくばまちづくり補助金事業等市民活動団体の活動支援	市民活動課	<p>市民活動団体等の取組を応援し、相談を受けるとともに、市民団体の新たな活動を支援する。 アイラブつくばまちづくり寄附基金を活用し、個性豊かで活力あるまちづくりの実現を目指すため、市民主体の公益的な活動を応援する。</p>	<p>市民活動センターが市の直営となったが、円滑な業務運営の継続を図るため、センター管理運営方針の決定、市民活動団体から収集した情報や助成金情報等を広報紙やホームページ等を通して提供するとともに、活動団体等が必要とする講座等による学習の場の提供、今後のセンター運営等の参考にするためのアンケートを実施するなど、市民活動団体等支援のための様々な業務に取り組むことができた。 また、アイラブつくばまちづくり寄附基金を有効活用し、市民活動団体等が自主的に企画し提案した事業に補助金を交付するとともに、担当部署の協力により事業の自立に向けた支援を行うことができた。</p>	中	中	B	新型コロナウイルス感染症	<p>新型コロナウイルス感染症の影響から市内施設の利用ができない期間が生じたり、市民活動団体等の活動制限により利用者数や相談件数、補助金採択事業数は目標値には達しなかったが、一定の実績をあげることができたため。</p>	<p>おおむね月2回程度の一般的な講座・専門的講座の開設を目指す。また、センター広報紙(行政主体の)以外での市民活動団体情報等の提供や市民活動団体等と市役所担当部署との連携支援等、市民活動団体等の要望等の解決を目指していく。 アイラブつくばまちづくり補助金交付回数終了後の自主財源確保に向けた採択団体のニーズについて、市公式フェイスブック「つくば市民活動のひろば」取材時に調査を行い、課題解決に向けた施策について調査・研究を行う。</p>	継続
						市民活動センター利用者数6,000人 市民活動センター相談件数255件 アイラブつくばまちづくり補助金採択事業数30件	市民活動センター利用者数1,742人 市民活動センター相談件数138件 アイラブつくばまちづくり補助金採択事業数22件								

基本方針	施策の柱	施策の方向性	生涯学習基本計画の展開(個別事業内容)				評価の観点	年度内の実績	進捗状況の点検・評価				事業の見直し・取組への反映			
			No.	事業名	事業概要	担当課	令和3年度 事業計画	令和3年度 事業の成果・ 達成状況	有効性	効率性	総合評価	特別な事情	評価の理由	問題・課題の改善	今後の方向性 継 修 中 続 正 止	
学びの力をいかすことができる生涯学習の推進	地域で学び合う生涯学習	地域で学びつづける仕組みづくり	2-(1)-イ	文化団体等育成支援事業	文化協会の支援	文化芸術課	市民の文化活動の活性化を目指し、つくば市文化協会に対する事業費補助として補助金を交付し、主体的な活動を促進するよう支援する。 事業の実施の際には、新型コロナウイルス感染症対策や、会計処理について指導を行う。	市民ホールや交流センター、美術館など、つくば市内を拠点として事業を展開した。 新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、一部事業の延期や中止が発生したため、当初目標としていた事業数を達成するにはいたらなかったが、感染症対策を講じながら、事業を推進することができた。	中	中	B	新型コロナウイルス感染症	新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、一部事業の中止・延期が発生したが、感染症対策を講じながら実施可能な範囲で取り組むことができたため。	感染症拡大の影響に左右されてしまう可能性が高いため、感染症対策を講じながらの事業実施形態について、情勢に応じて検討していく必要がある。	継続	
			2-(1)-イ	(公財)つくば文化振興財団支援事業	文化振興財団の支援	文化芸術課	公益財団法人つくば文化振興財団への指導・助言のほか、財政的支援として行政補完型運営補助金の交付を行う。 また、つくば文化振興財団と協定を締結し、共同主催により市内の文化施設等で音楽・演劇・芸能・美術等の幅広いジャンルの文化芸術振興事業を実施する。	ノバホールやつくばカピオ、市民ホールなどを会場として公演事業を実施したほか、美術館での展覧会、小学生を対象としたアウトリーチ、アーティストを対象としたワークショップなども並行して展開し、事業を推進した。 新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、一部事業の延期や中止が発生したが、感染症対策を講じながら、おおむね目標を達成することができた。	中	中	B	新型コロナウイルス感染症	新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、一部事業の中止・延期が発生したが、感染症対策を講じながら実施可能な範囲で取り組むことができたため。	感染症拡大の影響に左右されてしまう可能性が高いため、感染症対策を講じながらの事業実施形態について、情勢に応じて検討していく必要がある。	継続	
						文化芸術課	文化芸術振興事業の実施23回	文化芸術振興事業の実施22回								

基本方針	施策の柱	施策の方向性	生涯学習基本計画の展開(個別事業内容)				評価の観点	年度内の実績	進捗状況の点検・評価				事業の見直し・取組への反映				
			No.	事業名	事業概要	担当課			令和3年度事業計画	令和3年度事業の成果・達成状況	有効性	効率性	総合評価	特別な事情	評価の理由	問題・課題の改善	今後の方向性
													継続	修正	中止		
学びの力をいかすことができる生涯学習の推進	地域で学び合う生涯学習	地域で学びつづける仕組みづくり	2-(1)-イ	高齢者生きがい活動支援事業	高齢者の社会活動支援	高齢福祉課	<p>各種イベントやシルバークラブ活動への支援</p> <p>新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、イベント開催中止や事業規模縮小となったが、内容変更等対策を講じ、高齢者の健康づくりや生きがいづくり、社会参加の促進に寄与した。</p> <p>また、133の単位シルバークラブを含むシルバークラブ連合会に補助金を交付することで、その活動を支援した。</p> <p>いばらきねんりんスポーツ大会は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため開催中止</p> <p>シルバー人材センター 新規入会者79名 退会者104名 市からは、施設の夜間当番/草刈り/清掃等を依頼している。</p> <p>補助金を交付することにより、シルバー人材センターの円滑な運営を支援し、高齢者の生きがいの充実、社会参加の促進等に寄与できた。</p>	<p>各種イベントやシルバークラブ活動への支援</p> <p>新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、イベント開催中止や事業規模縮小となったが、内容変更等対策を講じ、高齢者の健康づくりや生きがいづくり、社会参加の促進に寄与した。</p> <p>また、133の単位シルバークラブを含むシルバークラブ連合会に補助金を交付することで、その活動を支援した。</p> <p>いばらきねんりんスポーツ大会は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため開催中止</p> <p>シルバー人材センター 新規入会者79名 退会者104名 市からは、施設の夜間当番/草刈り/清掃等を依頼している。</p> <p>補助金を交付することにより、シルバー人材センターの円滑な運営を支援し、高齢者の生きがいの充実、社会参加の促進等に寄与できた。</p>	中	中	B	新型コロナウイルス感染症	<p>いばらきねんりんスポーツ大会については開催中止となってしまったが、シルバークラブ活動支援や高齢者労働能力活用事業費補助事業に関しては、内容変更等対策を講じ実施する事ができた。</p>	<p>各種イベントやシルバークラブ活動への支援</p> <p>シルバークラブの会員減少について、若手会員の加入促進や魅力ある活動メニューを広げる取組みに努めることで、シルバークラブ連合会全体の活性化を支援する。</p>	継続		
							<p>シルバークラブ会員数6,620人 単位シルバークラブ数140団体 契約件数4,400件 参加者数600人</p>	<p>シルバークラブ会員数6,292人 単位シルバークラブ数133団体 契約件数2,990件 参加者数0人</p>									

基本方針	施策の柱	施策の方向性	生涯学習基本計画の展開(個別事業内容)				評価の観点	年度内の実績	進捗状況の点検・評価				事業の見直し・取組への反映			
			No.	事業名	事業概要	担当課	令和3年度 事業計画	令和3年度 事業の成果・ 達成状況	有効性	効率性	総合評価	特別な事情	評価の理由	問題・課題の改善	今後の方向性	
															継 続	修 正 中 止
学びの力をいかにすることができる生涯学習の推進	「社会力」を持った人材の育成	実践できる人材の育成	2-(2)	「社会力」人材育成事業	「社会力」を持った人材を育成するために、連続講座など「社会力」を育成する講座を実施	生涯学習推進課	地域の課題を地域で解決できるよう、社会力を持った人材を育成するため、社会力講座を会場参加・オンライン・動画配信のいずれかの方法により年5回実施する。また、講座終了後にアンケートを実施し、アンケート結果や、オンライン・動画視聴回数等の集計結果から、次年度の開催形式を検討し、講座内容として反映させる。 講座開催数5回	以下の日程と内容で延べ4回の講座を実施し、全ての講座で現地開催と併せてZoomを活用したオンライン配信を実施した。 ① 9月25日 「つくば市内大学での社会力育成の取組み」 参加者22人 ② 10月24日 「地域を学びの場に社会力育てを目指すつくばね学」 参加者24人 ③ 12月5日 「女性の社会力が地域を育てる」 参加者12人 ④ 2月6日 「社会力を活かしたサステナブルな地域活性化の取組み」 参加者14人 講座開催数4回	中	中	B	新型コロナウイルス感染症	新型コロナウイルスの影響を受けながら、Zoomを活用して事業を展開することができた。	社会力の育成について、毎年単純な講座のみではなく、年度ごとに内容を深化させ、目標である社会力を持った人材を育成していく必要がある。	継 続	
			2-(2)	地区リーダー勉強会事業	地区リーダー勉強会の開催	市民活動課	つくば市の地域社会のリーダーである区長のスキルアップを図り、各地域のコミュニティ活動を活性化させることを目的とした、勉強会(講演会)を実施する。 人材づくりイベントの参加者数100人	東日本大震災から10年が経過し、その後も大規模な自然災害が全国各地で発生している中、被害を最小限にとどめるために、住民一人一人が災害のリスクについて認識し、自分の身は自分で守る「自助」、自治会や自主防災組織など地域で互いに助け合う「共助」に関する内容で、6月に開催予定であったが、新型コロナウイルス感染症の影響により延期した。その後、改めて8月に開催を目指したが、茨城県独自の緊急事態宣言及びまん延防止等重点措置の対象エリアとなったため中止とした。 人材づくりイベントの参加者数0人	—	—	—	新型コロナウイルス感染症	新型コロナウイルス感染症の影響により、事業を実施することができなかったため。	なし	継 続	
			2-(2)	地域まちづくり支援事業	まちづくりに関する講座の実施・専門家の派遣	都市計画課	【まちづくりに関する講座の実施】 市民向けに、まちづくりへの関心と理解を深めることを目的として、都市計画の制度やつくば市の現状を紹介し、現地見学会を行う講座を開催する。 【専門家の派遣】 地域住民などで構成される地域まちづくりグループや地域まちづくり推進団体等が活動を行う上で、組織の運営に関すること、まちの課題や将来像に関すること等について指導や助言等を求めてきた際に、地域まちづくり専門家の派遣を行う。 講座開催数1回 申請に応じた専門家の派遣8回	【まちづくりに関する講座の実施】 1回実施し、計13名の市民の参加があった。 【専門家の派遣】 地域まちづくり推進団体2団体の申請に応じ、計7回の専門家派遣を行った。 講座開催数1回 申請に応じた専門家の派遣7回	中	中	B	新型コロナウイルス感染症	【まちづくりに関する講座の実施】 新型コロナウイルス感染症の影響もあったが、定員を超える申込みがあり、多くの方々に学びの機会を提供することができた。 【専門家の派遣】 地域まちづくり推進グループ及び地域まちづくり推進団体からあった申請すべてに対し適切に専門家を派遣することができた。	なし	継 続	

つくば市生涯学習審議会委員

参考資料3

任期:令和4年8月1日～令和6年7月31日

No.	氏名	よみ	任命区分	備考
1	飯島 眞市	いいじま しんいち	市民委員	
2	石塚 一夫	いしづか かずお	各種団体等の代表者 つくば市シルバークラブ連合会 会長	交代(R5.6.12任命)
3	岡田 克司	おかだ かつじ	学識経験者 元学校長(手代木中学校長)	
4	木村 清隆	きむら きよたか	市議会議員	
5	佐野 洋子	さの ようこ	市民委員	
6	鈴木 朱里	すずき あかり	各種団体等の代表者 NPO法人ままとーん 代表理事	
7	関 瑞穂	せき みずほ	市民委員	
8	武田 直樹	たけだ なおき	学識経験者 NPO法人フュージョン社会力創造パートナーズ理事 理事長	
9	田中 秀夫	たなか ひでお	各種団体等の代表者 つくば市文化協会 会長	
10	田中 依子	たなか よりこ	市民委員	
11	中嶋 修	なかじま おさむ	各種団体等の代表者 青少年を育てるつくば市民の会 会長	交代(R5.6.12任命)
12	長橋 進也	ながはし しんや	各種団体等の代表者 つくば市PTA連絡協議会 顧問	
13	根本 典子	ねもと のりこ	市民委員	
14	萩原 武久	はぎわら たけひさ	各種団体等の代表者 つくば市スポーツ協会 会長	
15	平野 浩之	ひらの ひろゆき	各種団体等の代表者 つくば市学校長会	
16	船橋 秀彦	ふなばし ひでひこ	各種団体等の代表者 つくば市福祉団体等連絡協議会 副会長	
17	星埜 祥子	ほしの しょうこ	各種団体等の代表者 子育て休憩室・ほっとステーションオアシス	
18	溝上 智恵子	みぞうえ ちえこ	学識経験者 筑波大学 客員教授	
19	山崎 誠治	やまざき せいじ	各種団体等の代表者 つくば市ボランティア連絡協議会世話人代表	交代(R5.6.12任命)

敬称略、50音順

- ※つくば市生涯学習審議会条例第3条第2項
委員は、次に掲げる者のうちから市長が任命する。
- (1) 市議会議員
 - (2) 各種団体等の代表者
 - (3) 学識経験者
 - (4) 市内に在住し、在勤し、又は在学するもの

○つくば市生涯学習審議会条例

平成5年6月25日
条例第25号

(設置)

第1条 市民が自己を高めるため、生涯にわたり社会のあらゆる領域で自発的、自主的に行う学習活動(以下「生涯学習」という。)の振興に関する施策を総合的に進めるため、つくば市生涯学習審議会(以下「審議会」という。)を設置する。

(所掌事務)

第2条 審議会は、市長の諮問に応じ、次に掲げる事項について調査審議し、答申する。

- (1) 生涯学習を振興するための施策の総合的な推進に関する事項
- (2) その他生涯学習の推進に必要な事項

(組織)

第3条 審議会は、委員25人以内で組織する。

2 委員は、次に掲げる者のうちから市長が任命する。

- (1) 市議会議員
- (2) 各種団体等の代表者
- (3) 学識経験者
- (4) 市内に在住し、在勤し、又は在学する者
(平9条例43・平30条例29・一部改正)

(任期)

第4条 委員の任期は、2年とする。ただし、委員が欠けた場合における補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

2 委員は、再任されることができる。

3 [前条第2項第1号](#)又は[第2号](#)に規定する者で当該職又は地位により委員に任命されたものが当該職又は地位を離れたときは、委員の職を失うものとする。

(平9条例43・一部改正)

(会長及び副会長)

第5条 審議会に会長及び副会長を置く。

2 会長及び副会長は、委員の互選によって定める。

3 会長は、会務を総理し、審議会を代表する。

4 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるとき、又は会長が欠けたときは、その職務を代理する。

(平9条例43・一部改正)

(会議)

第6条 審議会の会議(以下「会議」という。)は、会長が招集する。

2 会長は、会議の議長となる。

3 会議は、委員の過半数が出席しなければ開くことができない。

4 会議の議事は、出席委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、会長の決するところによる。

(部会)

第7条 審議会に、専門の事項を調査するため、必要に応じて部会を置くことができる。

2 [前項](#)の部会の委員は、審議会の委員のうちから審議会が選任する。

(委任)

第8条 [この条例](#)に定めるもののほか、審議会の運営に関し必要な事項は、審議会が定める。

附 則

[この条例](#)は、公布の日から施行する。

附 則(平成9年条例第43号)

この条例は、公布の日から施行する。

附 則(平成30年条例第29号)

この条例は、公布の日から施行する。

会 議 録

会議の名称		令和5年度第2回つくば市生涯学習審議会		
開催日時		令和6年(2024年)3月12日(火) 開会10:00 閉会12:00		
開催場所		つくば市役所2階 203会議室		
事務局(担当課)		教育局生涯学習推進課		
出席者	委員	武田 直樹委員(会長)、木村 清隆委員(副会長)、 石塚 一夫委員、岡田 克司委員、佐野 洋子委員、 鈴木 朱里委員、関 瑞穂委員、田中 秀夫委員、田中 依子 委員、長橋 進也委員、根本 典子委員、萩原 武久委員、 平野 浩之委員、溝上 智恵子委員、山崎 誠治委員		
	その他	森田 充教育長		
	事務局	吉沼 正美教育局長、久保田 靖彦次長、澤頭 由紀子生涯学習 推進課長、色川 純子課長補佐、渡辺 幹高係長、渡邊 亮太社 会教育主事、尾野 千明主任、大久保 竣介主事		
公開・非公開の別		<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 非公開 <input type="checkbox"/> 一部公開	傍聴者数	1名
非公開の場合はその理由				
議題		(1) 講演 演題「地域づくりの在り方と進め方」 (2) 意見交換「社会力育成とその成果としての地域づくり」		
会議録署名人			確定年月日	年 月 日
会 議 次	1 開 会 2 教育長挨拶 3 議事			

<p>第</p>	<p>(1) 講演 演題「地域づくりの在り方と進め方」 講師：認定 NPO 法人 宇都宮まちづくり市民工房 常務理事 土崎 雄祐 氏</p> <p>(2) 意見交換 「社会力育成とその成果としての地域づくり」</p> <p>4 その他 5 閉会</p>
<p>1 開会 事務局</p> <p>2 教育長挨拶 森田教育長</p>	<p>○事務局 おはようございます。ただいまから令和 5 年度第 2 回 つくば市生涯学習審議会を開会いたします。 はじめに教育長の森田より皆様に挨拶申し上げます。</p> <p>○森田教育長 本日も大変お忙しいところをお集まりいただきまして ありがとうございます。 この審議会は、昨年からいろいろな形に挑戦しよう ということで、新しい試みを行っています。今回は生涯学 習が関連するテーマの講演、それを踏まえての意見交換 という形で実施をさせていただくということになりました。 そして、講演の講師には、宇都宮市をはじめ、様々な 自治体において、生涯学習や社会教育の分野で御活躍を していらっしゃいます土崎雄祐先生をお招きしました。 土崎先生からは、本日、「地域づくりの在り方と進め 方」というタイトルで、先生が携われてこられました先</p>

進事例を含めて御講演をいただけるということで大変楽しみにしているところでございます。

皆さんも御存知のようにつくば市の教育大綱に掲げられている「一人ひとりの幸せ」を、ということで考えているわけですが、一人ひとり、自分だけが幸せというだけではなくて、周りのみんなの人が幸せになるようにと、今「ウェルビーイング」と言われていますが、そういった社会を目指していくことを掲げています。

そういうときに、前教育長が提唱しておりました「社会力」がキーワードになっていることを、これまでもこの審議会での議論の中で言われてきたわけですが、社会力を育てれば、地域づくりも進むであろうと考えています。

本日もお配りしております第3次つくば市生涯学習推進基本計画では、この教育大綱の考え方を受けて、生涯学習の成果を生かして、地域や社会の課題に挑戦することを理念として掲げています。

今日集まっておられます生涯学習のエキスパートである委員の皆様には、ぜひ、講演の内容から着想を得たこれからのつくばの生涯学習に関するアイデアをお出しいただければと思います。来年度から始まりますつくば市生涯学習推進基本計画の改定、これにもつなげることができれば幸いと考えております。

委員の皆様には、どうぞ御忌憚のない御意見をいただければと思いますので、何卒よろしく願いいたします。

<p>3 議事(1) 講演</p> <p>事務局</p>	<p>ありがとうございます。続きまして、次第の3、議事に進んでいきますが、議事の進行につきましては、つくば市生涯学習審議会条例第6条第2項に、「会長は会議の議長となる」と定められていますので、武田会長に議事を進めていただきたいと存じます。</p> <p>なお、本日の出席委員は、15名です。委員の過半数が出席しておりますことを申し添えます。それでは武田会長よろしく願いいたします。</p>
<p>武田会長</p>	<p>会長の武田でございます。どうぞよろしく願いいたします。早速議事に入らせていただきます。本日は講演とそれを踏まえた意見交換ということで、審議会を昨年度に続いて新しい実施方法で行って参りたいと思います。</p> <p>本日は講師としまして、認定NPO法人、宇都宮まちづくり市民工房の常務理事である土崎雄祐様をお招きすることができました。講師の紹介や本日の進行について説明をお願いいたします。</p>
<p>事務局</p> <p>武田会長</p>	<p>事務局が講師の紹介と進行について説明</p> <p>ありがとうございました。説明がありましたとおり、意見交換のファシリテーターは、私が務めさせていただきます。それでは土崎先生、よろしく願いいたします。</p>

<p>講師</p>	<p>講師が、以下のトピックを中心に講演を実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・なぜ、地域づくりなのか？：2018 年中教審答申から読み取れること ・栃木県内の地域づくりの事例：中山間地域活性化、子育て支援、地域学校協働活動 ・地域づくりの推進に向けて：コーディネーション力を高めよう
<p>武田会長</p>	<p>土崎先生ありがとうございました。続きまして意見交換に移りたいと思います。意見交換は、つくば市の教育目標になっている「社会力の育成」ということと、その成果としての地域づくりをテーマとしております。</p> <p>講演内容を踏まえ、つくば市の今後の社会力の育成、それを地域づくりに、どのように生かしていくのかといった点に対するアイデアを出していければと思っております。意見交換の方向性について事務局から何かありますか。</p>
<p>事務局</p>	<p>土崎先生ありがとうございました。この後、委員の皆様から御意見をいただき、来年度から始まる（仮称）第4次つくば市生涯学習推進基本計画の策定に生かしていきたいと考えております。</p> <p>本日は委員の皆様から、つくば市の生涯学習全体に対する俯瞰的な御意見を頂戴できればと考えておりますので、どうぞよろしくお願ひいたします。</p>

<p>武田会長</p>	<p>ありがとうございます。そうしましたら、来年度から始まります（仮称）第4次つくば市生涯学習推進基本計画について今後話し合いをしていくということも踏まえながら、もちろんそればかりではないと思いますけれども、御意見いただければと思います。</p> <p>発言につきましては土崎先生への質問でも結構でございます。発言のポイントにつきましては、事務局で、パワーポイントでメモを貼ってもらえるので参考にしてください。</p> <p>本会議の会議録作成のために、発言される際にはマイクを御使用いただきまして、冒頭にお名前をおっしゃってから御発言をお願いいたします。</p> <p>まず議論のきっかけづくりとしまして、最初は私が委員を指名させていただきます。溝上委員いかがでしょうか。</p>
<p>溝上委員</p>	<p>ありがとうございます。溝上でございます。土崎先生どうもありがとうございました。大変刺激的な内容で、地域の課題をどう解決していくかということは、つくば市はまだ、幸いにもそんなに人口減少の問題はございませんが、もう間もなく、高齢化は大きな課題になる中で、大変参考になる御意見を多数いただいたと思います。</p> <p>その1つに、今まで生涯学習は個々人の生きがいとか趣味教養だったのが、地域課題の解決を通じて地域づくりへと大きく方向転換されているという話がありまし</p>

<p>講師</p>	<p>た。NPOの方々は自発的に地域課題を見つけて解決に進まれると思いますが、要はその活動を始めた第1世代がいなくなられた後、第2世代・第3世代の方をどう育てるかということが大きな課題になってくるのではないかと思います。そのことについて、工夫されていらっしゃる点等があったら、御示唆いただければと思います。以上です。</p> <p>ありがとうございます。実は先ほど紹介した3つの例でキーパーソンになっている方たちは40代の方たちで、お子さんが小学生だったり、中学生だったり、高校生だったりという子育て真っ只中という年代です。</p> <p>第1世代の方たちもそうであったように、何か既存の活動に参加するというよりは、自分で何か立ち上げるといふことに皆さん意識が向くのかなというところがあります。どうしても、経験を重ねるといろいろな実績とか財産的なところも含めて、団体の活動を維持させる方向にベクトルを持って行きたがる部分があるのかなと思っています。</p> <p>そういう意味では、第1世代で今頑張っている方たちは、それはそれできちんと尊重した上で、一方で違う世代の人たちがその同じ世代の人たち同士で小グループになって活動できるような支援の仕方があるのかなと思っています。社会教育だと組織化支援というふうな言葉もありますけれども、まずは近しい問題意識とか年齢とか、住んでいるところとかといったことをきっかけに</p>
-----------	--

<p>武田会長</p>	<p>するのがいいと今質問をお聞きして思いました。</p> <p>ありがとうございます。ここから先は他の委員の皆様にも挙手で意見質問いただければと思います。皆様いかがでしょうか。</p>
<p>関委員</p>	<p>市民委員の関と申します。土崎先生、本日はどうもありがとうございます。先ほどの御講演にありましたように、「生涯学習」という言葉が、地域課題、地域活性といった形に名前が変わっているという背景を聞きまして、私はそれがすごく腑に落ちました。</p> <p>というのは、私はいわゆるつくば市の中でも、昔からある旧町村部の方に住んでおりまして、そういった中では、こういう生涯学習とか地域課題解決などについて言葉的な意識はないのですが、実際には、それぞれの地域の伝統行事であったり、いろんな課題をどうやって若い世代につないでいってやっていこうかということであったり、いわゆる地域の活性に関する課題に取り組んでいます。</p> <p>ただ、やはり生涯学習といったように学習とついでしまくと、敷居が高くなりなかなか1歩踏み出せないところがあります。つくば市は、昔から、もう100年、200年前から住んでいる方、研究学園都市と同時にこられた方、またTX開通後新たにこられた方、と多様性がすごくあると思いますが、自分たちがやっていることが地域の活性化に繋がっているという意識を持ってもらって、</p>

<p>武田会長</p>	<p>いろいろなことに参加してもらいたいと思っています。</p> <p>私の住んでいるところでも、「絆会」という、若い人、とはいっても上は 70 歳代で下は 40 歳ぐらいの方々の集まりですが、そういった方々に、地域活性、生涯学習、そういった概念があること、それが今自分たちが今やっていることと繋がるんだということを伝えていきたいなと思いました。</p> <p>はい。ありがとうございます。「きずな会」というのはどういう方が主体となって立ち上げられた団体なのでしょう。</p>
<p>関委員</p>	<p>私はつくば市〇〇〇というところに住んでおり、〇〇〇でも、旧町村があって〇〇〇という約 100 件近くの地域です。15、6 年前に当時 60 歳以下のメンバーで 2、30 人集まって結成しました。地域には昔からいろんな行事があって、地域住民の関係性が見えたものですが、全然今顔が見えない、それは地域の住民同士のコミュニケーション等が核家族化とともに、だんだん減ってきているということもあり、色々な地域の行事を通して、若い人たちで何かやっていかないかということで作ったものです。</p> <p>地域の行事を、地域の役員ではない絆会の人たちが支援するので、すごく行事が早く進むとか、円滑に進むという評価を受け、今はなくてはならないグループになっています。</p>

	<p>そういった活動をしていても、生涯学習や地域づくりに繋がっているという意識がないまま動いているところもあるので、もう少しそういった意識をもって、外に向けて発信してもいいのかなと思いました。</p>
<p>武田会長</p>	<p>ありがとうございます。関委員が地域のリーダーとして、コーディネートされながら、若い方の出番を会もつくりながらやられているという先進的な取り組みだと感じました。ありがとうございます。</p>
<p>佐野委員</p>	<p>市民委員の佐野と申します。私は民生委員を今期から務めています。今お話を伺っていて思うことは、福祉分野においても、地域づくりとか、その地域支援体制を作るとか、そういうことが言われています。つくづくそこにおいて思うことは、その地域とは一体どこまでを言うのかということです。どこからどこまでを言うのかが見えないということです。</p> <p>例えば民生委員の組織においても、具体的な担当地域はごく狭いです。何とか町の何丁目が担当地域ということで狭いのですが、民生委員の集まりの中では圏域ごとに集まりを作っています。つくば市は6つの圏域に分かれていまして、その圏域ということになると、すごく広いです。ですから、自分の体感している感じ、感覚にあるところの地域とは全然違ってきます。</p> <p>私は、〇〇〇に住んでいますが、それは谷田部地区です。ところが、谷田部の圏域の中に住んでいるという感</p>

覚がまるでない中で、谷田部の地域づくりを考えなきゃいけないということがあって、その意識の乖離がやっぱり問題になってくると思います。

ですから、地域づくりを言うときのその地域の広さ、そのまとまりをちゃんと統一する必要があると思います。福祉分野でも教育分野でも地域づくりが言われている中で、作らなければならない対象の地域をどこに設定するかということに関する統一ができていないと、なかなか福祉分野とか、医療介護の分野とか、それから教育分野とかのかかわり合いによる繋がりが生まれなと思います。分散してしまいます。

その時に思うことは、拠点です。その拠点がどこになるかという、地域によっては自治会館とか集会所とか、そういうものありますけれども、私が住んでいるところには、そういうものは一切なくて、集まろうに集まる場所がありません。地域交流センターが唯一あるわけですが、地域交流センターも場所取りが大変で、なかなか場所が取れません。

近隣に住んでいる人でも地域交流センターに1回も行ったことがない人というのめたくさんいます。

私からの提案ですが、そういったときにやっぱり一番イメージできるのは、小学校区だなと思います。自分の地域、住んでいる地域としてイメージできるのは小学校区だと思います。

そういう面で小学校を中心にして今コミュニティスクール構想があります。地域のネットワークを作るとい

	<p>う試みの連携こそがすごく必要で、その一番核になるのは体感で言うと、小学校区ぐらいの広さの地域を作っていこうじゃないかと、みんながイメージすることが、重要じゃないかなと思いました。</p>
武田会長	<p>ネットワークという部分で土崎先生いかがですか</p>
講師	<p>まさにそうだなと思っています。行政の施策に引っ張られると、画一的に中学校区とか、例えば宇都宮市だと連合自治会の区分けが、たしか5つあるというふうに、区分けが果たして自分やそこに暮らしている人たちの納得がいく区域なのか、それぞれの実感として違うのかなと思います。</p> <p>例えば塩原の話をしましたけども、塩原は山の下から山の上まで上がって行って、温泉街があって、さらにスキー場とかある山奥も塩原です。そこには同じ塩原の中でもさらに違いがあるので、佐野委員のおっしゃるとおりだなと思っています。</p> <p>もう1つ、そのコミュニティスクールの部分について、学校を核とした地域づくりはやりやすいと思っています。みんな学校には何かしら行ったことがあります。学校は子供が歩いて通えるところが原則なので、みんなにとって物理的にも近いところにあるということもあります。</p> <p>学校の中で様々なことをやられていますけど、それは地域とほとんど結びついてやっています。今ある学校と</p>

	<p>地域の繋がりをきっかけにしながら、教育だけじゃなくて福祉とか、様々な取り組みが進むとやりやすいと思っ ていて、今佐野さんがおっしゃったことはかなり本質を 突いていると思って聞いていました。</p>
<p>武田会長</p>	<p>ありがとうございます。次は田中委員どうぞ。</p>
<p>田中秀夫 委員</p>	<p>つくば市文化協会の会長をやっています田中と申し ます。今日の講演について、生涯教育という部分でどう も欠けている部分を感じましたので一言申し上げます。</p> <p>人生を大きく考えと、30年おきであれば、90までの 最後の30年を高齢者といいます。実を言うと、高齢 者と一概に言うけれども、相当にニーズが多いんですよ ね。</p> <p>文化協会では私は700人の会の長でいますが、皆さんは 定年後の人たちで、それが700人います。私が今感じて いるのは、特に男性の人たちで、はっきり申しますと、 60歳まで縦社会で働いていた人が、定年後に文化活動 をし始めると、文化活動は横社会です。上司を見ている のではなく仲間・同士みたいな感じ、同格で話を進めて いくものです。</p> <p>特に男性は40年間ぐらい働いている間は縦社会です から、横社会に対して、ほとんどの人は向いていません。 はっきり言うと、定年後に何をやるかと考えた場合、文 化活動をするのはもう間に合いません。そこに入るため の準備運動が必要です。そのための教育システムが欠け</p>

	<p>ているのではないかと思います。</p> <p>女性はむしろ夫の仕事が終わって、子供の教育が終わって、さあということで非常に活発ですけども、男性は命懸けて働いた人ほど、社会活動ができません。</p> <p>お聞きしたいのは、そういういわゆる定年になる前に、そういう準備を始めて、そのあと楽しむ、私が見ていると楽しめない人 80 過ぎた人は今かなり多いのですが、どういう目的で生きているのかという男性はかなりおります。そのために、生涯教育の中に、そういう社会に慣れる、逆に言えば縦社会から横社会に慣れる訓練をするようなそういうようなシステムを作り上げていただきたいと思っています。</p>
武田会長	<p>はい。ありがとうございます。とても興味深いご意見でしたけども、土崎先生いかがでしょうか。</p>
講師	<p>いくつか視点があるかなと思います。おっしゃる通りだなというところがあって、私が少し前に聞いた話で、どこの地域でもそうだとは言いきれませんが、田中委員がおっしゃるように働く世代、50代とか60代前半の男性が、ある地域でボランティア講座といったものを開催すると、定年後に何したらいいかわからないので、今のうちに行きますといった目的で情報収集する働く世代っていうのが増えてきているのではないかと思います。これは西日本の方でボランティアコーディネーターの仲間からたまたま最近そういう話を聞いた</p>

<p>武田会長</p>	<p>なものです。</p> <p>あと、今その過渡期だなと思うのが、働く現場自体が今かなり多様性、男性社会からダイバーシティということで女性が入ってきたり、男性も育休を取得するっていうふうなところがあったりします。あとやっぱり大きいのは、定年延長、働く時間が長くなっているということで、宇都宮などで自治会の人たちと話をする、自分たちの頃は 60 歳とか 65 歳になると地域と一緒に活動やろうよって誘われたけれども、今どきの 60、65 の人たちは、まだ仕事しているからと言われて誘えないんだと頭抱えている 70 代の役員さんたちに会ったことがあります。</p> <p>そういう環境も含めて考えなきゃいけないのかなと思っていて、私自身もまだ「こうすればいい」というところには至っていませんが、今栃木県でシルバー大学校という高齢の方たち、シニアの方たちが通う場所に関する仕事もしていますが、そういう中でも、職場とは違う環境が社会の中、地域の中にありますよという発信を、ミクロなレベルではやっていますが、そうしたことも大きな視点で考えなきゃいけないなという点で御指摘のとおりかなと思いました。</p> <p>はい。ありがとうございます。土崎先生、たくさんの肩書きがありますが、私の意見になりますけど、やっぱり働いているときでも、2つ目3つ目の顔、兼業・副業ということも含めてかもしれません何か持つという</p>
-------------	---

<p>鈴木 委員</p>	<p>ことがだんだん当たり前になってくる、その一環としての社会貢献活動、ボランティアが入ってくるのかなというふうに思いました。とても興味深いコメントありがとうございました。</p> <p>鈴木です。どうもありがとうございました。</p> <p>私は子育て世代です。つくば市はどんどん人口が増えてきていますが、その中でも子育て世代が増えている印象を受けます。つくば市と言っても、本当に広くて、中心部と周辺部で大分状況が異なっているのかなと思います。</p> <p>先ほど地域学校協働活動の話のところ、中学生が防災学習をやっていましたが、まさにこれはコミュニティ・スクールだなと感じていました。こういったことがやはり、今後どんどん進んでいくことが地域づくり、人の繋がりに繋がっていくのかなと感じました。私は4月から家庭教育学級の役員に小学校でなったので、そういったことも踏まえながらやっていけたらいいのかなと思います。</p> <p>また、つくば市の状況として中心部と周辺部、高齢者であるのか子育て世代であるのかの違いでも多分いろいろな課題があると思うので、そういったところを、行政も縦割りではなくて、横の繋がりを持って、いろいろな課と連携しながら進めていってほしいなというふうに感じます。</p>
--------------	---

<p>武田会長</p>	<p>ありがとうございます。いろんなセクターの中のコーディネーションという話だと感じましたが、例えば土崎先生が宇都宮市で縦と横、その連携について何か工夫されているとことがあれば教えてください</p>
<p>講師</p>	<p>地域づくりを進めるときにシンボルというものが大事だなと思っています。今、宇都宮市は路面電車、LRTが熱いです。8月に開通して、何が起きているかというと、停留所ごとにその周りににぎわいをつくる動きが出始めているかなと思っています。</p> <p>あと宇都宮でもう1つホットなテーマが、大谷石です。帝国ホテルとかで古くから使われていて、それが採掘される大谷地区が宇都宮市の西側にあって、もともとは戦争中にそこで飛行機作っていた背景があります。バブル期には不法投棄が結構すごくて、あんまりいい地域だと言われていませんでしたが、採掘場って神秘的な雰囲気とかがあって、そこに注目して再開発しようということで、観光振興や文化振興という面での大谷石文化をもっと盛り上げていこうという動きがあります。何年か前に日本遺産になったようですが、そうしたところを核として、行政には縦割りはありますが、例えば教育委員会の文化財の担当のところに、大谷石の担当のチームがあったり、産業振興のところに大谷地区振興室なんていうものがあったりします。</p> <p>たまたま宇都宮はそれらが今熱いというだけで、やはり地域づくりを考えると、学校は重要だと思っています</p>

<p>武田会長</p>	<p>ます。学校はどこにでもあるので、シンボルになりやすく、例えば運動会をやる時に学校だけでなく地域の運動会も一緒にそこでやっちゃうとか、地域の人たちもそれを手伝う、出番を作るといったことがあります。学校は行事をたくさんやっているんで、シンボルとしての役割は大きいといろいろなところを見て思うところです。</p> <p>ありがとうございます。シンボル、目標が1個あることで、縦割りなどを解消しながら、連携しながら協力しながらやっていくというコメントをいただきました。</p>
<p>萩原委員</p>	<p>スポーツ協会の萩原です。先生の話をもつてその通りだなと感じますが、今頭の中が混乱しています。「生涯学習とは何か」という問いについてです。生涯学習の究極の目標は、おそらく今日お話いただいたようなコーディネーターやリーダーがいなくてもそういうことができるような地域や社会を構築していくことではないかと思います。でも、現状ではリーダーや、コーディネーターが必要とされています。限りなくリーダーやコーディネーターの力が不要な社会を作ることは、日本ではもう不可能なのではないでしょうか。例えば、塩原の子供たちが遊んでいる風景が講演の中でありました。あの環境の中で、昔だったら多分、子供たちは自分で遊びます。今は、危険性という観点から親御さんも川になんか行くなとおっしゃると思う。だからああやって大人がカヌーを持ってきたり、いろんなことを提供してくれています。生</p>

<p>講師</p>	<p>生涯学習を標榜するのであれば教育を含めて、外国旅行のコーディネーターの後ろにくっついて行くような人たちばかりを作るのではなく、旗を持てる人を限りなく増やす努力をしなければならないのではないのでしょうか。</p> <p>先生の話されていることおっしゃる通りですが、その進み方がこれからの日本を本当に幸せにしていくのかと今思っています。教育のあり方も全く同じです。先生たちが立派な教育をしてくれて、子供たちは一生懸命それを頭に入れる。そろそろそういう方法から方向転換していくことは難しいのでしょうか。先生のたくさんの経験の中から、一言お願いします。</p> <p>難しいなと自分でもしゃべりながら思っています。最初に遊びの話が出てきた中で、私の知り合いが言っていた興味深い話があって、幼稚園の先生に5歳ぐらいの子供が、「先生私遊んできていい？」と聞いたそうです。一見何が不思議かわかりませんが、なんで遊ぶのに許可を取るのだらうという話になりました。</p> <p>遊びとは本来自由で、自分で好きなことをその目の前にあるもので自分なりに楽しむものであるはずなのに、何でこの子は先生に許可を取るんだらうと、その人は衝撃を受けたそうです。</p> <p>先ほど平成期の話で生涯学習振興という話をしましたが、その頃は、何か仕組みとかサービスをつくれれば何とかなるという価値感があったのかなと思っています。</p> <p>例えば、人材バンクといったものがまさにそうで、何</p>
-----------	---

	<p>か興味を持った人たちがとりあえず登録しておけば、何かそういう人達を必要とする人が現れて、うまくマッチングできるだろうと思って、いろいろなところで人材バンクといったものが増えたのかなと思います。ですが、登録する人も人だし、お願いしたいっていう人も人なので、そこにいろいろな人間的なやりとりが介在するはずなのに、それをなぜインターネット上で何とかしようということになっちゃったのかなと思います。</p> <p>今までの時代は、仕組みだけを整備して、そこをつなぐ人とか、そういう部分、人材育成はやってこれなかったのではないかとお話を聞いて改めて思ったところでした。そういう意味では、これからの方向性として、AIとか、いろいろな情報がある中でも情報を取捨選択し、どういうふうによく活用するかとういった部分にはまだまだ人の力が必要だと思います。何か教えるというのではなく、導くとか、後押しするというような人材が、これから特にこの社会教育行政の中では、育てていく必要があるのかなと思いました。ありがとうございます。</p> <p>武田会長</p> <p>はい。ありがとうございます。そうしましたら残りお1人とさせていただきます。</p> <p>長橋委員</p> <p>つくば市 PTA 連絡協議会の長橋と申します。PTA は、色々な提案、企画、運営、実施する組織なので、今日の会議のような場所でいろいろ勉強させていただいていますが、先生に1つお伺いしたいことがあります。</p>
--	--

<p>講師</p>	<p>先日「地域を育む孤立ゼロプロジェクト」という県の催事がありまして、研修で学ばせていただいたのですが、そこで居場所づくりをやっている団体の方がいろいろお話しされていました。その中で活動を続けていくことが非常にハードルが高い、大変だというお話をされていて、参加者の方から、それをどういうふうに解決したらいいのかなという質問が出たときに、地域には、社会教育委員とか、ここでは生涯学習審議員ですけれども、そういう方がいるのでそういう方に相談してくださいという回答がありました。つまり、我々に相談されるということで、あれ、私は勉強しに行ったのに、逆に相談される側になってしまったなと思って、すごく混乱しました。</p> <p>先生が講演の最初の方に、続けることは考えなくていいということをおっしゃっていて、すごくスッキリしたような気がするのですが、お聞きしたいのは、イベントなどを立ち上げて、立ち上げっ放しはよくないとよく言われますが、それでもやったほうがいいのか、それともちゃんと人材育成するような、運営をちゃんとできるようなところまで持って行って開催した方がいいのかということですか。どちらの方がいいのでしょうかということをお伺いさせていただきます。</p> <p>解散とか、やめるとかって簡単には言うけれども、なかなか難しいなというところがあると思います。</p> <p>特に居場所とか、子ども食堂とかそういうふうなもの</p>
-----------	---

	<p>は、自分たちの都合でやめるとそれを必要としてる人たちも一方にいるので、やめ方はなかなか難しいなと思います。</p> <p>様々な活動を担ってくれるような人が生まれてくる辺りで、自分の活動を今後どうしようかなと振り返ったりとか見直したり或いはやめる決断をしたりするのかなと思います。現実では、いろいろな対象の方、関係性があることを踏まえた上での決断になると思っています。歯切れの悪い回答で申し訳ありませんがそう思っています。</p>
長橋委員	<p>ありがとうございます。現在存在する団体とかにまず参加してみて、そこでいろいろ人の繋がりを持ってというところから始めるのが現実的なのかなと受け取りました。</p>
講師	<p>そうですね。さきほど NPO が 5 万件もある、25 年で 5 万できたと言いましたけれども、それは結局、既存の団体に参加した人たちがまた新しい団体を別に作ってという動きがあった結果だと思います。私たちが子ども食堂を小さな人口、1 万 2,000 人の町で、6 年くらいやっていたら、最近私たちももっと自分の近所でやりたいという新しい人たちが出てきました。その人達はその人たちでまた違う地域、同じ町内の違う地域でやっていたいています。そういうことも、偶発的かもしれませんが最近思っていたところです。</p>

<p>長橋委員</p>	<p>ありがとうございました。</p>
<p>武田会長</p>	<p>本来であれば、全員から御発言いただきたいところですが、時間の関係で、大変申し訳ないんですけどもここまでとさせていただきます。</p> <p>事務局の方で、スクリーンにキーワードを拾っていただいていますのでまとめさせていただくと第2世代第3世代、そういった次世代をどういうふうに育んでいくのかというようなこと、地域のネットワークづくりというお話もありました。その1つとしてコミュニティ・スクールの話があったり、あとは働いている世代の準備運動期間というお話もあったかと思います。次にシンボルを核とした地域づくり、「旗」を持てる人材、それを後押しする人材というキーワードもありました。</p> <p>こういったものは、つくば市生涯学習推進基本計画における大事なキーワードという気がしております。</p> <p>土崎先生、最後にコメント等ございましたらぜひお願いさせていただきます。</p>
<p>講師</p>	<p>今日は貴重な機会をいただきありがとうございました。去年の夏くらいに、守谷市で1度話したことがあって、守谷市もまだまだ人口が増えているということでした。栃木県内、宇都宮市もそうですが、人口が増え続けているところはほとんどなく、隣の県ですけれども状況が違うなとちょっとドキドキしながら聞いていました。</p>

	<p>今日お話を聞くとやはり、同じつくば市の中でもかなり状況が異なっているということで地域それぞれというところがあると思います。</p> <p>画一的にこういうことをやろうというよりは、基本は地域それぞれで、実情に合わせてやるべきだと考えています。その実情を考える中で、学校が1つシンボルになる、武田先生が最後まとめていただいたことに尽きると思われましたので、ぜひ様々な形で地域づくりが進むといいと思っています。ありがとうございました。</p>
武田会長	<p>ありがとうございました。以上をもちまして意見交換は終了とさせていただきます。本日予定されました議事はすべて終了しました。皆様、円滑な会議の進行へ御協力いただきましてありがとうございました。進行を事務局にお返しいたします。</p>
事務局	<p>武田会長、議事進行ありがとうございました。そして、改めまして講師の土崎先生には、非常に素晴らしい講演をいただきました。意見交換会にも御参加いただき、誠にありがとうございました。改めて皆様拍手をお願いいたします。ありがとうございました。</p> <p>その他といたしまして、今回は委員の皆様の説明すべき事項はございません。</p> <p>以上をもちまして令和5年度第2回つくば市生涯学習審議会を閉会いたします。なお、本会議の会議録につきましては、事務局で作成の上、委員の皆様を確認の依</p>

	<p>頼をさせていただく予定でございますので、どうぞよろしくお願いいたします。本日はありがとうございました。</p>
--	--

令和5年度第2回つくば市生涯学習審議会 次 第

日時 令和6年(2024年)3月12日(火)

午前10時から正午まで

会場 つくば市役所 2階 会議室203

1 開 会

2 教育長挨拶

3 議事

(1) 講演

演題「地域づくりの在り方と進め方」

講師：認定NPO法人 宇都宮まちづくり市民工房 常務理事 土崎 雄祐 氏

(2) 意見交換 「社会力育成とその成果としての地域づくり」

4 その他

5 閉会

【配布資料一覧】

- 資料1 講演に関するレジュメ(講師提供)
- 資料2 令和4年度第2回つくば市生涯学習審議会ディスカッション成果物
- 資料3-1 社会力育成に関する講座の取組状況について
- 資料3-2 令和3年度～令和5年度社会力講座チラシ
- 参考資料 つくば市生涯学習審議会条例
つくば市生涯学習審議会委員名簿

地域づくりの在り方と進め方



とちぎ市民
協働研究会



宇都宮まちづ
くり市民工房



いちかい子育て
ネット羽ばたき



青空プロジェ
クト THE DAY

- 一般社団法人とちぎ市民協働研究会 専務理事・事務局長
- 認定特定非営利活動法人宇都宮まちづくり市民工房 常務理事
- 特定非営利活動法人いちかい子育てネット羽ばたき 副理事長
- 一般社団法人青空プロジェクト THE DAY 業務執行理事
- 宇都宮大学地域デザイン科学部附属地域デザインセンター
コーディネーター

土崎 雄祐 (つちざき ゆうすけ) | 防災士・社会教育士

□なぜ、地域づくりなのか？：2018 年中教審答申から読み取れること

□栃木県内の地域づくりの事例：中山間地域活性化、子育て支援、地域学校協働活動

□地域づくりの推進に向けて：コーディネーション力を高めよう

Profile | 1988 年秋田県湯沢市生まれ。これまでに NPO 役職員や大学教職員などの立場で学生向け地域志向科目や市民向け講座のプログラム開発、自治体の職員研修の企画立案の支援などに従事。主著に『はじめての地域づくり実践講座：全員集合！を生み出す 6 つのリテラシー』（分担執筆）、『はじめての地域防災マネジメント：災害に強いコミュニティをつくる』（分担執筆）。公職として、那須塩原市男女共同参画審議会会長、佐野市市民活動推進委員会委員、とちぎ協働アドバイザーなど。趣味であるアイドル関係のフィールドワークが思うようにできないのが最近の悩みの種。

社会力を「発揮」するためのポイント

資料2

※令和4年度第2回つくば市生涯学習審議会において、出席委員が「社会力の『発揮』について」というテーマで意見交換をした結果をまとめたものです。

活動のサポート

長橋 行政
の立ち上げ
期の支援

根本 補助
事業による
組織・体制
化

佐野 支援
する力の重
要性

松村 行政
からの仕掛
け・発信

佐野 市の考え
方を市自身が
もっと伝えてい
くこと（出前講
座等の機会を活
用）

関係者のコミュニケーション、信頼関係

飯島 コー
ディネー
ション・合
意形成

木村 地域での
コミュニケー
ションの積み重
ね

田中依 お
互いに頼め
る関係

田中依 個
性を生かして活動して
いただく

当事者主体の活動

鈴木 運営
側も共に学
ぶことがで
きる環境

鈴木 当事
者が当事者
に向けての
活動

佐野 当事
者が自ら動
くことの重
要性

活動の開放性（閉じたメンバーでない）

根本 社会課題
だけでなく、幅
広く参加できる
形式

田中依 だ
れでも参加
できる開放
性

船橋 年1でも地
域に開かれた生
涯学習活動の実
施（障害者に
も）

「今」のニーズを掴んで動く

根本 現在
のニーズの
把握

飯島 社会
の状況の把
握

情報発信

木村 多様な人
材が活躍できる
ような情報支援
等

飯島
広報の
重要性

鈴木 SNS
による情報
発信

活躍する場を創出する

佐野 ポラ
ンティア育
成の先の場
が必要

佐野 思い
のある人の
活躍の場を
提供

参加者が主催者に回るサイクル

田中依 参加者
から主催者に
（テニスサーク
ル）

鈴木 参加
者が主催者
に回る関係

飯島 変容
の確認「
PDCAサイ
クル」

社会力を有した人材の育成に向けてのポイント

積極的に自ら動き、学びを深めること

若い世代の社会力育成

田中秀 高度な専門性を有した人材を社会力発揮の場に出てきてもらう事(つくばの特色)

木村 他者とのかかわりをおして、自らのこと・地域への理解を深める

星埜 多様な立場、新しい考えに触れることの重要性

星埜 学びの場などとにかく出ていくことが第一歩

金川 自ら関心を持って積極的に学ぶ姿勢

星埜 小学校～社会力の育成の重要性

長橋 発信力の高い高校生・大学生の活躍できる場の提供・連携

大人との関わりを通じた子供の社会力育成

金川 家庭を軸にした子供たちの育成

岡田 地域の大人が子供と一緒に関わる機会

社会力育成に関する講座の取組状況について

1 令和3年度取組状況

1) 全体テーマ

「世界のあしたが見えるまち」つくばの基盤となる社会力について考えよう！

2) 講座の目的

初年度として、「社会力」という考え方を広く周知し、つくば市における先進事例に触れながら、参加者に社会力の必要性や重要性を理解してもらうこと

3) 各回講座の概要（参考資料として講座チラシを添付）

タイトル	内容	参加者の声（抜粋）
つくば市内大学での社会力育成の取組み	基調講演、トークセッション、事例発表	義務教育終了までの段階で、児童生徒が「おとなは信頼できる」「助けてと言えば助けてくれる」「子ども（自分）を守ってくれる」体験を積み上げることが大切かなと思います。親（保護者）・担任以外のおとなと出会える場所をたくさん作ってあげたいですし、その場所は肩肘張らずに参加できる、ただそこに来るだけでいい（それがネット上の場所であっても）場であればいいなと思います。
地域を学びの場に社会力育てを目指すつくばね学	事例発表 現地見学（矢中の杜）	第1回、第2回に参加して、つくば市の地域性をもっとそれぞれに活かしていくための情報収集と人材確保が必要だと思いました。 つくば市の成り立ちを改めて見つめ、歴史的な観点と地域の成り立ちをもう少し大事に考えても良いのではないかと、とも思いました。
女性の社会力が地域を育てる	事例発表 現地見学（モーハウスショップ）	本日は、ご登壇頂きました、お二人の講義につきまして、深く共感し感銘を受けました。私1人が出来ることは、本当に小さな1歩でも、大きなムーブメントの一助になればと思い、私も1市民として、もっとつくばが輝くために活動して行きたいと考えております。
社会力を活かしたサステイナブルな地域活性化の取り組み	事例発表 トークセッション	先ず、話し合いの場に参加、もしくは場を作ってコミュニケーションをとることが大切であることに気づくことができました。

2 令和4年度取組状況

1) 全体テーマ

地域内外の社会資源を繋ぐ「社会力コーディネーター」を養成する

2) 講座の目的

様々な目的や分野での事業が効果的に行われるように、地域内外の社会資源（人・物・金・情報）を繋ぎ合わせる「社会力コーディネーター」を、つくば市内外で実践されているいくつもの先進事例を元に、社会資源の発見の仕方やその繋ぎ方のコツを学ぶことで養成する。

3) 各回講座の概要（参考資料として講座チラシを添付）

タイトル	内容	参加者の声（抜粋）
社会力コーディネーターを目指して！	基調講演、事例発表	すでに市内には、個々の取り組みは様々あるかと思います。今後、新しい仕組みの構築と共に、横の連携が課題かと思いました。つくば市には、同じ思いを持つ方や、多彩なスキルや経験を持つ方がたくさんいらっしゃるかと思います。
地域を幸せにするコーディネーション	トークセッション	内容が具体的で大変参考になりました。ひとりひとりを大切にして、求めない、大切と思う利害関係、大きなことを考えてまとめていきどこに行きつくかが大切だと考えた。
子どもの社会力を育てるためのコーディネーション	フィールドワーク 事例発表	このようなところに集まる機会がある事自体でコーディネーター同士が繋がり、輪が広がることから、継続してもらってはどうかと思う。まとまり過ぎないことも、つくばの良さと思う。その中で、情報提供の強化ができれば、今一步踏み出せない人にも届く活動、情報になるように思う。
スポーツの力を活かしたコーディネーション	事例発表 トークセッション	子どもたちがこれから中学校、高校生活を迎えるにあたり、部活動との向き合い方を考えることができました。また、仕事で高齢者の体操教室に出向く機会があり、参加者の方への対応、教室作りのヒントを伺うことができました。
地域メディアの社会力～声の力で地域をつなげるコーディネーション	フィールドワーク 事例発表 トークセッション	令和5年（2023年）2月25日実施

3 令和5年度取組状況

1) 全体テーマ

「社会力コーディネーター」に必要な実践的スキルを知り、学ぶ。

2) 講座の目的

前年度が先行事例の学習がメインであったことから一歩進め、自己を知ることや広報術等の実践的スキルについて学び、また、つくば市内の社会力をいかして活動する市民活動団体での「1日活動体験参加」による実践をとおして社会力コーディネーターを必要な能力を育てる。

3) 各回講座の概要（参考資料として講座チラシ等を添付）

タイトル	内容	参加者の声（抜粋）等
伝わる話し方と広報術	講義、ワークショップ	「とても」よかったです。相手の聞きたい話をするという事にハッと気付かされました。他にも広報の中身が同じでもイベント名で集客が異なる話など参考になりました。もっと具体的にいろいろ聞きたいと思いました。
協働の設計図を考えてみよう！	講義、ワークショップ	今回の「協働を可視化する」という作業は未経験の私には難しかったが、参加者の発表や意見、多様な考え方を聞いてとても勉強になった。活かせる様、心掛けて行きたいと思う。具体的にどうするか考える力というのは大切だと学びました。意見を聞く事の大事さも改めて感じました
子どもの社会での学びと成長 ※第3回から第5回は一連のプログラム	講義、ワークショップ	・子供に必要な社会力は大人にも必要だわかった。 ・すでに何度か参加されていふ方々、実際に活動されている方々の様々な意見や経験談をお聞きすることができたことは、とても衝撃的で、刺激を受けました。
1日活動体験参加	フィールドワーク	4団体に13名が活動体験参加を行った。第5回に各参加者が学びや今後の目標について発表を行った。
活動体験の振り返り＋交流会	ワークショップ	・第4回の実習で実際に活動されている市民団体の方の話聞いたことがとても良かった。個人ではなかなかきっかけが作れないが、今回のように講座で機会を作っていただけたことはとても貴重だった。 ・違ったアプローチで、それぞれの方々の意見や発表が聞くことができ、とても参考になりました。

令和3年度

「社会力」

一人と人がつながり社会を作るカー

全4回

講座シリーズ

「世界のあしたが見えるまち」つくばの基盤となる社会力について考えよう！

第1回

つくば市内大学での社会力育成の取組み

9月25日(土) 9:00~11:30

オンライン配信

事例発表

池田 幸也 氏 茨城キリスト教大学兼任講師
武田 直樹 氏 NPO法人フュージョン社会力
創造パートナーズ理事長
筑波学院大学、筑波大学、筑波技術大学卒業生

基調講演

社会力で『世界のあしたが見えるまち』
つくばを目指して

講師 門脇 厚司 氏

筑波大学名誉教授、筑波学院大学初代学長、
前つくば市教育長、「社会力」提唱者

第2回

地域を学びの場に社会力育てを目指す
つくばね学

10月24日(日) 10:00~12:00

同時配信
あり

会場 茨城県立筑波高等学校〔北条4387〕

武田 直樹 氏 / 筑波高等学校教員・生徒 / NPO法人”
矢中の杜”の守り人

第3回

女性の社会力が地域を育てる

12月5日(日) 10:00~12:00

同時配信
あり

会場 LALAガーデンつくば〔小野崎278-1〕

堀下 恭平 氏 (株)しびつくばわー代表 / 光畑 由佳 氏
(有)モーハウス代表 / 鷲田 美加 氏 (株)RION代表

第4回

社会力を活かしたサステナブルな
地域活性化の取組み

令和4年

2月6日(日) 14:00~15:30

同時配信
あり

会場 iriai tempo〔北条145〕

堀下 恭平 氏 / 渡辺 一洋 氏 筑波銀行常務執行役員
/ 橋永 貴郁 氏 iriai tempo番頭

申込方法

対象 つくば市在住・在勤の方

市ホームページから申し込み

「つくば市 社会力講座」

で検索



つくば市
ホームページ

	申込期限	会場定員 配信は80人
第1回	9月1日(水)~9月14日(火)	—
第2回	10月1日(金)~10月14日(木)	20人
第3回	11月1日(月)~11月25日(木)	20人
第4回	1月4日(火)~1月27日(木)	20人

- 参加を希望される方は、感染症拡大防止への各種対策にご協力をお願いします。
- 新型コロナウイルス感染症の状況により事業内容の変更・中止の場合があります。

問い合わせ

つくば市教育局生涯学習推進課
〒305-8555
つくば市研究学園一丁目1番地1
☎ 029-883-1111(内線4511, 4513)
Eメール: edc074@city.tsukuba.lg.jp



社会力コーディネーター を目指して！

オンライン同時配信

地域内外の社会資源を繋ぐ社会力コーディネーターについて考えよう！

「社会力コーディネーター」って？

様々な人が協力して、より良い社会を創り上げる力である「社会力」。社会力コーディネーターは、様々な目的や分野での事業が効果的に行われるように、地域内外の社会資源(人・物・金・情報)を繋ぎ合わせます。この講座では、つくば市内外で実践されているいくつもの先進事例を元に、社会資源の発見の仕方やその繋ぎ方のコツを学んでいきます。

日時

6月18日(土) 14:00~16:00

会場

イーアスホール〔研究学園5-19〕

基調講演

社会力コーディネーターに求められる 役割と必要な資質・能力について



講師 門脇 厚司 氏

「社会力」提唱者、筑波大学名誉教授、元つくば市教育長、初代筑波学院大学学長

事例発表

三鷹市でのコミュニティ・スクール推進における
コーディネーターの役割とこれまでの成果



四柳 千夏子 氏

三鷹市統括スクール・コミュニティ推進員
東京都三鷹市在住。
平成15年より、PTA会長、放課後子ども教室、まちづくり協議会等の活動を経て、平成21年より、地域ぐるみの教育を広げるために、学校と地域をつなぐ三鷹市のコミュニティ・スクール推進に関わる。
令和元年より現職。

今後の開催予定

	講座のテーマ	講師
8月 28日	地域を幸せにする	NPOフュージョン長池創業者 富永一夫 協力世界代表 松原明
10月 29日	子どもの社会力を育てる	つくば遊ぼう広場の会代表 五十嵐亨・泉 株式会社RION代表取締役 鷲田美加
12月 18日	スポーツの力を活かす	株式会社つくばFC代表取締役 石川慎之助 元筑波大学体育系教授 長谷川聖修 株式会社しびっくばわー代表取締役社長 堀下恭平
2月 25日	声の力で地域を繋げる	フリーアナウンサー 木村さおり つくばコミュニティ放送株式会社代表取締役社長 堀越智也 株式会社RION代表取締役 鷲田美加

※ シリーズでご参加いただくとより「社会力」、「社会力コーディネーター」についての理解が深まります！

申込方法



6月13日(月)までに
市ホームページまたは
窓口へ直接

定員 会場:50人
オンライン:80人

- 参加を希望される方は、感染症拡大防止への各種対策にご協力をお願いします。
- 新型コロナウイルス感染症の状況により事業内容の変更・中止の場合があります。

問い合わせ

つくば市教育局生涯学習推進課
〒305-8555
つくば市研究学園一丁目1番地1
☎ 029-883-1111(内線4510, 4541)
Eメール:edc074@city.tsukuba.lg.jp

地域を幸せにする コーディネーション

～協力のテクノロジーと「相利」に学ぶ～

*「相利」とは、関わる全ての人が、それぞれの幸せを追求できるようになること

「社会力コーディネーター」って？

様々な人が協力して、より良い社会を創り上げる力である「社会力」。社会力コーディネーターは、様々な目的や分野での事業が効果的に行われるように、地域内外の社会資源（人・物・金・情報）を繋ぎ合わせます。この講座では、つくば市内外で実践されているいくつかの先進事例を元に、社会資源の発見の仕方やその繋ぎ方のコツを学んでいきます。

日時

8月28日(日) 14:00～16:00

会場

〔つくば市高野1197-20〕

豊里交流センター 視聴覚室

トークセッション

オンライン同時配信

講師

富永 一夫 氏

NPOフュージョン長池創業者

講師

松原 明 氏

協力世界代表

今後の開催予定

	講座のテーマ	講師
10月 29日	子どもの社会力を育てる	つくば遊ぼう広場の会代表 五十嵐亨・泉 株式会社RION代表取締役 鷲田美加
12月 18日	スポーツの力を活かす	NPOつくばフットボールクラブ理事長 石川慎之助 筑波大学名誉教授 長谷川聖修 株式会社しびつくばわー代表取締役社長 堀下恭平
2月 25日	声の力で地域を繋げる	フリーアナウンサー 木村さおり つくばコミュニティ放送株式会社代表取締役社長 堀越智也 株式会社RION代表取締役 鷲田美加

8月25日(木)まで
募集延長します！

申込方法



8月19日(金)までに
市ホームページまたは
窓口へ直接

定員 会場:35人
オンライン:80人
応募者多数の場合抽選

抽選結果は8月24日(水)までに
メールでお知らせします。

- 参加を希望される方は、感染症拡大防止への各種対策にご協力をお願いします。
- 新型コロナウイルス感染症の状況により事業内容の変更・中止の場合があります。

※ シリーズでご参加いただくとより「社会力」、「社会力コーディネーター」についての理解が深まります！

問い合わせ つくば市教育局生涯学習推進課 〒305-8555 つくば市研究学園一丁目1番地1
☎ 029-883-1111(内線4510, 4541) Eメール: edc074@city.tsukuba.lg.jp

主催 つくば市・つくば市教育委員会

子どもの社会力を育てるための コーディネーション

遊べ！ 子どもたち

子どもが育ち、子育てをつなぐ場づくりを学ぶ

社会力コーディネーターとは、人々が協力してより良い社会を創るために、地域内外の社会資源（人・物・金・情報）を繋ぎ合わせる存在です。この講座では、さまざまな先進事例から、社会資源を発見し繋ぎ合わせるコーディネーションの基本を学んでいきます。

2022年10月29日(土) 10:00-12:00

場所 ▶ 子育て総合支援センター(多目的室) [つくば市流星台61-1]
流星台プレイパーク

フィールドワーク + 事例発表(オンライン同時配信)

*オンライン配信は事例発表のみとなり、10:30から開始します。



コーディネーター

わしだ みか
鷲田 美加 氏
株式会社RION代表取締役



講師

いがらし とおる・いずみ
五十嵐 亨・泉 氏
つくば遊ぼう広場の会代表

今後の開催予定

日程	講座のテーマ	講師
12月18日	スポーツの力を活かす	NPOつくばフットボールクラブ理事長 石川慎之助 筑波大学名誉教授 長谷川聖修 株式会社しびっくばわー代表取締役社長 堀下恭平
2月25日	声の力で地域を繋げる	フリーアナウンサー 木村さおり つくばコミュニティ放送株式会社代表取締役社長 堀越智也 株式会社RION代表取締役 鷲田美加

※ シリーズでご参加いただくとより「社会力」、「社会力コーディネーター」についての理解が深まります！

申込方法

10月20日(木)までに市ホームページから、
または生涯学習推進課窓口で

定員 ▶ 会場:20名 オンライン:80名
※応募者多数の場合抽選

抽選結果は10月25日(火)までにメールでお知らせします。

- 参加を希望される方は、感染症拡大防止への各種対策にご協力をお願いします。
- 新型コロナウイルス感染症の状況により事業内容の変更・中止の場合があります。

主催 つくば市・つくば市教育委員会

第4回

令和4年度「社会力コーディネーター」養成講座



世界の
あしたが見えるまち。
TSUKUBA

オンライン同時配信

スポーツの力を活かした コーディネーション

社会力コーディネーターとは、人々が協力してより良い社会を創るために、地域内外の社会資源（人・物・金・情報）を繋ぎ合わせる存在です。この講座では、さまざまな先進事例から、社会資源を発見し繋ぎ合わせるコーディネーションの基本を学んでいきます。

日時 12月18日（日）
10:00～11:30

会場 つくばFC万博グラウンド
クラブハウス

〔つくば市水堀550-1〕

事例発表 + トークセッション



講師
NPO法人 つくばフットボールクラブ
理事長 石川 慎之助



講師
筑波大学名誉教授
NPO法人日本Gボール協会理事長
長谷川 聖修



コーディネーター
(株)しびつくばわー
代表取締役社長
堀下 恭平



申込方法

12月13日（火）までに
市ホームページまたは
窓口へ直接

定員 会場：20人
オンライン：80人

※応募多数の場合抽選

抽選結果は12月15日（木）までにメールでお知らせします

- 参加を希望される方は、感染症拡大防止への各種対策にご協力をお願いします。
- 新型コロナウイルス感染症の状況により事業内容の変更・中止の場合があります。



次回の開催予定

	講座のテーマ	講師
2月 25日	声の力で地域を繋げる	フリーアナウンサー 木村さおり つくばコミュニティ放送株式会社代表取締役社長 堀越智也 株式会社RION代表取締役 鷲田美加

※シリーズでご参加いただくとより「社会力」、「社会力コーディネーター」についての理解が深まります！

主催 つくば市・つくば市教育委員会

問い合わせ
つくば市教育局生涯学習推進課
〒305-8555
つくば市研究学園一丁目1番地1
☎ 029-883-1111 (内線4510, 4541)
Eメール: edc074@city.tsukuba.lg.jp

地域メディアの社会力

～声の力で地域をつなげるコーディネーション

「社会力コーディネーター」って？

様々な人が協力して、より良い社会を創り上げる力である「社会力」。社会力コーディネーターは、様々な目的や分野での事業が効果的に行われるように、地域内外の社会資源（人・物・金・情報）を繋ぎ合わせます。この講座では、つくば市内外で実践されているいくつもの先進事例を元に、社会資源の発見の仕方やその繋ぎ方のコツを学んでいきます。

日時 2月25日（土）
10:00～12:00

場所 吾妻交流センター

つくば市吾妻1-10-1 つくばセンタービル4階

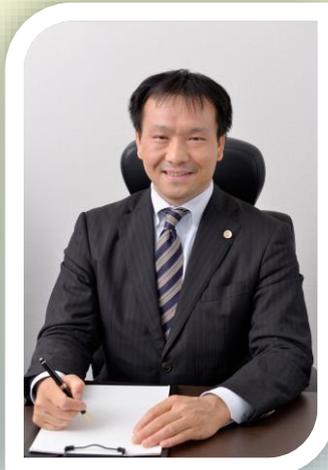
フィールドワーク+事例発表+トークセッション（オンライン同時配信）

オンライン配信は事例発表+トークセッションのみとなり10:30から開始します。

講師



フリーアナウンサー
木村 さおり氏



つくばコミュニティ放送(株)
代表取締役社長
堀越 智也氏

申込方法

2月20日（月）までに
市ホームページまたは
窓口へ直接

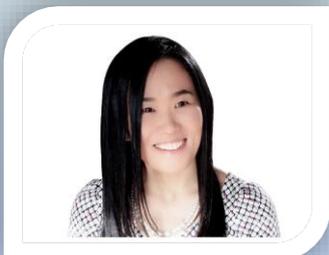


定員 会場:20人
オンライン:80人

抽選結果は2月22日（水）までにメールでお知らせします。

- ・参加を希望される方は、感染症拡大防止への各種対策にご協力をお願いします。
- ・新型コロナウイルス感染症の状況により事業内容の変更・中止の場合があります。

コーディネーター



(株)RION 代表取締役
鷺田 美加氏

問い合わせ

つくば市教育局生涯学習推進課
〒305-8555
つくば市研究学園一丁目1番地1
☎ 029-883-1111（内線4510, 4541）
Eメール:edc074@city.tsukuba.lg.jp

第1回 令和5年度「社会力コーディネーター」養成講座

伝わる話し方と広報術

自分の活動や「想い」を効果的にアウトプットする技術について学びます。
相手に伝わる「30秒自己紹介」を作成するワークショップも行います。



「社会力コーディネーター」って？



様々な目的や分野での事業が効果的に行われるように、地域内外の社会資源(人・物・金・情報)を繋ぎ合わせます。
この講座では、つくば市内外で実践されているいくつかの先進事例を元に、社会資源の発見の仕方やその繋ぎ方のコツを学んでいきます。



ボランティア活動等をしているけど、人前で話すのが苦手で、



相手に伝わりやすい自己紹介を学ぶことができますよ。



イベントをやっても人が集まらないんです。



広報のコツや役立つ広報ツールがわかりますよ。



経験の有無は関係ありません。ぜひご参加ください！

会場 つくば市役所
2階202会議室〔研究学園1-1-1〕

日時 6月28日(水) 18:30~20:30



講師 鷲田 美加 氏

株式会社RION代表取締役
NPOフュージョン社会力創造パートナーズ監事

教育事業会社RION代表として、人と人とのつながりの中で子どもを育み、成長しあえる暮らしと子育て&働き方を提案。
放送500回を超える、ラヂオつくばの教育番組「明日ノート」パーソナリティとしても活躍中。元つくば市教育委員。

今後の開催予定

第1回、第2回は1回で完結します(都度申込受付可)。第3回~第5回はシリーズで開催し、一括で申込を受け付ける予定です。5回まとめたの申込も可能です。

8月30日	第2回 協働の設計図を考えてみよう！~コーディネーションの見える化~ 講師:武田直樹(NPOフュージョン社会力創造パートナーズ理事長/『旅キャリ』代表)
9月24日	第3回 活動体験参加その1 子どもの社会での学びと成長 講師:松崎茂樹(NPOフュージョン社会力創造パートナーズ副理事長)
10月~1月	第4回 活動体験参加その2 受入団体での体験活動 ~モデルケースから学び取ろう~ コーディネーター:武田直樹、鷲田美加、松崎茂樹
2月18日	第5回 活動体験参加その3 体験活動の振り返り+交流会 講師:鷲田美加

お問い合わせ

つくば市教育局生涯学習推進課 〒305-8555 つくば市研究学園一丁目1番地1 ☎029-883-1111(内線4511) Eメール: edc074@city.tsukuba.lg.jp

主催 つくば市 つくば市教育委員会

申し込み方法

【定員】20人

(応募者多数の場合は抽選)

6月22日(木)までに市ホームページまたは窓口へ直接



参加を希望される方は、感染症拡大防止への各種対策にご協力をお願いします。

協働の設計図を考えてみよう！

～コーディネーションの見える化～

プロジェクトを推進するには、多様なステークホルダー(利害関係者)との協働が不可欠になります。この講座では、ステークホルダー間のより良いコーディネーションについて、皆さまの実践例を見える化して考えます。皆さまの事例や取組をお持ちよりください。

日時 8月30日(水)
18:30～20:30

会場 つくば市役所
2階202会議室〔研究学園1-1-1〕

講師 武田 直樹 氏



NPOフュージョン社会力創造パートナーズ理事長
『旅キャリ』代表

これまで筑波学院大学と茨城大学で学生の体験学習のために大学と地域とを繋ぐコーディネーション、NPOの活動として災害被災者と支援者を繋ぐコーディネーション、建設会社でのショッピングセンター開発におけるテナント・コーディネーション、など多様な立場でコーディネーションを行ってきた。プロジェクトの立上げとそのためのコーディネーションを得意とする。つくば市生涯学習審議会会長。

定員 20人 (応募者多数の場合は抽選)

申込方法 8月24日(木)までに
市ホームページまたは窓口へ直接
※参加を希望される方は、感染症拡大防止
への各種対策にご協力をお願いします。



「社会力コーディネーター」
って？



様々な目的や分野での事業
が効果的に行われるように、
地域内外の社会資源
(人・物・金・情報)を
繋ぎ合わせ、協力関係を作ったり、役割分担したり
する人のことをいいます。



それが大事なのは
わかるけど、
才能が必要なんじゃないの。



この講座では、
社会力コーディネーターの
役割を図解し見える化する
手法を伝えます。
自分を客観視するきっかけ
にもなります。
ぜひご参加ください！

今後の開催予定

第2回は1講座で完結します。
第3回～第5回は連続する講座のため、一括で申込を受け付ける予定です。第2回～第5回まとめての申込も可能です。

9月24日	第3回 活動体験参加その1子どもの社会での学びと成長 講師:松崎茂樹 氏(NPOフュージョン社会力創造パートナーズ副理事長)
10月～ 2024年1月	第4回 活動体験参加その2 受入団体での体験活動～モデルケースから学び取ろう～ コーディネーター:武田直樹 氏、鷲田美加 氏、松崎茂樹 氏
2月18日	第5回 活動体験参加その3 体験活動の振り返り+交流会 講師:鷲田美加 氏(株式会社RION代表取締役、NPOフュージョン社会力創造パートナーズ監事)

問合せ

つくば市教育局生涯学習推進課 305-8555 つくば市研究学園一丁目1番地1
☎ 029-883-1111(内線4511) Eメール:edc074@city.tsukuba.lg.jp 主催 つくば市教育委員会

子どもの社会での学びと成長



社会力育成のプログラムの実践例と講師の体験談、プログラムを推進する社会力コーディネーターを育てることが子どもの教育にどのようにつながるのかを学びます。また、第4回・第5回の体験参加に向けて、どの地域活動に参加をするかのマッチングを行います。

日時 9月24日(日) 10:00~12:00

会場 つくば市役所
2階201会議室〔研究学園1-1-1〕

講師 松崎 茂樹 氏

NPOフュージョン社会力創造パートナーズ副理事長

筑波学院大学の社会力育成プログラム1期生、元同大学地域連携コーディネーター。学生時代に力を入れた地域活動での実践経験を活かし、自身の進路と地域コーディネートについて活路を見出した。



申込方法

【定員】20人

(応募者多数の場合は抽選)

9月18日(月・祝)までに

市ホームページまたは窓口へ直接



「社会力コーディネーター」って？

様々な目的や分野での事業が効果的に行われるように、地域内外の社会資源(人・物・金・情報)を繋ぎ合わせ、協力関係を作ったり、役割分担したりする人のことをいいます。



今回は、何を学べますか？

実際に社会力育成のプログラムを経験者し、その後地域連携コーディネーターを行ってきた講師の成果を共有します。またグループワークを通して、社会力コーディネーターの意義や可能性について考えます。



今後の開催予定

10月~ 2024年1月	第4回 活動体験参加その2 受入団体での体験活動~モデルケースから学び取ろう~ コーディネーター:武田直樹 氏、鷲田美加 氏、松崎茂樹 氏
2月18日	第5回 活動体験参加その3 体験活動の振り返り+交流会 講師:鷲田美加 氏(株式会社RION代表取締役、NPOフュージョン社会力創造パートナーズ監事)

第3回~第5回は連続する講座のため、一括での申込となります。

問合せ

つくば市教育局生涯学習推進課 ☎ 305-8555 つくば市研究学園一丁目1番地1

☎ 029-883-1111(内線4511) Eメール:edc074@city.tsukuba.lg.jp

主催 つくば市教育委員会

つくば市社会力コーディネーター養成講座実践編

1 日活動体験参加

2023.09.24

実践編では、これまでの皆様の活動を、体験を通して振り返り、より進化していくために、つくば市内で活動するモデルケースとなる教育系市民活動団体で1日活動体験参加を行います。これにより、実践を通して社会力コーディネーターとしてのさらなるスキルを身に付けます。活動を受入れてくださる団体は以下ようになります。もちろん、これから活動を始める方でも大歓迎です。

以下の4団体9日間の活動の中から、第一希望から第三希望まで選んでいただき、調整のうえ、活動先を決定します。

○受入団体

1. つくば遊ぼう広場の会 冒険遊び

活動内容：毎月第一、第三土曜日に行っているプレイパークでの子どもとの冒険遊び（準備・後片付け含む）を行います。

日程：10/7（土）、12/2（土）各日9時30分～15時（雨天中止）

場所：流星台プレイパーク（つくば市子育て総合支援センター近く）

受入人数：各日最大4人

2. 竹園土曜ひろば ランチ交流会

活動内容：毎月第三土曜日に行っている子ども食堂「竹園土曜ひろば」の運営補助（準備・後片付け含む）を行います。

日程：10/21（土）、11/18（土）各日10時30分～15時30分

場所：つくば市竹園交流センター

受入人数：各日最大3人

3. NPO 法人茨城 YMCA

1) 茨城 YMCA インターナショナル・チャリティーラン

活動内容：障がいのある子どもたちをサポートするために毎年チャリティーランを実施し、70名程のランナーが走ります。ボランティアは会場設営、コース整備、障がいのある子どもが走るサポートを行います。

日程：11/11（土）7時～15時頃（大雨の時のみ中止）

場所：洞峰公園グラウンド（つくば市二の宮 2-20）

受入人数：最大15人程度

2) 放課後等デイサービス「ひかりの子」

活動内容：平日毎日行っている放課後等デイサービス「ひかりの子」での知的障がいのある子

どものケアを行います。対象は6才～15才の児童・生徒です。

日程：11/22（水）14時～19時

場所：NPO 法人茨城 YMCA 東新井センター（つくば市東新井 24-7）

受入人数：最大2人

4. NPO 法人ままとーん ままとーんつどいの広場

活動内容：つくば市子育て支援拠点のひとつで、親子で気軽に学べる、リフレッシュできるイベントを毎週月曜、火曜、木曜日開催。子育て真っ最中のスタッフが企画運営しています。ボランティアは、赤ちゃんやママとの交流を行います。

日程：10/23（月）,10/24（火）,10/26（木） 各日 9時30分～14時30分

場所：NPO 法人ままとーん（つくば市館野 604-3）

受入人数：各日最大2名

5. 原則は上記の団体への活動参加となりますが、どうしても参加してみたい市民団体等による活動がある場合、各自で受入団体を探し、交渉・実施

○留意事項

- ・受入団体決定後、NPO フュージョン社会力創造パートナーズより、当日の詳細をメールでお送りします。
- ・万が一、荒天で活動が中止になった場合には、別の日に再調整をします。実施が危ぶまれる際には、原則前日までにメールで御連絡します（イベントへの体験参加の場合、主催者の態度決定が当日朝となる場合がありますのであらかじめ御了承ください）。

以上

活動体験の振り返り ＋交流会

講師：鷺田 美加

今日の流れ



- 1 はじめに 本講座の目的と今後
- 2 活動体験発表
- 3 ワークショップ：
目標達成シート2の作成
- 4 交流
- 5 おわりに

つくば市生涯学習審議会委員

任期:令和4年8月1日～令和6年7月31日

参考資料1

No.	氏名	よみ	任命区分	備考
1	飯島 眞市	いいじま しんいち	市民委員	
2	石塚 一夫	いしづか かずお	各種団体等の代表者 つくば市シルバークラブ連合会 会長	交代(R5.6.12任命)
3	岡田 克司	おかだ かつじ	学識経験者 元学校長(手代木中学校長)	
4	木村 清隆	きむら きよたか	市議会議員	
5	佐野 洋子	さの ようこ	市民委員	
6	鈴木 朱里	すずき あかり	各種団体等の代表者 NPO法人ままとーん 代表理事	
7	関 瑞穂	せき みずほ	市民委員	
8	武田 直樹	たけだ なおき	学識経験者 NPO法人フュージョン社会力創造パートナーズ理事 理事長	
9	田中 秀夫	たなか ひでお	各種団体等の代表者 つくば市文化協会 会長	
10	田中 依子	たなか よりこ	市民委員	
11	中嶋 修	なかじま おさむ	各種団体等の代表者 青少年を育てるつくば市民の会 会長	交代(R5.6.12任命)
12	長橋 進也	ながはし しんや	各種団体等の代表者 つくば市PTA連絡協議会 顧問	
13	根本 典子	ねもと のりこ	市民委員	
14	萩原 武久	はぎわら たけひさ	各種団体等の代表者 つくば市スポーツ協会 会長	
15	平野 浩之	ひらの ひろゆき	各種団体等の代表者 つくば市学校長会	
16	船橋 秀彦	ふなばし ひでひこ	各種団体等の代表者 つくば市福祉団体等連絡協議会 副会長	
17	星埜 祥子	ほしの しょうこ	各種団体等の代表者 子育て休憩室・ほっとステーションオアシス	
18	溝上 智恵子	みぞうえ ちえこ	学識経験者 筑波大学 客員教授	
19	山崎 誠治	やまざき せいじ	各種団体等の代表者 つくば市ボランティア連絡協議会世話人代表	交代(R5.6.12任命)

敬称略、50音順

- ※つくば市生涯学習審議会条例第3条第2項
委員は、次に掲げる者のうちから市長が任命する。
- (1) 市議会議員
 - (2) 各種団体等の代表者
 - (3) 学識経験者
 - (4) 市内に在住し、在勤し、又は在学するもの

〇つくば市生涯学習審議会条例

平成5年6月25日
条例第25号

(設置)

第1条 市民が自己を高めるため、生涯にわたり社会のあらゆる領域で自発的、自主的に行う学習活動(以下「生涯学習」という。)の振興に関する施策を総合的に進めるため、つくば市生涯学習審議会(以下「審議会」という。)を設置する。

(所掌事務)

第2条 審議会は、市長の諮問に応じ、次に掲げる事項について調査審議し、答申する。

- (1) 生涯学習を振興するための施策の総合的な推進に関する事項
- (2) その他生涯学習の推進に必要な事項

(組織)

第3条 審議会は、委員25人以内で組織する。

2 委員は、次に掲げる者のうちから市長が任命する。

- (1) 市議会議員
- (2) 各種団体等の代表者
- (3) 学識経験者
- (4) 市内に在住し、在勤し、又は在学する者
(平9条例43・平30条例29・一部改正)

(任期)

第4条 委員の任期は、2年とする。ただし、委員が欠けた場合における補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

2 委員は、再任されることができる。

3 前条第2項第1号又は第2号に規定する者で当該職又は地位により委員に任命されたものが当該職又は地位を離れたときは、委員の職を失うものとする。

(平9条例43・一部改正)

(会長及び副会長)

第5条 審議会に会長及び副会長を置く。

2 会長及び副会長は、委員の互選によって定める。

3 会長は、会務を総理し、審議会を代表する。

4 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるとき、又は会長が欠けたときは、その職務を代理する。

(平9条例43・一部改正)

(会議)

第6条 審議会の会議(以下「会議」という。)は、会長が招集する。

2 会長は、会議の議長となる。

3 会議は、委員の過半数が出席しなければ開くことができない。

4 会議の議事は、出席委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、会長の決するところによる。

(部会)

第7条 審議会に、専門の事項を調査するため、必要に応じて部会を置くことができる。

2 前項の部会の委員は、審議会の委員のうちから審議会が選任する。

(委任)

第8条 この条例に定めるもののほか、審議会の運営に関し必要な事項は、審議会が定める。

附 則

この条例は、公布の日から施行する。

附 則(平成9年条例第43号)

この条例は、公布の日から施行する。

附 則(平成30年条例第29号)

この条例は、公布の日から施行する。